

14. 2ハ-45口



1200501165232

45口

愛知縣水産試験場業務概報
昭和四年度



始



昭和二年 度

愛知縣水產試驗場業務概報

昭和 二 年度 愛知縣水產試驗場業務概要

目次

第一 漁撈部	一、經釣漁業試驗.....	一
	二、鮪延繩漁業試驗.....	一五
第二 製造部	(一)試驗	三
	一、海苔加工試驗.....	三
	二、養干改良竈試驗.....	三
	三、自動蝦煎餅製造試驗.....	三
	四、雜製造試驗.....	三
	(二)指導	三
	一、海苔製造指導.....	三
	二、罐詰製造指導.....	三
	三、雜製造指導.....	三
第三 養殖部	一、鱒增殖事業.....	四
	二、小鮎放流事業.....	七
	三、公魚探卵孵化放流事業.....	三
	四、鮎人工孵化放流事業.....	三



昭和二年 愛知縣水産試験場業務概報

第一、漁撈部

一、鯉釣漁業試験

一、試験計畫

試験船白鳥丸(六九噸九九、百三十馬力ディーゼル機關付)ニ本場職員一名ヲ監督トシ船長、運轉士、機關長、機關士、無線電信手、水夫長、漁撈手各一名、水夫二名、油差三名、漁夫十七名計三十名乘組ミ和歌山縣沖合ヨリ岩手縣沖合迄ノ海區ニ於テ操業ス

二、試験經過

四月二十五日第一回出漁以來三十航海ヲナシ九月二十九日終了セリ其間初メハ南灘波近海ヲ漁場トシ順次七浦沖、銚子沖ニ移リ七月中旬ヨリ三陸方面ニ出漁セリ
前シテ鯉一萬二千八十四尾(一尾賣セシモノ)及一萬八百八貫九百匁(目方賣セシモノ) 鮪三十三尾(一尾賣セシモノ) 及百二十五貫九百匁(目方賣セシモノ) 他ニシイラ五尾ヲ獲、總漁獲金高一萬五千九十一圓四十一錢九厘トナリ總手取金一萬三千八百八十四圓五錢ヲ揚ゲタリ

即チ每航海ノ概要ヲ記セバ次ノ如シ

(第一回) 四月二十二日午後四時四十三分三谷港出帆同夜鳥羽碇泊、明クル二十三日餌場タル濱島ニ廻航、二十五日餌料積込後午後四時三十分出漁、麥崎並航針路ニテニトリ明クル二十六日午前七時迄航シコノ附近即チ南灘波近海ニテ魚群ヲ搜索ス、八時四十五分群ニ會ヒシモ餌付不良ナリ依テニ航スルコト二時間南灘波南西ニテ一群ニ會ヒ一時間餘釣リ

五、鯉兒放流事業..... 三

第四 講習部

一、發動機々關士養成講習..... 五

二、漁船内種運轉士養成講習..... 三

三、製造別科講習..... 元

四、海苔、蛸加工講習..... 〇

五、水産料理講習..... 〇

六、蛸罐詰製造講習..... 一

第五 淺海利用研究

一、牡蠣増殖試験..... 四

二、蛸増殖試験..... 七

三、伊勢灣蛸移殖試験..... 〇

四、瑪珂貝増殖試験..... 七

五、藻貝増殖試験..... 三

六、三河灣淺海利用適地調査..... 五

七、海苔増殖試験並調査..... 一〇

八、伊勢灣海洋觀測..... 二

第六 昭和二年度經費決算表

午後三時二十分ヨリ十分間釣リ後錢洲方面へ搜索シ八時ヨリ漂流ス、二十七日再ビ蘭灘波へ出動ス、午前九時十分釣初メ九時二十一分釣六百尾ヲ釣獲シ餌終トナリタレバ歸港ノ途ニ就ク、二十八日午前二時十五分濱島投錨漁獲物ノ販賣ヲナス

(第二回) 四月二十九日午後二時濱島出帆、前航ノ漁場ニ向フ三十日蘭灘波ヨリ八丈島附近搜索ス群ニ會ハズ明クル五月一日午前五日新黒瀬ニ着、六時三十五分ヨリ四十七分迄釣リ更ニ黒瀬ニテ十一時十八分ヨリ五十分迄釣リ約五百尾ヲ獲、餌料終了セシカバ濱島ニ向フ即チ二日午後二時三十三分歸港ス

(第三回) 五月四日午後六時二十五分出帆、七時三分餌場出漁麥崎ヨリ針路⁵⁰ニトリ明クル五日午前三時ヨリ乗り過グルヲ慮リ微速ニス、午前六時三十五分魚群ニ會フ即チ餌付良好ニシテ水温十八度五ノ海區ナリ前後三回ニ中鰹二千二百餘尾ヲ獲、午後五時十五分漁場出帆、六日午後二時十分濱島ニ歸港ス

(第四回) 五月七日午後五時十分濱島出帆、麥崎ヨリ前航同様針路ヲトル、明クル八日早朝ヨリ魚群ヲ搜索ス、午後〇時四十五分水温十九度六ノ海區ニ一時間半釣ル即中鰹二千六百尾餘ヲ獲、四時ヨリ歸港ノ途ニ就ク、九日午前八時四分濱島投錨漁獲物ノ販賣ヲナス

(第五回) 五月十日午後五時三十分出漁、十一日前航同一漁場ニ到リ搜索スレド餌付不良ニシテ漁獲無ク同夜ハ漂流、十二日更ニ探索スルト得ズ、加フルニ東風益々強クナリ針路北々西ニテ濱島ニ引返ス

(第六回) 東ノ方面不漁ナルヲ以テ西、潮岬方面ニ出動セムトス、即十六日午後五時三十分濱島出帆、十七日午前中潮岬沖ヲ探索ス、然レモ魚群ヲ見ズ止ムヲ得ズ同夜ハ勝浦ニ入港ス

(第七回) 五月十九日午前三時四十三分勝浦出漁、八時四十分ヨリ十一時十分迄三群ニ會ヒ約千二百尾ヲ得、而シテ根據地タル濱島ニ引返ス

(第八回) 五月二十三日午後四時五十分濱島出帆、麥崎ヨリ針路ヲ⁵⁰ニトリ例ノ漁場ニ出テ搜索ス、午前九時ヨリ十一時十五分迄二回ニ亘リ中鰹約一千一百尾ヲ釣ル、雨愈々烈シクナリ搜索困難トナリタレバ歸港ノ途ニ就ク、即チ明クル二十五日午前六時四十九分濱島投錨

(第九回) 五月二十五日午後五時三十九分濱島出帆、七時十五分麥崎ヨリ針路ヲ東南ニトリ二十六日午前四時四十五分ヨリ針路ヲ東ニ變ジ一時間後潮惡シクナリタレバ更ニ北東ニ變ズ、其後屢々針路ヲ變ジ搜索シ十時五十五分群ニ逢ヒ約百五十尾ヲ釣リ其後探索スレド群ヲ見ズ、同夜ハ漂流ス、二十七日午前五時四十分群ニ逢ヒ約二百尾ヲ釣リ更ニ探索スレド得ズ、午後一時三十七分ヨリ歸港ノ途ニ就ク午後八時十五分濱島ニ歸着

(第十回) 五月二十九日午後六時五分濱島出帆、三十日錢洲ヨリ蘭灘波附近ヲ搜索、群ヲ見ルモ何レモ餌ニ付カズ、其内天候惡シクナリタレバ三宅島ニ假泊ス、三十一日終日風強シ

明クル六月一日午前六時二十五分三宅島出帆、新黒瀬方面搜索スレド得ズ、御蔵島附近ニテ數十尾ヲ釣リタルノミ、更ニ錢洲ヨリ錦洲方面搜索シ錢洲附近大群ヲ見ルモ何レモ餌ニ付カズ、他方面ノ漁況ヲ調べ更ニ出漁セムト、午後二時四十五分濱島ニ歸港ス

(第十一回) 前航ノ失敗ニ鑑ミ今回ハ三木崎沖ニ出漁セントス、即チ六日午後五時五十分出漁、三木崎並航後南ニ針路ヲトリ七日早朝所謂潮合ヲ東ニ搜ス、風益々強クナリ視界甚ダ狭ク且船体ノ動搖甚ダシキヲ代テ斷念シテ午後四時二十分濱島ニ歸港ス

(第十二回) 六月九日午後四時十八分濱島出漁、麥崎並航後針路ヲ東南東ニトリ十日午前六時迄航ス、錢洲附近ニテ屢々魚群ニ會フモ何レモ餌ニ付カズ同日ハ錢洲ニ假泊、十一日錢洲蘭灘波附近ヨリ八丈島方面搜索スレド何レモ餌ニ付カズ同日ハ漂流ス、十二日モ前日同様搜索、錢洲附近ニ數十尾獲、十三日午前三時五十分鳥羽ニ投錨、十四日濱島ニ廻航ス

(第十三回) 六月十九日午後五時八分濱島出漁、二十日午後二時半頃錢洲着、群ニ會ハズ附近搜索後神津島ヨリ針路東微北ニトリ七浦沖ニ出動ス、明クル二十一日午前七時四十分迄出デシモ、潮ハ益々惡シク船ハ更ニ見ズ、餘義ナク引返ス即チ何等得ル所無ク二十二日正午頃濱島ニ歸港ス

(第十四日) 聞クバ濱島近海大漁ノ由、即チ二十三日午前四時二分出漁、然レドモ群ハ既ニ去リ僅カ七十尾ヲ獲タルノミ、同日午後六時五分歸港

(第十五回) 二十五日午前九時十九分濱島出漁同日午後數群ニ會フモ何レモ餌付不良ニシテ漁獲皆無今夜ハ漂流、二十六日モ前日同様群ニ會フモ餌付惡シク僅五十餘尾ヲ獲タルノミナリ、同日午後五時三十八分鳥羽入港、二十七日重油積込ノ爲メ三谷ニ歸港

(第十六回) 七月九日午前四時二十一分濱島出漁、麥崎沖ニテ群ニ會フモ餌付不良午後二時二百餘尾ヲ獲テ九時十分濱島ニ

歸港ス

(第十七回) 七月十一日午前四時二十二分濱島出漁、麥崎沖搜索スレド群ニ會ヒテモ餌付不良、同夜漂流、十二日更ニ搜索スレド獲ズ、即チ當地方ノ鯉魚ハ既ニ終リタルモノトシ三陸沖合ニ出漁セムト決シ同日午後七時四十五分三谷ニ歸港、諸準備ヲナス

(第十八回) 三陸出漁準備完了、七月十五日午後二時十九分三谷出帆、同夜の矢投錨十六日餌料補給後群ヲ探シツ、東航ス午後二時頃大王崎沖二十五哩附近ニテ二百尾獲テ餌料終リタレバ下田ニ向フ、十七日午前二時四十五分下田投錨

(第十九回) 同日種々交渉ノ結果辛ジテ僅カ氷三噸ヲ購入、午後五時五十分下田出帆、餌料積入シ銚子沖ニ出漁、十八日夜漂流十九日午前十時三十分百五十尾ヲ釣リ午後三時二十分ヨリ二回ニ數百尾ヲ釣リ同夜其儘漂流、明クル二十日午前四時半船首近クニ大群ヲ發見、釣獲スルコト千數百尾、然レドモ水少キヲ以テ之ニテ打切り、後ハ丁後來合ハセタル燒津船ニ譲リ目的地タリ壩釜ニ向フ、二十一日午前六時十五分壩釜投錨

(第二十回) 七月二十二日午前十一時十八分壩釜出帆、餌物ニ廻航ス、午後六時三十分女川投錨、二十三日女川ニ餌無ク出島ニ廻航、二十四日餌積込ミ午前十時出島出帆、金華山ヨリ針路ヲ南々東ニトリ航進ス、二十五日午前六時十五分鯉群ニ會フモ餌ニ付カズ東ニ航ス、午前九時十五分ジンベ付鯉群ニ會フ十時四十分終了、午後一時再ビ群ニ會ヒ二時間釣リ大小總計約四千尾獲タリ後壩釜ニ向フ、二十六日濃霧ノ爲メ入港遅レ午前九時五分壩釜ニ投錨ス

(第二十一回) 七月二十七日午後一時五分壩釜出帆、荻濱ニ餌ヲ得ント午後三時五十七分入港ス、荻濱ニ無ク二十八日出島ニ廻航ス、此所ニモ船越ニモ無ク、止ムヲ得ズ碇泊、三十日漸ク出島ニ得テ午後〇時四十五分出漁、金華山ヨリ針路ヲ南東ニトリ明クル三十一日午後一時十五分ヨリ三十五分間釣リ大小八百尾ヲ釣リ同夜ハ附近ニ漂流ス、八月一日早朝ヨリ附近ヲ搜索ス、午前十時四十分ジンベ付群ニ會ヒ鯉大小九百五十餘尾、小鮪三十二尾ヲ釣リ餌料終了セシヲ以テ此度ハ石卷ニ向フ、二日午前十一時五十分石卷投錨ス

(第二十二回) 八月四日午前十時十六分石卷投錨出島廻航、五日氣仙沼ニ廻航、六日氣仙沼ト出島ニテ餌ヲ得同日午後四時二十五分出島出漁、港口ヨリ針路ヲ東ニトル、明クル七日午前七時四十五分ジンベ付群ニ會ヒ十時十分終了迄ニ鯉大小約三千尾、小鮪三十餘尾ヲ獲、壩釜ニ向フ、八日午前五時三十分壩釜入港ス

十日ヨリ十三日迄舊盆ノ爲メ休漁シ餌物ヲ調査ス

(第二十三回) 八月十四日大船渡ニ餌ヲ得テ午後四時四十九分出漁、針路ハ東ニトル明クル十五日午前六時四十七分大船渡港口ヨリ百浮水温二十五度ニノ海區ニテジンベ付鯉群ニ會セ釣初ム八時二十五分終了、鯉約三千三十尾ヲ獲タリ、十六日午前五時二十三分壩釜ニ投錨ス

(第二十四回) 八月十七日午前四時四十七分出帆、金華山附近ニテ濃霧ニ會ヒ豫定ヨリ遅レ午後三時四十五分大船渡入港、十八日午後四時四十分出漁、綾里崎並航後針路ヲ東微北ニトリ航進ス、明クル十九日午前六時二十五分綾里崎東微北九十哩水温二十四度ニノ海區ニテジンベ付ニ會ヒ一千三百尾ヲ得、午後二時五分鯉東九十哩、水温二十五度五ニテ百七十尾ヲ得、餌料終了セシカバ壩釜ニ向フ、二十日夜ハ石濱錨地ニ假泊二十一日早朝壩釜ニ入港ス

(第二十五回) 八月二十二日午後〇時五十分出帆出島ニ航ス、二十三、四日ヲ餌ノ爲メ待ツ、二十五日午後〇時五十分出島出漁、二十六日午後二時十分宮古口北東微東九〇哩、水温二十四度ノ海區ニテ鯉三千三百尾ヲ得、午後三時十分久慈沖八十五哩ニテモ釣リ餌料終了セシヲ以テ壩釜ニ向フ、二十七日石濱錨地假泊二十八日早朝壩釜ニ入港ス

(第二十六回) 八月三十日午前五時三十分壩釜出帆、午前十時二十分出島入港、九月一日餌料ヲ得午後一時二十分出漁セシモ四時半天候險惡ヲ認メ大船渡ニ避難ス
四日天候恢復ヲ待チ午前五時三十六分大船渡出漁ス、午前十一時十分大船渡東四十哩、水温二十度七ノ海ニテ約二百餘尾ヲ獲テ午後十時十五分大船渡入港漁獲物ノ販賣ヲナス

(第二十七回) 九月六日午前五時五十分大船渡出漁、綾里崎ヨリ東ニ航ス、群ニ會フモ餌付不良、同夜ハ漂流、七日搜索スルモ群ニ會ハズ且船員中ニ脚氣患者ヲ生ジ同日午後壩釜ニ入港、天候ヲ待チテ斷然引揚ト決ス、即十一日午前五時五十分壩釜出帆、十二日午後八時七分浦賀投錨、十三日早朝浦賀出帆、夕方清水入港、十五日午後〇時四十七分清水出帆、十六日午前四時十八分三谷投錨

(第二十八回) 九月十八日午前八時三十分三谷出帆、濱島廻航、二十一日天候恢復即午前五時濱島出帆、大王崎南三哩、水温二十四度六ニテ鯉三百六十三尾ヲ釣ル、午後六時三十八分歸港

(第二十九回) 九月二十三日午前五時四十二分濱島出帆、大王崎南四哩附近水温二十五度五ノ海區ニテ鯉百六十九尾ヲ得、

午後三時十六分歸港
 (第三十回) 九月二十四日午前五時四十五分濱島出帆、間崎ニ餌ヲ積ミ出港、大王崎西六湮半御座崎南七湮ニテ鯉二百八十尾ヲ餌リ歸港ス
 其後餌鯉ノ補給困難ニシテ出漁不可能ナリ依ツテ二十九日試験終了ス

漁業表

月日	天候	漁場符號	漁場位置	漁具使用時間	回数	水面水温	餌料種類	種類	漁獲數量	一尾平均價	物格	摘	要
四月二十二日	B	W											午後四時四十三分三谷港出帆 八時五十分鳥羽投錨
二十三日	B	E											午前九時三十三分鳥羽出帆 午後一時三十五分濱島投錨
二十四日	B	W											飲料水、氷積込
二十五日	B	N											餌料積込 午後四時三十分濱島出漁
二十六日	B	E	イ	伊ナシ 附近		10.45-11.00 11.25-11.35 3.20-3.30							漂流
二十七日	B	SW	ロ	同		(9.40 9.21			五五	三五〇	四七、三五		午前九時二十一分漁場出帆歸港
二十八日	B	S											午前二時十五分濱島投錨
二十九日	B	S											餌料四コロリ積込 午後二時濱島出漁

月日	天候	漁場符號	漁場位置	漁具使用時間	回数	水面水温	餌料種類	種類	漁獲數量	一尾平均價	物格	摘	要
五月一日	B	NNW	ハ	新黒瀬 黒瀬		(6.35 6.41 11.18 11.50			四八	三〇	三三、三六		八丈島附近搜索スルモ魚群ニ會ハズ漂流 午後〇時十分漁場出帆歸港
二日	C	S											午後二時三十三分濱島投錨
三日	B	N											午後六時二十五分濱島出帆餌料積込 達七時三分出漁
四日	B	N											午後五時十五分漁場出帆歸港
五日	B	SW	ニ			6.35-7.10 7.47-8.20 4.55-5.10			二、二五	三〇	一、三三、三六		午後二時十分濱島投錨
六日	B	S											午後五時十分濱島出帆餌料積込 達五十分出漁
七日	C	S											午後四時十分漁場出帆歸港
八日	B	NW	ホ			(9.45 2.15			二、〇七	三五〇	一、三三、三六		午前八時四十分濱島投錨
九日	B	SE											午後五時三十分濱島出帆餌料積込 六時十分出漁
十日	R	E											魚群ニ會ハズ漂流
十一日	B	NW											高浪アリ 午後八時十四分濱島入港
十二日	B	E											

三十一日	三十日	二十九日	二十八日	二十七日	二十六日	二十五日	二十四日	二十三日	二十二日	二十一日	二十日	
B S 1	B SE 1	B S 1	B S 1	B SE 1	C SE 1	C E 1	B NE 2	B SW 1	B SSW 2	R N 1	C NW 2	
ソ						レ					タ	
一東金 三徽華 〇南山 湊						八南金 〇南華 湊東山						
1.15 1.50						9.15-10.40 1.00-3.00					4.30 5.00	
一						二					一	
26.2												
						シ 鯨					シ 鯨	
						九四六 二九二					二 〇五〇	
						五〇〇						
						一、九〇〇、八〇〇						
漂流												
	午後〇時四十五分出島出漁		午前九時二十分出島投錨 餌料買入ノ爲メ船越ニ廻航シタレ ドモ無。再ビ出島ニ歸港ス	午前九時二十分出島投錨	午後一時五十分獲蓋出帆 三時五十七分獲蓋投錨餌料ナク	午前九時五十分獲蓋投錨	終了後獲蓋ニ向フ	午前十時出島出帆餌料積込十時二十 五分出漁	午後一時十分女川出帆 一時四十五分出島投錨	午前十一時十八分獲蓋出帆餌場ナ ル女川ニ向フ午後六時三十分女川 投錨	午前六時十五分獲蓋投錨 漁獲物賣却	終了後獲蓋ニ向フ

十九日	十八日	十七日	十六日	十五日	十二日	十一日	七月九日	二十六日	二十五日	二十三日	二十二日
B WNW 1	F SW 2	B NW 1	B SSW 1	B W 1	B SW 2	B S 1	B SW 1	C SW 1	B S 2	B E 2	C E 2
田			カ				ソ	チ		ル	
一銃 八子 〇東 湊			五東大 湊微王 〇東崎 二東南								
320-4.00 5.30-6.00			1.00 1.40				2.00 2.10	7.00 11.00		1.40 2.30	
二			一				一			一	
24.5			26							21.5	
			マイ ソシ							マイ ソシ	
			鯨				鯨	鯨		鯨	
			二 〇五〇				二 〇五	五		六	
			二〇〇								
			一七、三一				二七、三九	三、六〇		五、七〇	
漂流											
	終子沖ニ向ケ航進中		午前二時四十分下田入港漁獲物 販賣後水、飲料水餌料積込午後五 時出漁	午後七時四十五分三谷投錨 燃料油滿載 午後二時十九分三谷出帆八時二十 四分の矢投錨	午後五時三十分の矢出漁餌料終了 後下田ニ向フ	午後四時二十二分出漁群ニ會ノモ 餌付不真漂流 搜索スルモ群ニ會ハズ 午後七時四十五分三谷投錨	午前四時二十一分濱島出帆 午後九時十分濱島投錨	午前十一時三十七分漁場出帆 午後五時三十八分鳥羽入港	午前九時十九分濱島出漁群ニ會フ モ餌付不良漂流	午前四時二分出漁 午後六時五分濱島投錨	午前十一時五十九分濱島投錨

二十五日	十三日	十二日	十一日	十八日	七日	六日	四日	九月二日	三十一日	三十日	二十八日	二十七日
B SE ₁	B SW ₁	B SW ₂	F SE ₁		B E ₁	C S ₁	C SW ₃	C NE ₁	C W ₂	R S ₃	R N ₁	R S/W ₁
							ウ					
							四大船渡東					
							11.10 11.30					
							—					
							20.7					
							マイリシ					
							鯨					
							一 三					
							〇〇					
							八、五五					
午後〇時四十七分清水出帆	午前五時十九分浦賀出帆 午後七時五十分清水投錨	午後八時七分浦賀投錨	引上ト決シ 午前九時五十分鹽釜出帆	事故休漁	午後三時十五分鹽釜投錨	午前五時五十分大船渡出漁同夜漂流	午前五時三十六分大船渡出帆 午後十時十五分大船渡投錨	午後一時二十分出帆 四時天候險惡大船渡避難	餌料ヲ待ツ	午前五時三十分鹽釜出帆 十時二十分出島投錨	午前五時五十五分鹽釜投錨	午後十時五十二分鹽釜港外假泊

十六日	C W 1						午前四時十八分三谷投錨
十八日	C W 1						午前八時三十分三谷出帆 午後二時二十三分濱島投錨
二十一日	B NNW2	#	大王崎南 西三湊	8.05 8.55	—	24.6	午前五時濱島出帆 午後六時三十八分濱島投錨
二十三日	B NNE3	/	大王崎南 西四湊	1.00 1.25	—	25.5	午前五時四十二分濱島出帆 午後三時十六分濱島投錨
二十四日	C E 3	オ	大王崎西 六五湊	11.30-0.05 0.55-1.20	ニ	25.4	午前五時四十五分濱島出帆 午後一時五十八分濱島投錨
二十九日							試験終了臨時漁夫解雇

一、鮪延繩漁業試験

一、試験計劃

試験船白鳥丸（六九噸九九三十馬力ディーゼル機附）ニ本場職員一名ヲ監督トシ船長、運轉士、機關長、機關士、無線電信手、水夫長、漁撈手各一名、水夫二名、油差三名、漁夫五名、計十八名ヲ乗船セシメ昭和二年十二月中旬ヨリ昭和三年二月初旬迄和歌山縣、三重縣沖合ニ出漁シ主トシテ中繩ヲ使用シトシテ鮪漁ヲ營マントス

二、漁具

大繩五十鉢ハ昨年度使用セシモノヲ補修シテ使用シ新ニ中繩六十鉢ヲ調製セリ其ノ構造左ノ如シ
 中繩一鉢分ノ構造
 幹繩材料 綿糸二十手百五本三ツ打（三百十五本）長百五十尋

枝繩 (トンボ用) 材料綿糸二十手四十五本三ツ打 (百三十五本) 長三尋九本
 口 元 材料ラミー二十手三十本燃、長一尋半九本
 枝繩 (大船用) 材料綿糸二十手百五十本三ツ打四百五十本、長五尋二本
 セキヤマ 長二尋二本
 ワイヤ 七本燃長一尋半

釣 トンボ釣 九本 大船釣 二本
 浮子繩 材料綿糸二十手、四十五本三ツ折 (百三十五本) 長二十尋 (但シ古品ヲ使用セリ)
 浮子 (桐丸太) ボンデン標旗其他ハ昨年來使用セシモノヲ補修シテ使用セリ

三、副 漁 具
 藤田式丁形、鮎延繩捲揚機一臺

四、餌 料

一航海ニ冷凍鳥賊二百尾、ウルメ鰯二樽、ヒラゴ鰯二樽ヲ準備シ鳥賊及ウルメ鰯ハ大船ニ、ヒラゴ鰯ハトンボ船ニ使用セリ
 五、試驗 經過
 白鳥丸鯨釣漁業終了後船体ノ修理漁具 (中繩) 製造等ニ日子ヲ費シ十二月十七日第一回出漁以來ノ大要ヲ摘録スベシ

(第一回) 十二月十七日午後九時三分三重縣尾鷲港出漁、十八日午後七時十五分三木崎南東、百十湊、表面水温二十二度ノ海區ニ大繩五十鉢、中繩五十鉢ヲ延べ天候險惡トナリタレバ午後四時揚繩開始ス、午後八時ヨリ西風強ク而モ降雨烈シクナリ、十時七分揚繩終了後直ニ尾鷲ニ向テ避難セントス、本日キハタ三尾、メバチ二尾、トンボ三尾、サメ二尾ヲ獲、十九日午後八時四十分尾鷲入港漁獲物ノ販賣ヲナス

(第二回) 勝浦沖四五十湊附近メバチ鮎相當漁ノ報告ニ接シ今回ハ其方面ニ出漁セムトス、即チ一月九日午前二時十分和歌山縣勝浦港出漁、勝浦口南東五十湊表面水温十九度九ノ海區ニ大繩五十鉢ヲ延べタレド正午頃ヨリ北ノ潮流猛烈ニシテ繩ノ切斷ヲ慮リ午後二時ヨリ揚繩開始、風浪猛シクナリタレバ終了後勝浦港ニ避難ス、本日ハトンボ二尾ヲ獲タルノミ
 (第三回) 一月十二日午後十時五十分勝浦出漁、梶取崎並航後南ノ針路ニテ航走十三日午前七時三十分表面水温十八度五ノ

海區ニ中繩六十鉢ヲ延べ晝間繩廻リ中ニトンボ約三十尾ヲ獲得ス、午後五時十五分ヨリ揚繩開始十時四十八分終了、總計トンボ七十四尾ヲ釣獲シ四時間潮上リシ漂流ス、明クル十四日午前七時ヨリ針路北ニテ三十五分航進シ中繩六十鉢ヲ延べ晝間繩廻リ中トンボ約四十尾ヲ得、午後四時揚繩開始七時四十五分終了、メバチ一尾、トンボ總計九十八尾ヲ得、餌料無クナリタレバ歸港ノ途ニ就ク、明クル十五日午後二時十分勝浦入港直ニ陸揚販賣ス

(第四回) 一月二十一日午後十時五分勝浦出漁、梶取崎並航ヨリ針路南ニトリ二十二日午前七時二十分水温十九度五ノ海區ニ中繩六十鉢ヲ延べタリシモ潮流猛烈ニナリ繩ノ切斷ヲ慮リ午後一時揚繩開始、午後五時終了シキハタ一尾、トンボ三尾ヲ得タルノミ天候險惡トナリタレバ勝浦ニ避難セムトス、二十三日降雨烈シキ中ニ午前九時四十三分勝浦投錨

(第五回) 一月二十五日午後十時十二分勝浦出漁、梶取崎並航後針路南ニトリ明クル二十六日午前七時表面水温十八度六ノ海區ニ大繩中繩ヲ混ジテ七十鉢ヲ延べタレドトンボハ既ニ沖合ニデモ去リタルモノ、如ク甚ダ稀薄ニナレリ附近ニ當業者ノ操業船ヲ見タルモ何レモ漁獲無カリキ、而シテ本船ノ獲タルハトンボ三尾ニ過ギズ、終了後漁場ヲ變ヘルベク八時五十分ヨリ針路北々東ニトリ五時間航進シ漂流ス、明クル二十七日午前七時三十三分投錨開始、水温十八度ナリ其内雨降り出シ天候刻々ニ惡シクナリ南西ノ風益々強クナリ午後〇時三十五分揚繩終了後尾鷲ニ避難、明クル二十八日午後十時十五分尾鷲投錨二十九日勝浦ニ廻港漁獲物ノ販賣ヲナス

(第六回) 前航海ニテトンボノ漁ハ望少キヲ以テ今回ハメバチヲ目的ニ近海ニ大繩ヲ使用セムトス、即チ二月二日午前三時三十八分勝浦出漁經島並航後針路南東ニトリ午前九時五十分水温十九度ノ海區ニ大繩五十鉢ヲ延べ、晝間繩廻リ中ニメバチ十貫内外ノモノ三尾ヲ揚ゲ二尾逸シタリ、而シテ午後五時七分揚繩開始、眞梶木二十貫位ノモノ一尾ヲ得タリ、同夜漂流明クル三日四十七鉢延べ午後五時三十五分揚繩開始、八時三分終了セシモウバサメ一尾ヲ得タルノミナリ、以上六回ノ試験ヲ以テ本船ノ都合ニ依リ中止セリ

六、漁 業 表

月日	天候	風向力	氣壓	氣温	漁場	漁具	漁場	水温	餌料	種類	數量	價格	記
十二月十七日	R	W	ニ	766	10								午後九時三分尾鷲出漁

三十一日	三十日	二十九日	二十八日	二十七日	二十六日	二十五日	二十四日	二十三日	二十二日	二十一日	二十日	十九日
B	B	C	R	C	B	B	C	R	C	B	B	B
SE 三	W 一	NW 二	N 四	S 三	SW 一	N 一	NE 二	NNE 四	NE 三	SE 一	NW 二	NW 一
767	765	756	754.5	76.3	772.5	767.5	762	772	775	775	773	768
8	7	10	16	18	15.5	13	13	10	13	7	8	11.5
				同	勝浦八口 南八口 浦				七 潮 岬 南			
				後前 〇七、 五三	後前 七、 五〇				後前 七、 〇〇			
				ホ	ホ				ニ			
				18	19				19.5			
				ウルメ	ウルメ				ロ ラ ゴ			
					ト ン ボ				ト キ ハ タ			
									三一			
					三				六 三 〇			
					一八、 四							
				天候悪シク避難	漂流	午後十時十二分勝浦出漁	漁具手入	午前九時四十三分勝浦投錨	揚繩終了後勝浦避難	午後十時五分勝浦出漁	同	勝浦碇泊

二月一日	二月一日	二月一日	二月一日
H	H	H	H
B	C	C	B
NW	NE	N	NW
	ニ	一	ニ
766.5	768.5	770	769.5
7	10	8	6
		五勝浦南東	
	後前 八、四〇	後前 九、五〇	
	ハ	ハ	
		19.5	
	ウ ラ ゴ	ウ ラ ゴ	
	ワ バ サ メ	マ カ ザ キ	
		一	三
		一 三 六 四 〇	
		午前 三時 三十八分 勝浦出漁	
		終了後 濱島ニ向フ	
		午前 四時 十分 濱島投錨	

第二、製造部

一、試験

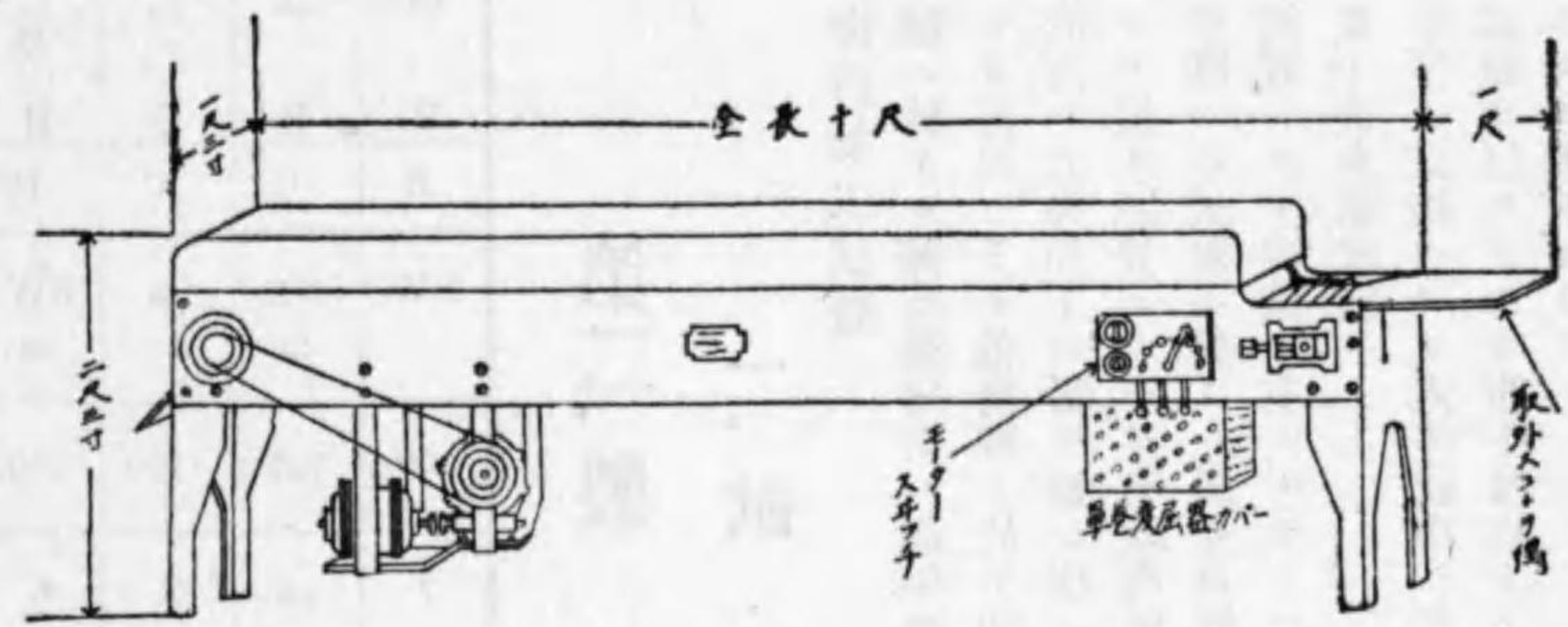
一、海苔加工試験

本縣ニ於ケル海苔養殖業ハ逐年増加シ年産額百萬圓ヲ突破スルノ盛況ヲ呈スルニ至レリ然ルニ製品ノ全部ハ何等加工スルコトナク移出セラレ他府縣ニ於テ佃煮、罐詰、焼海苔、味付海苔、其他各種ノ加工ヲ行ヒ再ビ本縣ニ移入セラレツ、アリ本縣ノ海苔ハ之等加工ニ最モ適シ現ニ加工品ノ大部分ハ本縣ノ海苔ヲ原料トシテ製産セラル、ガ故ニ本縣トシテ新業ヲ創始セシムルハ最モ必要ニシテ且有利有望ナル事業ナルガ故ニ本場ニ於テ基礎的試験ヲ行ヒ當業者ノ指導ヲナスコト、セリ

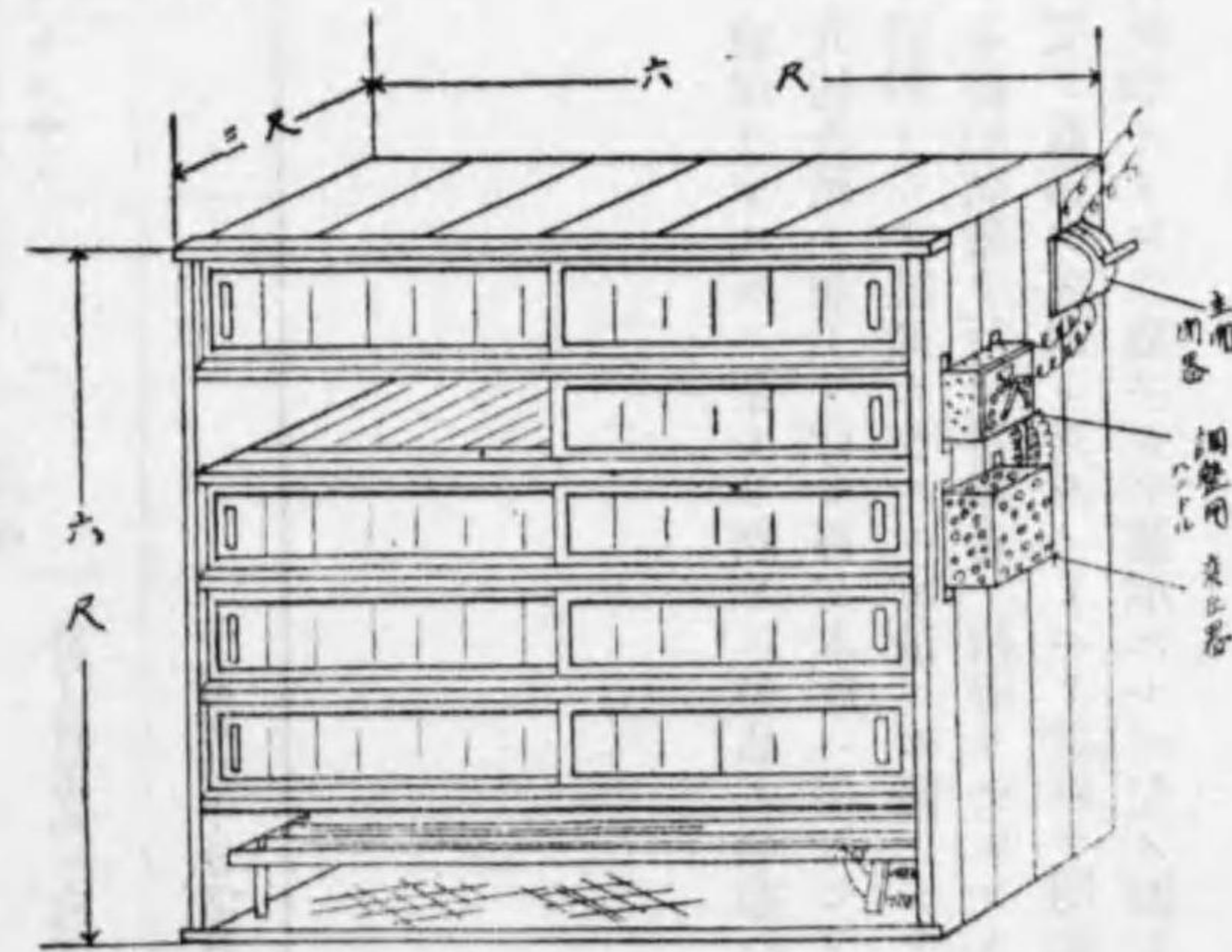
本年度ハ本試験ニ關スル調査及機械器具ノ選擇並ニ研究ニ時日ヲ要シ設備ヲ完成シタルノミニテ試験ヲ開始スルニ至ラザリキ設置シタル機械ノ主ナルモノハ電熱海苔焼機械一臺、電熱海苔乾燥ホイロ二臺ニシテ圖示スレバ左ノ如シ

二、煮干改良竈試験

昨年度ノ試験ニヨリ大体成功シタルガ故ニ本年度ハ昨年度ニ於テ改良シタル點ヲ層一層良好ナラシムル爲部分的ノ改造ヲナシ試験ヲ行ヒタルモ昨年度以上ノ成績ヲ修ムルヲ得ザリキ故ニ本試験ハ本年度ヲ以テ終了シ之ガ新設ヲ獎勵シ一般ニ普及セシムルコトトセリ



電熱海苔乾燥機



電熱海苔乾燥機(溫度調節式)

三、自動蝦煎餅製造試験

昨年度試験ノ結果ハ蝦あられ製造ニ刷新ヲ來シ自動的ニ大量ノ製産ヲアゲ得ルノ好成绩ヲ修メタルガ故ニ本年度ハ厚焼薄焼ヲ自動的ニ製造スル目的ニテ新シキ焼型ヲ作り試験ヲナシタルモ豫期ノ成績ヲ得ルニ至ラザリシガ故ニ引續キ之レガ研究及試験ヲナサントス

四、雜製造試験

大型罐詰製造試験
 蛸、蝦、王余魚煮、佃煮ハ製法ニヨリ長時日ノ貯藏ニ堪へ得ルト雖モ一ケ年ヲ通ジ何時ニテモ安全ニ貯藏シ得ルモノハ罐詰ニシカズ故ニ大量ヲ製産シ之レヲ保藏スルニハ大型罐詰ヲ必要トス、大型罐詰ハ熱ノ傳導容器ノ關係ニテ製造至難ナルガ故ニ各種基礎的試験ヲ行ヒタリ、之レガ成績ハ大体良好ナリシモ滿一ケ年ヲ經過セザル今日確タル成績ヲ發表シ得ザルガ故ニ後日改メテ報告セントス

一、指導

一、海苔製造指導

本縣ニ於テ製産セラル、海苔ハ品質良好ナルモ製造方法拙劣ノ爲之レガ眞價ヲ發揮スルヲ得ザルノ状態ニアルガ故ニ之レガ改善ヲ期スル爲三重縣桑名郡城南村ヨリ技術優秀ナル實業教師ヲ招聘シ海部郡飛島村ニ於テ戸々ヲ巡回實地指導ヲナサシメタリ

二、罐詰製造指導

幡豆郡吉田町ニアリテハKH型ホームシューマー、ヲ設置シテ罐詰製造ヲ開始シ寶飯郡御津村ニアリテハ直火式蒸氣釜ヲ設置シ罐詰ノ製造ヲ改善シタルガ故ニ之等機械ノ購入取扱方法並ニ製造方法ノ實地指導ヲナシタリ

三、雜製造指導

各種水産製造及之ニ關聯セル事項ニ就テ必要ト認ムルモノハ其郡度指導ヲ行ヒタリ

流ニ移殖放流セリ
 前者ハ捕獲尾數二萬一千尾餘捕獲率七〇%、後者ハ捕獲尾數一萬六千五百尾餘、捕獲率八三%ノ好結果ヲ收メ本事業ノ有利ナルヲ認メタリ概況下記ノ如シ

(一) 捕獲成績
 放流並捕獲表

放流月日	放流場所	放流尾數	捕獲尾數	價額	捕獲率	備考
四月七日	矢作川本流	20,000	3,105	8,019	7%	上流一部岐阜縣ニ跨リ同縣ノ捕獲多少アル見込ナルモ實數不明ナルヲ以テ捕獲尾數中ニ加ヘズ數量ハ名古屋問屋波シ一萬八千六百五尾、價額七千六百六十六圓ニシテ自家用ニ供セシモノ約二千五百尾アリ右ノ價額ハ名古屋波平均價額ニ換算シテ上記ノ價額中ニ加ヘタリ
四月九日	西加茂村小原村百月	20,000	16,566	不詳	83%	
四月二十日	豊川上流田内川北設樂郡田口町清崎	20,000	3,672	1	7%	
計		50,000	23,243			

(二) 成長度
 成長度表

放流河川名	放流月日	放流體長	放流體重	捕獲月日	捕獲體長	捕獲體重	自放流至		備考
							捕獲日數	體長增加	
矢作川本流	四月七日	7.5cm	3.7g	六月一日	18.0cm	55.5g	105日	10.5cm	成長度ハ矢作川ニ比シ河中水量共ニ少ク且ツ水温低キタメ成長速ル
同	四月九日	7.5cm	3.7g	八月九日	24.0cm	125.5g	105日	16.5cm	
豊川支流	四月二十日	7.5cm	3.7g	六月一日	16.0cm	55.5g	105日	8.5cm	
同	四月二十日	7.5cm	3.7g	七月一日	18.0cm	55.5g	105日	10.5cm	
田内川	四月二十日	7.5cm	3.7g	八月十日	23.0cm	125.5g	105日	15.5cm	

(三) 收支經濟

本年度天然鮎ノ不漁ナルト小鮎ノ放流期ガ自然鮎ノ遡上期ヨリ早キタメ自然物ヨリ著シク大形ニシテ且ツ自然鮎ノ如ク大小不同少ナク殆ド体型整一ナリシ等ノ事由ニ依リ漁期中ヲ通ジ價額ニ於テ自然産鮎ヲ壓倒シ且ツ捕獲率良好ナリシタメ極メテ好結果ヲ收メタリ

豊川上流田内川ニ於ケル放流鮎ハ價額不詳ナルタメ矢作川ニ於ケル收支經濟ヲ見ルニ左ノ如シ

移		殖		捕		獲		増		減		備考	
尾數	價額	單價	尾數	價額	單價	尾數	價額	單價	尾數	價額	單價	尾數	價額
20,000	594	一尾	3,105	8,019	一尾	△884	7,135	一尾	2,935	△			

附記 稚鮎運搬移殖試験

小鮎放流事業ト相俟テ河川ニ遡上スル天然産稚鮎ヲ河川ノ下流ニ於テ捕獲シ水利事業ニ伴フ工作物ソノ他ノ障害物ニ依リ天然鮎ノ遡上不能ノ上流河川ニ運搬移殖ヲ計劃シ、自五月一日至五月四日ノ期間ニ於テ矢作川本流西加茂郡舉母町字今明治用水堰堤下ニ於テ體長平均八厘體重四一瓦ノ稚鮎約一萬七千五百尾ヲ捕獲シ、西加茂郡小原村字百月岡崎屋電燈第五發電所堰堤上流矢作川本流ニ約一萬五千二百尾ノ稚鮎運搬移殖ヲ實施シタリ概況下記ノ如シ

- 一、捕獲月日 昭和三年五月一日—四日
- 二、同場所 西加茂郡舉母町字今明治用水堰堤下河口ヨリ約七里ノ上流
- 三、捕獲方法 堰堤下ニ蛸集セル稚鮎ヲ左ノ如キ抄網ニヨリテ捕獲セリ
- 四、運搬月日 昭和三年五月五日



- 五、蓄養期間及蓄養中ニ於ケル死兒率 一日乃至四日間 死兒率一三%
- 六、移殖場所 西加茂郡小原村字百月岡崎電燈第五發電所堰堤上流捕獲場所ヨリ約六里強上流
- 七、運搬經過時間及運搬中ニ於ケル死兒數 自午前十二時至午後三時 三時間 運搬中ニ於ケル死兒數 數尾
- 八、運搬方法 小鮎運搬ニ使用セル容器ヲ以テ貨物自動車ニヨリテ運搬ス

三、公魚採卵孵化放流事業

本事業ハ大正十四年度以來ノ繼續事業ニシテ漸ク其ノ成績ノ見ルベキモノアルニ至リ油ヶ淵ニ於テハ七二二萬粒ノ自己採卵ヲナスニ至レリ然シナガラ尙利用水面少カラザルヲ以テ左ノ通り移殖放流ヲナセリ

- 一、採卵月日 自昭和三年二月八日至二月十日
- 一、採卵場所 油ヶ淵
- 三、採卵數 七二二萬粒(一七八桿)
- 四、購入卵數 一、二二〇萬粒(二八〇桿) 島根縣宍道湖產
- 五、收容月日、場所、數量

收容月日	放流場所	數量	備考
自二月八日至同十日	碧海郡油ヶ淵	五九六萬粒	縣内採卵 繫留式自然孵化放流
二月十一日	幡豆郡蒸水路	二四四萬粒	同
三月十八日	海部郡蒸水路及湖池	六〇六萬粒	縣外購入 繫留式自然孵化放流
同	丹羽郡入鹿池	三〇三萬粒	同

同	寶飯郡溜池	二〇〇萬粒	同
同	温美郡溜池	二〇〇萬粒	同
計		一、〇三三萬粒	

六、孵化放流月日並孵化率 自三月十日 八五% 至四月二十日 以上

四、鮎人工孵化放流事業

河川増殖事業ノ一端トシテ本年度モ縣下各河川ニ於テ各關係漁業組合ト協力シ事業遂行ノ豫定ナリシモ本年ハ各河川共近年稀レニ見ル鮎ノ蕃殖少カリシ爲漸ク木曾川ニ於テ一部ノ採卵放流ヲ施行セルノミニシテ矢作川、豊川ニ於テハ遂ニ施行スルコト能ハザリキ

採卵孵化放流經過表

親魚捕獲場所	採卵月日	親魚數	採卵數	孵化放流月日	孵化率	備考
木曾川 尾北漁業組合地先	自十月六日至十月三十一日	雌 二、三九尾 雄 三、七三尾	四、〇〇〇萬粒	自十月二十五日至十二月十日	〇%	繫留式自然孵化放流

五、鯉兒放流事業

河川増殖事業ノ一端トシテ前年度ニ繼續シ左ノ通り縣内五河川水域ニ縣下彌富、牟呂吉田産鯉兒平均体長一〇、〇cm 体重九、五瓦ノモノ九萬五千尾ヲ放流セリ

- 天龍川水系 七、〇〇〇尾
- 豊川水系 一三、〇〇〇尾

- 一、講習ノ師 大日本水産會漁船々員養成所講師 小茂島豊三郎
- 二、會場 幡豆郡吉田町第二尋常小學校
- 三、會期 自五月十日至五月卅一日、二十二日間
- 四、臨時試驗 自六月五日至六月十五日、吉田第二尋常小學校
- 五、講習經過並ニ臨時試驗成績

講習申込人員 四一人
 講習終了証書受領者 三七人
 臨時試驗受領者 三七人
 体格檢查不合格 二人
 口述試驗不合格 三人
 臨時試驗合格者 三五人

氏名	住居	所	体格検査	口述試験	備考
尾崎太七	寶飯郡西浦村				
石川政市	同				
牧原廣吉	同				
小笠原淺吉	同				
尾崎廣吉	同				
吉見武夫	同				
安部險治	同				
安部源吉	同				
酒井増吉	同				
小笠原梅吉	同				
鈴木進一	幡豆郡吉田町				
榊原萬六	同				
加藤傳松	同				
牧藤七松	同				
加藤真吉	同				
尾崎千代松	同				
筒井松雄	同				
石川庄松	同				
新浜次郎	同				
筒井忠雄	同				
高須正春	同 幡豆村				
石濱松三郎	同 幡豆村				
月東惣市	同 八幡町				
河合貢	同 渥美郡田原町				
伊藤幸雄	同 愛知縣水産試験場内				
古座嘉十郎	同 三重縣南牟婁郡荒坂村				
片岡常雄	同 三重縣志摩郡鏡浦村				
山本重平	同 三重縣志摩郡鏡浦村				
小久保金次	同 神島村				
竹内太二	同 的矢村				

講習ノミニテ
 講習セズ
 講習ノミニテ
 講習セズ
 講習ノミニテ
 講習セズ

氏名	住居	所	体格検査	口述試験	備考
小笠原淺吉	同				
壁谷森平	同				
壁谷浦二	同				
吉見鹿藏	同				
小笠原濱吉	同				
壁谷俊次	同				
壁谷武次	同				
加藤嘉吉	同				
壁谷八百次	同				
鈴木十一	同				
尾崎新之助	同				
高須正春	同 幡豆村				
石濱松三郎	同 幡豆村				
月東惣市	同 八幡町				
河合貢	同 渥美郡田原町				
伊藤幸雄	同 愛知縣水産試験場内				
古座嘉十郎	同 三重縣南牟婁郡荒坂村				
片岡常雄	同 三重縣志摩郡鏡浦村				
山本重平	同 三重縣志摩郡鏡浦村				
小久保金次	同 神島村				
竹内太二	同 的矢村				

講習ノミニテ
 講習セズ

一、漁船丙種運轉士講習

- 一、講習ノ目的 漁船丙種運轉士臨時試験ノ爲メ
- 二、講習ノ師 大阪市中山海士學院講師 武井傳左衛門
- 三、會場 寶飯郡形原町形原尋常小學校
- 四、會期 自七月一日至七月卅一日、一ヶ月間
- 五、臨時試驗 自八月五日至八月十五日於形原尋常高等小學校
- 六、講習並ニ臨時試驗成績
- 七、講習申込者 五〇人
- 八、講習証書受領者 四七人
- 九、受驗者 四七人

体格検査不合格
口述試験不合格
臨時試験合格者

一人
一人
四五人

氏名	住所	体格検査 不合格	口述試験 不合格	備考
壁谷兵助	寶飯郡形原町			
鈴木福平	同			
壁谷乙次郎	同			
酒井文助	同			
近藤林助	同			
近藤政吉	同			
田中春吉	同			
田中義一	同			
牧原吉	同			
田中寅吉	同			
中瀬辰太郎	同			
市川伊勢松	同			
鈴木金八	同			
吉本彌吉	同			
鈴木石藏	同			
田中源藏	同			
牧原萬作	同			
壁谷一雄	同			
石田助	同			
壁谷泰吉	寶飯郡西浦町			
壁谷虎一	同			
吉見淺吉	同			
吉見太市	同			
小笠原七之助	同			
尾崎榮吉	同			
牧原俊治	同			
壁谷吉助	同			
牧原竹一	同			
牧原廣吉	同			
壁谷又吉	同			
廣中延治	寶飯郡三谷町			
廣中益二	同			
水藤勝治	同			
水藤紋治	同			
藤田仙一	同			
藤田真一	同			
竹内松藏	同			
藤田芳三	同			
水藤政治	同			
藤田德平	同			
竹内隆三	同			
間瀬福太郎	名古屋			
松本權吉	同			
山下才吉	知多郡師崎町			

三、製造別科講習會

昨年度ニ引續キ縣下當業者ノ子弟ニ基礎的智識ヲ授ケ斯業ノ改善發達ヲ速進セシムル爲左記ニヨリ製造別科講習會ヲ開催シタ

氏名	住所	体格検査 不合格	口述試験 不合格	備考
吉本彌一	同			
壁谷磯松	同			
壁谷才次郎	寶飯郡西浦村			
牧原治一	同			
小笠原鹿次	同			
壁谷武八	同			
水藤政治	同			
藤田德平	同			
竹内隆三	同			
間瀬福太郎	名古屋			
松本權吉	同			
山下才吉	知多郡師崎町			

一、課目 水産製造
 一、期間 自昭和二年七月十一日 二十日間
 一、講習場所 寶飯郡三谷町愛知縣水産試験場漁撈製造出張所
 一、出願期限 昭和二年七月五日
 一、給與金 一人一日ニ付金五拾錢
 右講習會ニ應募シ修了證書ヲ授與シタルモノ左ノ如シ

- 寶飯郡形原町 近藤藤吉
- 同 牧原猪六
- 名古屋市南區瑞穂町 野口品二
- 一宮市八幡町 野木森文治
- 名古屋市中區西境町 河村德治
- 渥美郡高師村 河合一

知多郡有松町	川村 欽彌
知多郡師崎町	福田 圓二
名古屋市東區鍋屋町	土方 貞二
寶飯郡形原町	尾崎 三郎
豐橋市新川町	芳賀 太一
幡豆郡佐久島村	柴田 立次
同	高橋 邦七
同	筒井 和夫
名古屋市西區西日置町	小林 正一

講習中(自七月十六日至七月二十二日、七日間)ニ幡豆郡吉田町吉田水産公民學校生徒二十名見學並ニ實習ヲナシタリ

四、海苔、蛸加工講習會

本縣ニ於テ饒産セラル、海苔及蛸利用ノ目的ヲ以テ串蛸蛸時雨煮、海苔佃煮罐詰製造講習會ヲ開催セリ

一、講習地 幡豆郡吉田町大字富好
自昭和三年三月十二日三日間
至同 十四日

一、實業教師 串蛸ハ知多郡龜崎町、蛸時雨煮ハ知多郡下一色町ヨリ技術優秀ナル當業者ヲ招聘シタリ
講習ノ第一日ニハ海苔、蛸ノ學術的説明及罐詰ニ關スル講話ヲナシ第二日ハ串蛸、蛸時雨煮ノ製造實習第三日ニハ海苔佃煮罐詰ノ實習ヲナス罐詰ノ容器ハ東洋製罐株式會社製半封度サニタリ一罐ヲ使用シ卷縮機械ハKH型ホームシューマーヲ使用シタリ

一、講習生 五三名

五、水産料理講習會

昨年度ニ引續キ本縣ニ於テ好食セラレザル川魚ヲ原料トシテ調理及調味方法ヲ實演シ川魚ヲヨリ多ク食膳ニ供セシムルトトモ

ニ料理ノ家庭化ヲ計ル爲滋賀縣大津市ヨリ多年琵琶湖産淡水魚ノ調理、調味ニ經驗アル調理師ヲ招聘シテ講習會ヲ開催シタリ
調理、調味シタル魚類及料理品左ノ如シ

献立料理	鰻 飯	鰻 井	蛸子作り	鯉あら汁	吸 物
鰻 飯	鰻 煮付	オムレツ	鯉ノシユチユウ		
一品料理	鯉雲丹焼	鯉生作り	小魚軟煮	相生むし	でんがく
鯉雲丹焼	鯉海苔合	鰻ノ膽ノ櫻煮	フライ	小魚にんひ漬	蛸雀焼
鯉海苔合	鯉梅肉あへ	鰻 卷	てんぷら	鯉糸造り	
一、講習場所	南設樂郡新城町新城高等女學校				
一、期 間	昭和三年二月十二日				
一、講習生	同 十三日二日間				
	二一五名				

六、蛸罐詰講習會

幡豆郡佐久島漁業組合ハ蛸ノ養殖ニ成功シ年々増産セラレツ、アリ之レガ利用方法トシ既ニ本場ニ於テ串蛸ノ製造講習會ヲ開催シタル結果盛ニ製造セラル、ニ至リタルモ該製品ハ或期間ノミノ製造ニ限ラレ且大量ノ蛸ヲ理處スルニハ適セザルガ故ニ三年ノ製造ニ適シ大量ヲ處理シ得ル蛸ノ時雨煮及同罐詰製造講習會ヲ開催シタリ

一、講習場所 佐久島小學校
自昭和二年十一月二十九日二日間
一、期 間 至同 十一月三十日
一、講習生 七〇名

講習第一日ニハ罐詰及時雨煮ニ關スル講話ヲナシ、第二日ニハ實習ヲナシタリ
時雨煮ノ實業教師ハ愛知郡下一色町ヨリ招聘ス

第五、淺海利用研究

本研究ハ養殖出張所ト下之一色漁業組合トノ共同事業ニ係ル淺海利用研究所ノ事業ニシテ本年度ノ業績左ノ如シ

一、牡蠣増殖試験

伊勢灣ノ部

一、經濟試驗(前年度經承)

本試驗ハ伊勢灣奥部新川、庄内、蟹江川ノ沖合ニ位スル廣大ナル干潟ヲ開發スル目的ヲ以テ、牡蠣増殖業ノ基礎的試驗ヲ施行シ來リ本年度ハ昨年度ニ引續キ、主トシテ附着器並ニ實入ノ研究ニ努メタリ

(一)第一増殖場

(イ)自大正十四年至大正十五年松丸太棚式試驗經過概要

圖面参照、第一増殖場松丸太棚牡蠣附着並實入試驗ハ大正十四年五月二十六日、一反歩一二四臺ヲ建設シ、一臺ノ組立方法等ハ前年度報告ニ詳細記載シタルヲ以テ省略ス、右建設後七月一日ノ調査ニ依レバ己ニ〇・五種餘ノ成長ヲ見タリ、八月ニ至リ大暴風雨ノ襲來アリシモ被害ノ度僅少ニ止マリ十一月ニ至リ種苗ノ成長極メテ順調ニ進ミタリ、斯クテ大正十五年度ニ入リ七月中旬時伊勢灣奥部一帶ニ亘リ發生シタル、あをさノ爲メ其被害ヲ受ケ且概増殖場ハ干潮時ノ露出時間稍々永キ爲メ他増殖場ニ比シ實入遅キヲ免ガレズ、斯クテ同年十二月第一回販賣時ニ達シタルヲ以テ、之ヲ下之一色當業者ノ入札ニ附シ最高貳百貳拾壹圓ニテ落札セシ事既報ノ如シ

(ロ)本年度ノ業績

第一回收納後ノ松丸太棚ア破損腐朽等ニ手入ヲ行ヒ且ツ牡蠣ノ尙多數殘存スルモノヲシテ第二回收納時迄保タシムル様努メタリ幸ヒ本年度ハあをさノ被害モ減少シ海況亦牡蠣ノ實入ニ適應セルモノ、如ク實入ノ點モ十一月ニ入リテ頗ニ良好ニシテ十二月ニ入リテ前年度同様第二回ノ入札ニ附シ、最高七拾圓拾六錢ニテ落札販賣セリ收納後ハ松丸太棚ノ腐朽ノ度甚シク第三回ノ收納迄保ツ事困難ナルヲ以テ、以上二回收納後ヲ以テ整理シ、第一増殖場松丸太棚一反歩ノ經濟試驗ヲ終了

セリ (ハ)養成中ノ海況(滿潮時水深二・三〇米突内外、觀測線藤高前線参照)

觀測月日	水		温		比		重	
	表	中	表	底	表	中	表	底
昭和二年四月二十日	一五、六	一五、三	一五、〇	一九、〇	一九、九二	一九、八	一九、八	一九、八
同 五月十九日	一八、〇	一七、〇	一七、三	一六、五	一六、四七	一六、〇八	一四、〇八	一四、〇八
同 六月四日	一八、四	一七、九	一七、八	一六、七	一六、八四	一六、二九	一五、二九	一五、二九
同 六月十八日	二〇、三	二〇、三	二〇、四	一五、四	一七、四三	一七、二六	一六、二六	一六、二六
同 七月四日	二五、八	二六、〇	二六、一	一六、五	一六、一六	一六、四一	一六、四一	一六、四一
同 七月十五日	二六、五	二六、四	二六、四	一八、九	一八、七	一八、七	一七、七	一七、七
同 八月四日	二六、二	二五、九	二五、七	二〇、七	二〇、三	二〇、三	一八、八	一八、八
同 八月十四日	二七、八	二七、八	二七、九	一七、三	一六、九四	一六、八五	一七、八五	一七、八五
同 八月二十八日	二七、八	二七、八	二七、九	一六、九	一六、四四	一六、八七	一四、八七	一四、八七
同 九月十二日	二八、八	二八、六	二八、一	一六、九	一六、八二	一六、八二	一四、八七	一四、八七
同 九月十四日	二八、〇	二八、七	二八、二	二〇、〇	二〇、〇六	二〇、八二	二〇、〇	二〇、〇
同 十月十四日	二八、八	二八、六	二八、四	二二、〇	二二、〇〇	二二、五	二二、〇	二二、〇
同 十月二十九日	二八、八	二八、六	二八、四	二二、〇	二二、〇〇	二二、五	二二、〇	二二、〇

(ニ)收納收支經濟(一反歩當リ)

收 入		内 譯	
金參百貳拾參圓參拾八錢	松丸太棚一二四臺牡蠣收入	空殼見込收入	
第一回收入 金貳百貳拾壹圓	空殼見込收入	松丸太棚一二四臺牡蠣收入	
第二回收入 金七拾圓拾六錢	空殼見込收入	空殼見込收入	
金拾貳圓四拾錢			

支 出

金壹百四拾壹圓四拾五錢五厘

内 譯

金壹百參拾四圓貳拾五錢五厘

金七圓貳拾錢

差 引

金壹百四拾九圓七拾錢五厘

收 入

金貳圓六拾七錢九厘強

支 出

金壹圓拾四錢壹厘弱

差引純益 金壹圓五拾參錢八厘

(一)一反步當り收納

以上二回ニ亘リテ青田賣ニシタル一反步當り正確ナル收納石數等ヲ知ルハ困難ナルモ下之一色牡蠣相場ノ中等品ノ部類ニ屬スルヲ以テ之ニヨリテ算出セバ左ノ如シ

一反步取揚殻付 參拾六石七斗四合(盛榊)

同 剝身 貳石壹斗八升八合(盛榊) 金額貳百九拾壹圓拾六錢

同 空殻 參拾貳石貳斗(盛榊) 金額參拾貳圓貳拾貳錢

(二)第二増殖場

(イ)自大正十四年至大正十五年松丸太棚式試驗經過概要
圖面参照。松丸太棚式二反步六〇〇坪ハ大正十四年五月二十五、六ノ兩日建設シタルモノニシテ同年七月二十日第一回蠟苗

附着ヲ發見シ、當時大出水ノ爲メ一時蠟苗ノ附着減ジ且ツ斃死スルモノアリシガ、其後ニ至リ再附着セシモノ頗ル多ク且ツ第二増殖場ハ、其位置他ノ増殖場ニ比シ沖合ニ位スルト共ニ濤路左右ヲ流ル、關係上牡蠣ノ成長並實入種苗ノ附着等又最モ良好ナリ

大正十五年夏季ヨリ秋期ニ亘リあをさノ棚上ヲ掩アヒ終始之ガ除去ニ努メタルモ、實入ノ關係患ハシカラズシテ、第一回收納ヲ大正十五年十二月ニ入りテ下之一色富業者ノ入札ニ附シ、最高三八一圓ニ落札ヲ見收納後松丸太棚ノ破損修理ニ努メタリ、尙同年五月十三日及同月二十九日ノ二回ニ亘リテ松棚三反步四〇八臺ヲ増設シ、七月ニ至リ種苗ノ附着ヲ發見シ大ナルモノ殻高一、二種、殻長一、一種、平均殻高一、一種、殻長一、〇種トナリ、八月下旬ニ至リテハ平均殻高二、九種、殻長二、〇種伸長セリ

(ロ)本年度ノ業績

六月二日、松丸太棚七十二臺ヲ更ニ増設ス、此外各松丸太棚ノ破損箇所ヲ松丸太ヲ以テ新ニ補給セリ十二月ニ入り大正十四年度建設二反步ノ第二回收納及大正十五年度建設松棚三反步ノ第一回收納期ニ達シタルヲ以テ、何レモ第一増殖場同様入札ニ附シタリ

(ハ)養成中海況(滿潮時水深二、三〇米突内外觀測線藤高前線参照)

觀測月日	水 表		温 度		比 較		重 量	
	表	中	表	底	表	中	表	底
昭和二年四月二十日	一五、五	一五、五	一五、一	一五、一	一九、五	一九、〇	一九、五	一九、五
同 五月二十日	一八、〇	一八、五	一八、二	一八、二	二二、五	二二、〇	二二、五	二二、五
同 六月四日	一八、四	一八、一	一七、八	一七、八	一九、三	一九、〇	一九、三	一九、三
同 六月十八日	二〇、六	二〇、四	二〇、四	二〇、四	二〇、〇	一九、六	二〇、〇	二〇、〇
同 七月四日	二六、二	二五、九	二五、七	二五、七	二七、〇	二六、七	二七、〇	二七、〇
同 七月十五日	二六、五	二六、三	二六、三	二六、三	二七、〇	二六、七	二七、〇	二七、〇
同 八月十四日	二六、一	二五、九	二五、七	二五、七	二七、〇	二六、七	二七、〇	二七、〇
同 八月二十八日	二六、三	二六、〇	二六、〇	二六、〇	二七、〇	二六、七	二七、〇	二七、〇

同	九月十二日	二七、五	二六、五	二六、二	五、六	七、六	九、八
同	十月十四日	一九、二	一九、二	一八、五	三、七	三、七	三、六
同	十月二十九日	一八、二	一八、六	一八、五	三、五	三、〇	三、〇

四六

(二) 收 納

(1) 大正十四年度建設第一、二兩回收納 二反歩
 (2) 大正十五年度建設第一回收納 三反歩

1、大正十四年度建設二反歩ハ大正十五年第一回收納三八一圓、昭和二年第二回收納四五二圓一七錢ヲ得タリ

收支計算

收入 金八百七拾八圓貳拾六錢

内 譯

第一回收納 金參百八拾壹圓
 金貳拾壹圓六拾錢

松丸太棚二六一臺牡蠣收入(二七一臺中一八臺破損流失)

第二回收納 金四百五拾貳圓拾七錢
 金貳拾參圓四拾九錢

前記松棚二反歩牡蠣收入
 空殼見込收入

支 出

金參百壹圓七拾六錢五厘 大正十四年度建設二反歩分

差 引

金五百參拾壹圓四拾錢五厘 純 益

一反歩當リ純益金貳百六拾五圓七拾錢強
 備考 以上第二回收納ノ收支計算ナルモ尙松丸太棚ノ完全近ニキモノ多數殘存シ、且ツ牡蠣ノ殘存セルモノ相當アル見込ニ
 テ今年度棚ノ整理ヲ中止シ、來年度第三回收納ヲ以テ最後ノ收支決算ヲ行ヒ同時ニ二反歩ノ整理ヲ行ハントス

棚一臺當リ收支

第一、二兩回收納ニヨリテ生ズル棚一臺當リノ收支

收入 金參圓參拾六錢五厘弱 殼付一斗八升

支出 金壹圓八錢壹厘

差引純益 金貳圓貳拾八錢四厘

前記二回收納ニアリテ正確ナル收納數量ヲ知ル事困難ナルモ、實入ノ良好ト成長等ニツキ下之一色市場ノ上等品ト同様ノ部
 ニ屬スルヲ以テ之ヲ一升剥身平均相場貳圓四拾錢ト見做シテ計算スルニ二反歩ヨリ左ノ事項ヲ知ル事ヲ得

二反歩ノ取揚殼付 四六石二斗

同 剥身 三石五斗四升(盛榊)金額八百參拾參圓拾七錢

同 空殼 四五石一斗弱(盛榊)金額四拾五圓九錢

2、大正十五年度建設三反歩第一回入札ニ附シ金八三〇圓三二錢ヲ得タリ

收支計算

收入 金八百七拾壹圓拾貳錢

内 譯

第一回收納 金八百參拾圓參拾貳錢
 金四拾圓八拾錢

松丸太三反歩四〇八臺分牡蠣收入
 空殼見込收入

支出 金四百拾八圓七拾八錢六厘

内 譯

金參百四拾貳圓四拾九錢六厘
 金七拾六圓貳拾九錢

松丸太建込費
 本年度手入其他費用

差 引 金四百五拾貳圓參拾參錢四厘 純 益

一反歩當リ純益 金壹百五拾圓七拾七錢八厘

備考 第二、三回ノ收納ヲ經テ最後ニ收支決算ヲ行フモノトス
棚壹臺當リ第一回收納收支

收入 金貳圓拾參錢五厘強 穀付約一斗
支出 金壹圓貳錢六厘強

差引純益 金壹圓拾錢九厘

第一回收納數量 大正十四年度ト同様正確ナル收納數量ヲ知ルハ困難ナルモ、下之一色市場上等品ニ屬スル類ナルヲ以テ前
同様ノ一升ノ平均相場ニテ計算スルニ左ノ如キ結果ヲ得

三反步取揚穀付 四六石一斗

同 剥身 三石五斗三升強(盛榭)金額八百參拾圓參拾貳錢

同 空穀四〇石八斗(盛榭)金額四拾圓八拾錢

(三)第四増殖場

(イ)自大正十四年至昭和貳年松丸太棚式試驗經過

圖面参照。第四養蠶場建設三反步九〇〇坪ハ大正十四年自五月二十二日至二十四日建設シタルモノニシテ一反步ノ割合ハ他

増殖場同様一三六臺ニシテ稚介附着時期並成長等詳細前年度報告ニ記載シタルヲ以テ省略ス

大正十五年十二月建設後約一年半ヲ經過シタルヲ以テ、第一回收納ヲ他増殖場同様人札ニ附シ最高四百貳拾圓ニ落チ收納後

ハ手入ヲ行ヒ昭和二年度ニ入りテハ自然力ニ依ル被害ナク爲メニ成長實人等モ順調ニ進ミ十二月ニ入りテ昨年殘存セル牡蠶

並第一回收納後附着セシ稚介モ成長セシヲ以テ併セテ入札ニ附シ最高六百圓四拾參錢ヲ得更ニ第三回收納迄松丸太棚ヲ保ツ

ベク一部ニ大修理ヲ加ヘタリ

(ロ)海況ハ第二増殖場ニ近ク海況又酷似スルヲ以テ省略ス

(ハ)收納收支計算

收入 金壹千八拾圓八錢
内譯

第一回收納 金四百貳拾圓

金貳拾參圓參拾八錢

第二回收納 金六百圓四拾參錢

金參拾六圓貳拾七錢

支出 金四百九拾圓七拾九錢四厘

金九圓

差引 金五百八拾九圓貳拾八錢六厘

一反步當リ金百九拾六圓四拾貳錢九厘

棚壹臺當リ收支

收入 金貳圓六拾八錢強

支出 金壹圓貳拾錢參厘弱

差引紙益 金壹圓四拾七錢七厘

二回收納ヲ無シ之ノ收納金ヲ合シ、三反步ノ取揚等ヲ他増殖場同様算出スルニ左ノ如シ

三反步ノ取揚穀付 六九石五斗

同 剥身 四石三斗四升強(盛榭)金千貳拾六圓四拾參錢

同 空穀 五九石六斗強(盛榭)金五拾九圓六拾五錢

(四)全増殖場ニ對スル收支經濟

備考 但シ第一回收納ノモノ及第二回收納ノモノ全部ヲ合併シ一反步平均ノ收支ヲ算出スレバ左ノ如シ

増殖場面積 九反步

建設丸太棚總數 一、二二七臺

松丸太三反步四〇三臺(四〇八臺中五臺流失)牡蠶收入

空穀見込收入

前記松丸太棚三反步

空穀見込收入

材料並大正十五年度迄ニ於ケル費用

本年度手入費用

純益

總收入 金參千壹百五拾貳圓八拾四錢

內譯

青田賣總收入 金貳千九百七拾五圓八錢捌身一三石五斗九升

空殼見込收入 金百七拾七圓七拾六錢空殼一七七石七斗

總支出 金壹千參百五拾貳圓八拾錢

差引純益 金壹千八百圓四錢

一反歩當り純益 金貳百圓強

二、松丸太棚附着牡蠣實入狀況調査

(一)調査材料 各増殖試験地松丸太棚附着牡蠣

(二)調査期間 自昭和二年十二月至昭和三年四月

(三)調査方法 松丸太棚ヨリ一斗宛採集調査

第二増殖場

材料採集月日	山盛一斗ノ重量	空殻重量	剝身重量	切身重量	殼内水分	浸水時間	浸水後剝身重量	切身重量	剝身盛樹	肥液ノ割合	附着材料
昭和三年一月十日	二、六二四	一、八六一	二、九	五、六六	四、三	三	六	七、七	五、六	良好	大正十四年建設
同 二月十三日	二、八四三	二、〇八〇	三、七	六、六	四、五	三	四、〇	七、七	五、六	良好	同 年建設
同 二月二十三日	二、四四〇	一、八七〇	三、五	五、七	三、〇	三	二、〇	五、三	四、三	前者ヨリ稍々劣ル	同 年建設
同 三月十日	二、六四二	二、〇一八	三、〇	四、六	四、三	三	二、七	五、三	三、七	同	同 年建設

第四増殖場

材料採集月日	山盛一斗ノ重量	空殻重量	剝身重量	切身重量	殼内水分	浸水時間	浸水後剝身重量	切身重量	剝身盛樹	肥液ノ割合	附着材料
昭和三年一月二十七日	二、六四二	一、九六三	三、四	七、五	六、三	三	四、五	九、六	七、七	良好	大正十四年建設

三、丸土管牡蠣附着材料ノ増設

一、場所 第二増殖場、第四養蠔場

二、材料並運搬方法 知多郡常滑産丸土管ニシテ、土管ハ徑四寸、五寸、六寸等ニシテ 平均二尺トス常滑ヨリ船舶ニ積載シ、満潮時各増殖場設置個所ニ標識ヲ建テタル點ニ至リ投入シ置キタリ

三、建込月日 昭二和年自五月三十一日至六月三日

四、建込方法 一反歩ハ南北二十間、東西十五間トシ、最初土管ヲ被ラスベキ長サ四尺前後ノ杭ヲ二尺土中ニ挿入シタルモノ南北十一列ニ作り各列間ヲ九尺トシ、又各杭間ヲ三尺トセリ以上設置セシ各列ノ各杭ヲ中心トシテ更ニ左右五寸ヲ距テ、同様ノ杭ヲ打チ、一反歩總列數三十三列ニセリ一列ノ杭數四十一本ニシテ一反歩合計杭數一三五三本トセリ之ニ丸土管ヲ被セ、又各々一反歩ノ距離ヲ舟通シトシテ十間ヲ設ケタリ、斯シテ第二増殖場ニ三反歩餘第四養蠔場一反歩餘建込セリ

五、稚貝附着時期 七月二十七日ニ至リ平均殼高一、九、殼長二、〇、稚貝ハ、土管ノ高サ二尺中上下ノ別ナク一様ニ附着シ、極メテ良好ノ成績ヲ得タリ

六、害敵 ふじつぼノ附着アルモ其影響少ナシ

七、成長度

調査月日	殼高	殼長	平均	最大殼高	最大殼長
昭和二年七月二十七日	一、九	二、〇	一、四	二、五	二、八
同 八月二十六日	三、三	二、四	〇、四	三、五	三、三

八、海況 各増殖場、松丸太棚ト同一地點ナルヲ以テ省略

四、幡豆石牡蠣附着試験(前年繼承)

一、趣旨並試験經過

本所増殖場ニ於テ大正十四年ヨリ松丸太棚ヲ建設シタルモ牡蠣、附着夥多ニシテ脱落スルモノ多キノ爲メ、之ガ救済ノ目的ヲ以テ大正十五年五月二十六日日本縣實飯郡西浦産石塊(幡豆石)ヲ購入シ、脱落牡蠣ヲ砂、石膏セメントヲ以テ配合シ干潮時

附着ヲ試ミタルモ、其果良好ナラザルヲ以テ之ノ試験ヲ中止シ牡蠣附着材料トシテ使用スル事トセリ昭和二年六月三日當時迄已ニ附着セシ牡蠣ハ平均殻長二、四種殻高二、九種ニ伸長シ且ツ浮泥沈積ノ爲メ沈降ノ傾キアルヲ以テ同日海苔古粗菜ヲ以テ沈床トナシ一方成長モ速カナラシムベク努メタリ

二、剥身調査

(イ)期 日 昭和二年二月四日

(ロ)調査方法 山盛一斗ヲ採集シ左ノ如キ調査ヲ行フ

調査月日	殻付牡蠣重量		殻内水分		重量	剥身	身	浸漬時間	重量	浸漬後ノ剥身	備考
	個	平均	個	平均							
昭和二年二月四日	二、八六	一、九四〇	五、二	三七	七合	五合五勺	三	五〇	九合	六合	一斗中ニ二年生及二年生牡蠣ヲ含ム
同 二月十日	二、五九〇	一、八六〇	二、五〇	四三	八合五勺	四合二勺	二	五〇	一升	六合	何レ
同 三月十日	二、八三〇	二、〇八九	四、四	三〇	五合六勺	四合二勺	三	三六	六合八勺	四合五勺	一年中生牡蠣ハ何レ

三、成長度

調査月日	殻高		殻長		平均	重量
	個	平均	個	平均		
昭和三年二月十日	九、五	四、七	二、五	一九七		

五、牡蠣附着器改良試験(前年繼承)

牡蠣附着材料トシテ從來各種附着材料ノ試験ヲ行ヒ昨年度ヨリ鐵筋混凝土三角柱柵ヲ考案シ第一増殖場ニ之ガ實施シタル事ハ昨年度概報ニ記載セリ本年度ハ引續キ一部ノ改良ヲ行ヒ試験セリ

一、試験經過 昨年度第一回試験トシテ建込後漁船其ノ他ノ衝害ノ爲メ破損中斷スルモノ數本アリシガ、種苗ハ一般ニ成長順調ニ進ミ大正十五年夏季發生セルあをさの爲メ柵上ヲ尺餘ニ掩フノ慘狀ヲ呈シ、種々之ガ除藻ニ努メタルモ、意ノ如ク成長得ザルヲ遺憾トセリ、成長實入モ從ツテ遲滞ヲ來シ一方附着夥多ニ過ギタル結果殻高ノ伸長ヲ阻害セラル、ノ感アリ、如上ノ關係ニテ一般ニ實入餘リ良好ナラザル爲メ本年度全部ノ收納ヲ見合セ一臺ニ對スル實入其他ノ詳細調査ヲ施行セリ昨年

度四月以降本年二月迄ニ於ケル成長度左ノ如シ

採集月日	殻高		殻長		平均	備考
	個	平均	個	平均		
昭和二年四月十六日	六、四	四、七	二、二	三、五	二、〇	
同 七月十三日	七、日	四、七	一、七	四、九	二、九	

二、本年度製作方法

鐵筋ノ寸法及型等ハ昨年ト同様ノモノヲ用ヒ、セメント、砂、小礫等ノ配合割合又昨年ト稍々同一ナレ共、一部脚上ニ架スベキ三角柱柵ヲ六角柱ニ改造シタルノミニテ、〇ノ組立方法順序等ハ同様ナリ架臺ノ六角柱ハ其長四尺高サ四寸二分横四寸ニシテ、高サ四寸二分中二寸五分ヨリ上部ヲ左右ヨリ狭メ最上邊ノ巾八分トス、而シテ此ノ六角柱ノ上部ニ三角柱ヲ四本載スル様四所ヲ設ケタリ從ツテ三角柱脚部ヲ四角柱ニ改良シ、其一邊ヲ四寸トシ長サヲ二尺三寸トス鐵筋ハ何レモ各型ニ近似セシメテ作り然シテ出來上リ後全部石灰乳劑ヲ施シ牡蠣ノ脱離ニ便ナラシム石灰乳劑ノ配合左ノ如シ

砂	真水	石灰	塗抹本數	備考
一斗	三斗	三斗	一四五本	四尺ノ三角柱

右ノ如クシテ作りシ柵ハ冬季夜間ノ採集ノ勞ヲ省キ日中隨時船中ニアリテ之ヲ吊上ゲ脱離シ之ヲ再ビ元ノ架臺ノ四所ニ嵌メ込ミ置クモノニシテ作業上ニモ便ナラシムル爲トス

三、製作月日並製作本數

自昭和二年三月下旬至六月上旬
六角柱長サ四尺架臺用 三十本
六角柱長サ二尺三寸脚部 六十本
三角柱四尺モノ 四百七十五本
同 二尺二寸脚部 二百五十八本

四、建込場所並建込臺數

建込臺數

建込月日	建込臺數	建込回数	建込月日	建込臺數	建込回数
六月十五日	三〇臺	第一回建込	七月二十七日	四臺	第四回建込
六月二十九日	三〇	第二回	八月二十六日	三	第五回
七月十三日	三	第三回	計	七〇	

五、種苗附着時期

調査月日	建込回数	十個平均	附着狀況
七月二十七日	第一回	一、三	附着可ナルモふじつに可成附着ス
八月二十六日	第二回	二、九	附着良好ふじつに附着少ナシ
同	第三回	一、八	同
同	第四回	一、八	同
同	第五回	一、五	不良

六、建込時海況 松丸太棚第二増殖場ノ海況ニ記載セルヲ以テ省略ス
七、本年度製作混凝土棒一本當リ經費 金拾八錢五厘強

内譯

名稱	數量	金額	備考
小 礫	410 立坪	一八、〇〇〇	三角柱棚ノ架臺ト脚部トノ結構用
砂	同	四、〇〇〇	
銅 十八番線	五貫匁	一六、〇〇〇	
亞鉛引十八番線	四貫匁	三、四〇〇	

名稱	數量	金額	備考
女 竹		一、六五〇	各種ノ型ヲ左ノ割合ニシテ計算セリ 三角柱四尺モノ一本トシ、六角柱四尺モノ一本ヲ三本トス、四角柱脚部ヲ一本トシ、三角柱脚部二本ヲ一本トス 計七二六本
小礫及砂運搬人夫賃		四、〇〇〇	
亞鉛引八番線		四二、五六〇	
鐵筋製作人夫賃		四、〇〇〇	
混凝土製作人夫賃		一〇、〇〇〇	
塗抹用石灰		三、九〇〇	
セメント		二七、三六〇	
計		一三四、八七〇	

八、混凝土一臺ヨリノ牡蠣剥身調査

- (一)材料 大正十五年度建設臺、三角柱四尺ノ混凝土棒六本ト脚部用三尺二寸ノ三角柱四本ヲ組合セ一臺トス
- (二)場所 第一増殖場
- (三)調査月日 昭和三年二月十日
- (四)調査方法

一臺ノ殼付牡蠣	同上	空殼	剥身	浸水時間	浸水後剥身
重量 一斗	重量 一斗	重量 一斗	重量 一斗	重量 一斗	重量 一斗
九四六〇	七五〇〇	中盛三斗	一二〇〇	二升(合五勺)	一、四〇〇
山盛三斗	七五〇〇	中盛三斗	二升(合五勺)	一升七合	二升五合
				三時間	二升二合

(五)剥身狀況 二年牡蠣ハ白色ニ充實シ居ルモ新牡蠣ノ大部分ハ充實ノ度前者ニ比シテ劣ル一臺ノ剥身調査ノ結果之ヲ下之一色市場品ノ中等品トシテ算出スルニ左ノ如シ

收入 金四圓貳拾參錢
内譯 混凝土一臺分剥身二升二合代 金參圓九拾六錢
同 空殼三斗收入見込 金貳拾七錢

支出 金貳圓四拾八錢四厘

内譯

金壹圓八拾八錢四厘

混凝土三角柱四尺モノ六本

金六拾錢

二尺二寸五分四本

差引純益

金壹圓七拾四錢六厘

六、蠣苗附着速進試驗(前年繼承)

一、昨年度試驗經過

伊勢灣奥部本所養蠣試驗地附近ハ知多沿岸一帯ニ比シ河川ノ影響ト潮流ノ關係ニテ水溫低ク種苗並附着成長等ニ於テモ遅キヲ免レズ依テ材料ヲ早期附着地ニ建設シ附着ヲ俟ツテ之ヲ灣奥部ニ再建設ヲ行ハントシ、大正十五年度ヨリ松丸太柵ヲ建設實施セシ事ハ既ニ報告セシ處ナリ其後ニ至リ松丸太柵ハ夜間航行ノ漁船等ニ依リテ破壞流失スルモノ續出シ、昭和二年六月頃ニ至リテ殆ンド形骸已存スル狀態ナルヲ以テ本年度ヨリ鐵筋混凝土三角柱柵ヲ附着材料トシ建設ヲ行フ

二、本年度試驗地

知多郡西海岸横須賀町字養父地先距岸約四十間ノ場所

三、附着材料建設時期並建設方法

昭和二年六月十四日建設ス、方法ハ鐵筋混凝土脚部二尺二寸五分ノモノ四本ヲ三尺平方ノ四隅ニ建テ、之ニ四尺ノ三角柱混凝土棒二本ヲ架シ上部ニ同様四尺ノモノ四本ヲ載セ何レモ銅十四番線ニテ結縛シ東西ノ方向ニ十臺建設シ其間隔ヲ六尺トセリ

四、試驗經過

昭和二年九月九日現場ニ至リ精細ニ調査スルニ、稚介ノ附着少ナクシテにしノ類材料上ニ密着多ク、稚貝ヲ壓殺スルモノ、如ク斃死貝頗ル多ク又一般ニ稚貝ノ表皮ハ棘狀ヲ呈ス、同日柵ノ破壞スルモノニ處テ補足ス、採集セシ稚貝ノ成長左ノ如シ
殻高二、七種、殻長二、二種、殻巾〇、七種、重量二、五匁(十個平均)

五、海況

調査月日	水		温		比		重
	表	中	底	表	中	底	
昭和二年八月十六日	二六、〇	二五、七	二五、八	三〇、八	三三、五	三三、六	

同	八月三十一日	二六、六	二六、一	二六、〇	一八、四	一八、七
同	九月十五日	二五、五	二五、二	二五、二	一〇、五	一六、四
同	九月二十三日	二五、五	二五、三	二五、三	一八、五	一八、八
同	十月十五日	二六、七	二六、八	二六、四	一八、五	一九、五
同	十月三十一日	二八、二	二八、二	二八、三	三、七	三、七

七、垂下式筏牡蠣實入試驗(新事業)

一、場 所 伊勢灣蟹江河口

二、製作月日 昭和二年十月二十一日

三、筏臺數並大サ 壹臺縱十八尺、横十尺

四、水深並流速 満潮時一分間ニ付キ七米突流速比較的速カニシテ各層ニ於ケル割合左ノ如シ

水面下五寸 同 三尺 同 六尺 同 八尺 備 考

一、八五 〇、八五 〇、六二 〇、五五 一秒間ノ流速トス、上ゲ三合時測定

五、筏製作方法

浮子トシテ一石入重油ノ空樽ヲ用エ、筏ハ横十尺縦十八尺ニ前記ノ樽四個ヲ配シタルモノニシテ設置前腐朽ヲ防止スル爲メ空樽ヲ全部「コールタール」ニテ塗抹セリ、初メ樽四個ヲ長方形ノ位置ニ配置シ、此上ニ十八尺ノ丸太ヲ樽上ニ、二本宛四本樽ト直角ノ方向ニ載セ此丸太ト樽トノ間ニ樽ノ長經ニ平行ニ丸太二本ヅ、鞍狀ニ載セ此丸太ノ下方ニ樽ノ上下ノ長サヨリ外側ニ於テ横ニ棧ヲ渡シテ樽ノ流失並動搖ヲ防止セリ、次ニ前記十八尺ノ丸太上ニ十尺ノ丸太ヲ直角ニ四本載セ、更ニ上部ニ十八尺ノ丸太ヲ五本載セ各重要點ヲ、ボートニテ縮メタリ、吊下用釘三寸モノ一四〇ヶ所ヲ設ク、如斯シテ組立タル筏ヲ曳行シ、蟹江河口設置ク所ニ至リ、ワイヤ徑五分ノモノ十七間ニ、コールタールヲ塗抹セシモノヲ筏ノ上部ニ張り兩端ニ十五貫ノ錨二挺ヲ以テ定置セシメタリ

六、垂下材料牡蠣

牡蠣ハ一昨年來蟹江河口種子場ニ於テ畦立上ニ散布シ置キタル牡蠣空殻ニ附着セシ二年牡蠣並ニ松丸太柵ヨリ、クツツキ牡

蠶ヲ採集シ、之ヲ十八番線ノ亞鉛引針金ニテ結縛シタルモノヲ一丈二尺ニ切りタル亞鉛引八番線ニ女竹三寸ニ切りシモノト交互ニ通シ、十一月二十二日ヲ以テ計一二九本ヲ垂下セリ

七、垂下後ノ狀況
十一月二十四日ニ至リ樽ノ表面硅藻ノ附着多ク褐色ヲ呈シ牡蠣ノ表面又同様に附着物ヲ見タリ、二月ニ至リ邊緣約三分前後ノ伸長ヲ見タリ

八、浮游生物並餌料調査

第一回調査 昭和二年十月三十日輝
セラチユーム多ク、コスシノデスクス、スケルトネマコスタタム、ニツチヤロンジシマ、バクテリアストラムバリアンス、コペポダ、ブリウルシダマ等ヲ發見ス

第二回調査 昭和二年十一月二十四日輝
セラチユームノ出現多ク採集ノ大部分ヲ占メ、コスシノデスクス、腹足類ノ幼虫、ニツチヤロンジシマ等

第三回調査 昭和三年二月三日餌料
コペポダ、コスシノデスクス、キートセラス、コツコナイス、ニツチヤナビキスラ、コドネラ等多シ

九、剥身調査

(イ)種子場山盛一斗ニ於ケル剥身調査

調査月日	一斗ノ		剥身		浸水		浸水後		剥身狀況
	殼付重	同殼重	殼内水分	重量	時間	重量	時間		
昭和二年十二月二十九日	三二七	二四七	八八	五三	一升一合	中盛一升	三時間	五八	一升二合四勺 山盛一升 肥満ノ良
同 三年 一月二十七日	三八七	三〇六	三〇	五〇	中盛一升	同	同	六八	山盛一升 肥満ノ良
同 二月二十七日	二七三	二九二	一七九	四三	七合五勺	五合八勺	同	四六	六合五勺 八合一勺 稍々劣ル

(ロ)松棚垂下(一丈二尺)一連ノ剥身調査

回数	殼付牡蠣		空殼		剥身		水分		切目	浸水時間	浸水後ノ剥身		備考
	重量	容積	重量	容積	重量	容積	重量	容積			重量	容積	
一	三二二	六六	一五四	三三	三〇	一〇〇	二五	一〇	一合二勺	十時間	三	二五	十月廿九日剥身狀況一般ニ白色ヲ呈スル
二	三〇五	六六	二二七	三三	三〇	一〇〇	二五	一〇	一合二勺	二十五時間	三	二五	十一月廿四日(上層)種子場ノモノニ比シテ身入ノ差餘リナシ
三	三三五	六六	二七〇	三三	三〇	一〇〇	二五	一〇	一合九勺	九時間	三	二五	同(下層)最優良牡蠣ト認ム
四	三三七	六六	二七〇	三三	三〇	一〇〇	二五	一〇	一合九勺	同	三	二五	十二月二十二日(下層)同
五	三三五	六六	二七〇	三三	三〇	一〇〇	二五	一〇	一合九勺	同	三	二五	十一月二十七日(上層)三回ノ試験ニ比シテ稍々劣ル
六	三三五	六六	二七〇	三三	三〇	一〇〇	二五	一〇	一合九勺	同	三	二五	一月二十七日(下層)同

(ハ)畦立試験牡蠣垂下(一丈二尺)一連ノ剥身調査

回数	殼付牡蠣		空殼		剥身		水分		切目	浸水時間	浸水後ノ剥身		備考
	重量	容積	重量	容積	重量	容積	重量	容積			重量	容積	
一	六二	六三	二〇〇	二五	三三	一〇〇	三三	一〇	一合五勺	六時間	六	三三	十月二十九日剥身狀況肉身青白色、呈シ内臟器
二	三三	七五	二七	四〇	三三	一〇〇	三三	一〇	一合五勺	同	六	三三	十一月廿四日(上層)白色ヲ呈シ肉質充滿シ内臟
三	三三	七五	二七	四〇	三三	一〇〇	三三	一〇	一合五勺	同	六	三三	十一月廿四日(上層)身入八九分
四	三三	七五	二七	四〇	三三	一〇〇	三三	一〇	一合五勺	同	六	三三	(中層)上中ノ層ナク大型ノモノヲ比シハ中層
五	三三	七五	二七	四〇	三三	一〇〇	三三	一〇	一合五勺	同	六	三三	(下層)肉身一般ニ劣ル、但シ實入七分通トス
六	三三	七五	二七	四〇	三三	一〇〇	三三	一〇	一合五勺	同	六	三三	十二月二十九日(上層)剥身何レモ良好ナリ
七	三三	七五	二七	四〇	三三	一〇〇	三三	一〇	一合五勺	同	六	三三	(中層)同
八	三三	七五	二七	四〇	三三	一〇〇	三三	一〇	一合五勺	同	六	三三	(下層)同
九	三三	七五	二七	四〇	三三	一〇〇	三三	一〇	一合五勺	同	六	三三	一月廿七日(上層)同
十	三三	七五	二七	四〇	三三	一〇〇	三三	一〇	一合五勺	同	六	三三	(中層)同
十一	三三	七五	二七	四〇	三三	一〇〇	三三	一〇	一合五勺	同	六	三三	(下層)同

一〇、試験經過概要

昭和二年十月二十五日ヨリ約四ヶ月間蟹江河口ニ於テ垂下實入試験ヲ施行シ、其結果ニ付キ概畧ヲ報セン
 今年度ハ例年ニ比シ冬期中降雨屢々襲來シ、爲メ海水ノ變化ハ例年ニ比シ著シク差アルベキモ、欠測ノ爲メ海況ヲ審述ス
 ル事能ハザルヲ遺憾トス、垂下ニ供セシ牡蠣ハ空殻採苗ノ二三年ノ牡蠣ヲ使用シ一部松丸太棚附着ノモノヲ使用セリ、垂下
 當時ニ比シ十一月中旬ニ至リテハ實入良好ニ向ヘ就中十二月一月ノ兩月ニ於テ垂下牡蠣ノ最優良状態ヲ示セリ、二月ニ至リ
 テハ稍々肉量減ジ下旬ニ至リテハ著シク肥満ノ度減少セリ且ツ上中下各層ハ肉身肥満ノ度ハ水深七、八尋ノ點ニ於テ大差ナ
 キヲ示セリ且ツ前記大サノ筏ニ於テハ三貫匁前後ヲ有スル垂下線ハ更ニ増加吊下得ル様認メラル且此筏一臺ニテ剥身九斗
 二升ヲ得ル割合ナルモ、充分垂下ヲ實施セバ裕ニ一石餘ノ剥身ヲ取揚ゲ得ベシ

三河灣ノ部

一、知多郡龜崎牡蠣増殖試験(前年繼承)

一、昨年度ノ試験經過

昨年度自六月十三日至同月二十五日第一回養蠔試験トシテ松丸太棚、鳥居型及粗朶ヲ附着材料トシテ建込シガ其後浮泥ノ松
 丸太棚上二三分乃至四分ニ沈積シタルヲ以テ牡蠣ハ浮泥ノ爲メ附着僅少ニシテ、又充分ニ採餌スルヲ得ザルモノ、如ク、成
 長率從ツテ不良ニシテ斃死スルモノ多ク一方粗朶棚ハ斯ル被害少ナク附着極メテ良好ナルモ概シテ僅少ナリ、本年度ニ至リ
 テハ昨年度建込ミシ棚並ニ其他ノ材料中破損セシモノ數臺ニシテ概シテ船ノ航行ニヨル被害僅少ナリ牡蠣ハ松丸太一本ニテ
 多キハ百個以上少ナキモ二、三十個ノ附着アリ而シテ一般ニ形小ナルヲ以テ採集ハ尙一ヶ年延期シ、昭和三年十二月採集ス
 ル事トセリ、粗朶棚ノ本年取揚ゲ剥身量ノ試験ニ供セリ

收 納 金四拾七圓參拾六錢

内 譯

金參拾九圓九拾六錢 粗朶棚七十四臺分剥身金額

金七圓四拾錢 空殻見込收入

支 出 金八拾八圓參拾六錢

内 譯

金七拾圓八拾六錢

金拾七圓五拾錢

差 引 金四拾壹圓

尙大正十五年度建込全部ノ收支ハ昭和三年十二月ニ入りテ收納ノ上詳細算出スルモノトス

二、本年度建込月日 昭和二年六月二十九日

三、試驗地 昨年度建込場所ヨリ南方十間ノ船通シテ距テ、約一反五畝ノ面積ヲ試驗地トセリ

四、附着材料 松丸太末口一寸五分、長サ四尺五寸ノ枝付枝無シ、各五十臺トス

五、建込方法

脚部用三尺末口一寸五分以上ノ松丸太ヲ三尺四方ノ四隅ニ二尺五寸程度迄打チ込ミ此上ニ相對ニ四尺ノ松丸太ヲ二本釘着シ
 更ニ此上ニ一臺ニ付キ枝無シ、八本枝付六本ヲ載セ、各本毎ニ棕梠繩ニテ二ヶ所ヲ結縛シタリ、二十五臺ヲ一列トシ各臺間
 ヲ三尺列間ヲ一間ノ距タリトシテ四列則チ百臺ヲ建込セリ

六、附着狀況

九月ニ調査スル所ニヨレバ松肌ノ表面ニ浮泥沈積シ稚貝ノ附着良好ナラズ一本ニツキ十個内外ノ附着ヲ見タリ、ふじつほノ
 害少ナシ

七、成長度(十個平均)

大 正 十 五 年 度 建 込				昭 和 二 年 度 建 込			
採 集 月 日	殼 高	殼 長	殼 巾	採 集 月 日	殼 高	殼 長	殼 巾
昭和二年二月十七日	三、三	二、〇	〇、七	昭和三年三月九日	四、四	三、四	一、二
同 五月四日	四、一	三、四	〇、八				
同 三年三月一日	四、四	三、一	一、二				
同 三月九日	五、〇	三、四	一、九				

一、寶飯郡梅敷牡蠣増殖試験(前年繼承)

前年度試験經過

前芝村ノ西部豊川、奈切川、音羽川ノ流域ニ沿フ廣大ナル干潟ハ本縣下隨一ノ海苔場ニシテ此ノ一部ノ空地ヲ利用シテ牡蠣養殖ヲ行フ計劃ノ元ニ、昨年六月十五日松丸太、鳥居型築八十臺、松丸太棚四十臺、同月二十四日古粗架棚七十臺ヲ建設ス、右試験地並ニ材料ニ關スル詳細ハ前年度報告ニ記セルヲ以テ省畧ス、昭和二年五月ニ至リ松丸太棚及鳥居型築ニ附着セシ稚貝ノ成長何レモ良好ナルモ虫喰ノ爲メ何レモ一臺ニ付キ一二、三本ノ割ニ中斷ヲ見タリ粗架棚附着稚貝ハ一般ニ倭小ニシテ且ツ材料ノ腐朽ノ度松丸太ヨリ速カニシテ完全ナル棚ハ僅ニ二十臺ニ止マリ他ハ大半破壊流失シタリ

調査月日	殻高	殻長	殻巾	備考
大正十五年十一月十七日	四、七	四、七	一、二	松丸太附着ノモノ
昭和二年五月五日	五、七	五、四	一、〇	同
昭和二年六月二日	六、八	四、九	一、六	同

成長度調査スルニ左ノ如シ

二、收支計算

昭和三三年二月ニ入り第一回收納ヲ行ヒ金貳拾貳圓七拾參錢ヲ得タリ

收入 金貳拾貳圓七拾參錢也
 内譯
 鳥居型五十臺(建設時八十臺)
 松丸太棚四十臺(建設時七十臺)
 粗架棚十二臺(建設時七十臺)
 空殼見込收入
 金五圓
 支出 金壹百九拾五圓壹錢
 差引 金壹百參拾六圓貳拾八錢 缺損

備考 材料ノ腐朽破損等ノ影響ヲ受クルト同時ニ採集時ニ當リ剥身方法及販賣時期等ニ於テモ、不完全ナル點アルガ爲メ右ノ結果ヲ見タルハ誠ニ遺憾トス

三、本年度ノ業績

第一回ノ收納後續イテ第二回收納ヲ行ハン豫定ナルモ材料ノ腐朽ノ度大ニシテ到底二回ノ收納時迄保ツコト不可能ナルヲ以テ整理ヲ行フ本年度建込ハ前年度ノ失錯ニ鑑ミ前年度試験地ヨリ更ニ沖合六十間ノ地ニ松丸太棚ヲ建設セリ

四、建込月日

昭和二年六月二日、三日

五、材料及建込方法

材料松丸太ハ末口一寸五分長サ四尺ニシテ建込方法ハ前年度ト同様ニシテ、無枝條松丸太棚五十臺、有枝條松丸太棚五十臺計壹百臺ヲ東西九列ニシ一列ヲ十臺乃至十三臺トシ列間ヲ五尺、棚間ヲ四尺ノ割合ニ建設セリ、無枝條松丸太ハ架臺用横木上ニ七本、有枝條松丸太ハ四本トシ各々棕梠繩ニテ結縛ス、各臺ハ地ヨリ五寸高サトス

六、水深並底質

満潮時七尺前後、干潮時ニ於テモ尙二、三寸ヲ有シ、底質ハ表層一、二、三寸迄ハ浮泥ナルモ夫レ以下ハ砂泥質ニシテ硬ク海苔濱建込用振棒ヲ脚部ノ建込ニ使用セリ

七、稚貝ノ附着成長

建込後七月ニ至リ稚貝ノ附着極メテ良好ニシテ松肌ヲ掩ヒ且ツ成長等ニ於テモ著シキ成績ヲ示セリ

八、養成中ノ海況

観測月日	水		比	重層	観測月日	水		比	重層
	上層	下層				上層	下層		
昭和二年五月二日	一八、八	一八、〇	二、〇七	一八、六	昭和二年七月十七日	二六、一	二〇、四	二、五七	二、五七
同 五月十六日	三三、三	三〇、〇	三、〇九	三〇、九	同 八月一日	二七、八	二〇、四	三、〇四	二、〇三
同 六月三日	三三、〇	三三、六	三、三五	三三、〇	同 八月十六日	二七、三	二〇、四	三、〇七	二、〇三
同 六月十八日	三三、五	三三、〇	三、〇三	三三、三	同 八月二十八日	二五、五	二六、〇	三、三五	二、〇九
同 七月一日	三三、四	三三、八	一八、八	二〇、六	同 九月十三日	二五、三	二六、五	二四、〇	二四、六

昭和二年九月三十日	三、八	三、六	三、六	三、六	昭和三年一月十日	三、七	四、五	三、六
同 十月十四日	一九、七	二、六	三、六	三、六	同 一月二十六日	三、五	三、七	三、九
同 十月二十八日	一五、五	三、〇	三、〇	三、〇	同 二月九日	三、八	四、〇	二、五
同 十一月十一日	三、三	三、五	三、三	三、三	同 二月二十四日	三、〇	三、二	三、二
同 十一月二十七日	八、七	八、〇	三、三	三、三	同 三月八日	五、二	六、〇	三、五
同 十二月十二日	六、三	五、八	二、〇	二、一	同 三月二十五日	六、五	六、〇	二、五
同 十二月二十四日	四、七	五、八	二、七	三、四		六、五	二、〇	三、七

三、福江灣牡蠣實入試験(新事業)

一、位置、地勢

福江灣ハ渥美半島ノ北部沿岸ノ先端ニ位スル面積三百町歩餘ヲ有スル灣ニシテ東西南ノ三面ハ山岳並新田等ニ圍繞セラレ北部ノミテ外海ニ接ス灣奥ヨリ流入スル河川ニツアレド共ニ灣内ノ比重ヲ緩和スルニ至ラズ、尙同灣ニ對スル詳細ハ本年度適地調査事項中ニ記載シアルヲ以テ省略スルコト、セリ

二、試験ノ趣旨

灣内ハ一般ニ牡蠣ノ附着少ナク轉ビ牡蠣トシテ或一部分ノニ存在スルノミニテ偶々同地適地調査ノ際牡蠣養殖ノ適地ナルヲ認メ且ツ地元漁業組合ヨリモ右養殖ノ希望アルヲ以テ本年度牡蠣實入ノ状態ヲ知ル可ク試験ニ着手セリ

三、試験地

灣内向山秋葉下ヲ實入試験地ト定メタリ概試験地ハ灣口ヨリ流入スル潮流ハ一直線ニ進ミ秋葉下ニ至リテ西南二方ニ分流スル分岐點ニ當ルヲ以テ餌料又豊富ナリ

四、水深、底質

干満ノ差六尺前後ニシテ水深満潮時八米突餘、底質砂泥質ナリ

五、試験方法

實入試験ヲ行フ計劃ノモトニ宮城縣万石浦ヨリ一、三年生、クツ、キ牡蠣三十俵ヲ購入シ、之ヲ一石入空樽六個ヲ以テ三間

ニ二間ノ筏ヲ造リ、之ニ垂下シ實入ヲ計ラントシ十二月十二日牡蠣ノ到着ト共ニ剥身ノ状態ヲ檢スルニ悉ク青綠色ヲ呈シ、遠距離ノ輸送ノ爲メ殻内水分ノ大部分ハ浸出セル状態ニアルヲ以テ、直チニ之ヲ附近貯水池内ニ投入シ翌日之ヲ引揚ゲ十八番亞鉛引針金ニテ結縛シ、更ニ十二番線亞鉛引針金一丈二尺ノモノニ、三寸ニ切斷シ女竹ト交互ニ通シタルモノ一三三連ヲ筏ニ垂下セリ筏ノ組立構造等ハ蟹江河口ニ設置ノモノト稍酷似シ居ルヲ以テ省略ス

六、觀測並實入調査 筏設置當時ノ海況左ノ如シ

觀測月日	觀測時間	水深	水			比			重
			上層	中層	下層	上層	中層	下層	
昭和二年十二月十四日	午後二時五十分	七尋	六二	五七	五七	三、八五	三、七三	三、八	

第一回調査 昭和三年一月三十一日

殼ハ何レモ一、三分伸長シ居ルモ水垢ノ附着ナク剥身ハ中層稍々充實ニ近ク下層、上層何レモ充實ノ程度不十分ニシテ肉色青綠色ヲ呈ス、從ツテ内臟ハ透視サレ大部分吊下當時ト大差ナキガ如シ試ミニ餌料ヲ檢スルニ硅藻類多數發見セリ

第二回調査 昭和三年三月一日

觀測月日	觀測時間	水深	水			比			重
			上層	中層	下層	上層	中層	下層	
昭和三年三月一日	午後一時四十九分	一	九二	七八	七八	三、三三	三、三三	三、三六	

剥身ヲ檢スルニ上中下ノ別ナク肥滿ノ度著シク疲弊シ居ルモノナシ且ツ殼面ヨコレ等ノ附着又多ク第一回ノ調査後一ヶ月ニシテ充實ノ度良好ナルニ驚ス

一連ノ剥身ヲ調フルニ一連ニテ平均吊下牡蠣五十個乃至六十個ニシテ之レヨリ剥身約五合ヲ生シタリ、又殼付山盛一斗ヲ剥身量ヲ計ルニ平均中山盛一升ヲ生シタリ、又剥身一斗ヲ得ルニ吊下本數三十六本ヲ以テ足レリ

七、餌料調査

調査月日 昭和三年一月三十一日
コッコナイス、スケルトネマ・コスタタム、ニツチャ、ヲ大部分トシ、キートセラス、ナビキユラ、レクモホラ、ヲ普通

トシ、コスシノデスクス、リゾソレニア、ブリウロシグマ、ニツチヤセリアタ、フラジラレア、メロシラ、セネドラ、等
 稀ニ發見ス
 同年三月一日調査
 コツコナイス、頗ル多ク、フラジラレア、ニツチヤセリアタ、ナビキユラ、ヲ普通トシ、ブリウロシグマ、コベボダ、リゾ
 ソレニア、メロシラ、ヲ稀ニ發見サル

大崎牡蠣養殖試験(新事業)

趣旨、田原灣適地調査ニ於テ同灣内ハ一般ニ蛸養殖トシテ盛ナルモ、各地點ニ轉在スル巨大ノ石ニ牡蠣ノ附着スルモノ多ク、
 之カ完全ナル附着物ヲ設置スルニ於テハ優良ナル牡蠣ヲ生産シ得ル見込アリ、且ツ同灣ハ豊橋ヲ初メ幾多ノ都市ニ接近シ居
 ル關係上販路ヲ求ムル便多シ右事情ノ元ニ第一同養殖試験ヲ實施スル事トセリ

一、試験地ノ概略(圖面参照)
 灣内梅田川口柳生川口ノ中間神野新田側ニ接スル地點ニシテ概地ハ淡鹹兩水ノ混交シ底質、砂礫ニ富ム、水深滿潮時七尺餘
 ニシテ大潮時十日近ク露出ス

二、試験方法及建込期日

松丸太棚ヲ用ユ、末口一寸五分、長サ二尺五寸ノ杭ヲ四本三尺四方ノ各隅ニ建テ之ニ四尺五寸ノ松丸太二本ヲ横木トシテ架
 シ此上ニ有枝條四尺五寸ノ丸太六本ヲ並ヘ釘着セシモノニシテ斯如キモノ二十臺ヲ七月十三日建設セリ尙七月十六日古粗朶
 ナ灣内本島ノ灣入部ニ一ヶ所二十株ノ豫定ニテ、三ヶ所計六十臺ヲ建込ミ附着及附着層成長等ヲ試験セリ

三、附着狀況及附着層

建込後十八日即チ七月三十日調査セシニ松丸太棚ニ種苗無數附着ヲ發見シ附着層ハ地上約二尺五寸前後ノ高サアリ一方古粗
 朶ハ附着僅少ニシテ一株ニテ二、三個ヲ認メタルノミ

四、成長度

調査月日	殻高	殻長	殻巾	重量
昭和二年七月三十日	〇.五	〇.四	1	1

同 十月十六日	三.一	一.七	一.一	〇.九
昭和三年三月二十五日	四.七	二.六	一.七	二.八

五、養成中ノ海況

調査月日	水		温		比		重
	上	中	底	上	中	底	
昭和二年八月十六日	三〇.八	二六.二	二八.〇	三三.九	三三.八	二四.四	
同 八月三十一日	二八.〇	二六.〇	二六.七	三三.〇	二六.三	二四.〇	
同 九月十六日	二五.九	二五.六	二五.六	三三.三	二八.九	一九.六	
同 九月二十四日	二三.七	二三.七	二三.八	三〇.六	三三.九	三三.八	
同 十月十四日	二五.九	二六.二	二六.二	一七.四	一七.五	一八.〇	
同 十月二十八日	二七.九	二八.三	二八.〇	二〇.三	二〇.九	二二.〇	
同 十一月十一日	二二.九	二二.八	二二.七	一七.五	一八.三	一八.三	
同 十一月二十六日	二〇.六	二二.三	二二.六	一九.四	二〇.五	二〇.七	
同 十二月二十七日	六.二	六.五	六.五	一九.五	一九.九	一九.九	
昭和三年一月十三日	五.四	五.六	五.六	一六.八	一六.八	一六.七	
同 一月二十九日	六.四	六.四	六.五	一六.八	一六.七	一六.七	
同 二月二十三日	五.一	五.一	五.〇	一四.九	一四.七	一四.七	
同 三月二十二日	二.九	二.九	二.〇	一三.七	一八.八	一九.六	

一、蛸増殖試験(前年度繼承)

一、前年度試験經過
 政成新田沖合試験地 大正十五年十月二十二日移殖セシ種苗ハ極メテ不良ナルコトハ前年度概報ニ記述セシ如クニシテ收

納期ニ入ルモ成育實入共ニ優レズ僅ニ五石一斗金額三十四圓二十四錢ヲ收納シ殘部ハ翌年度ニ繰越シタリ
成長度(三十個平均)

調査月日	種別	殻長	殻高	巾	一升ノ重量 (中山盛)	四百匁ノ 粒位ノ 平均重量	摘	要
五月三十日	大粒 中粒 小粒	三、三強 三、〇同 二、四同	二、六強 二、三弱 一、八同	一、七弱 一、五同 一、〇同	五、九六 四、八八 五、〇四	二、九八 二、九七 三、六八		
七月二十九日	同	三、五同 三、一弱 二、七同	二、六強 二、〇同 一、七弱	一、六強 一、三弱 一、〇同	五、二九 五、一四 五、三九	二、七四 二、七四 三、〇四		
十月七日	同	三、八弱 三、三同 二、七同	二、七弱 二、〇同 一、五弱	一、八強 一、三同 一、〇同	五、八三 五、七九 五、七四	二、六五 二、〇二 二、七六		
一月十九日	同	三、九弱 三、四同 二、八強	二、八弱 二、四同 一、九弱	一、八弱 一、三同 一、〇同	五、六四 五、四一 五、三三	二、四〇 二、四〇 二、五九		
三月二十四日	同	三、七弱 三、三同 二、九同	二、七弱 二、四同 一、九弱	一、八同 一、三同 一、〇同	五、〇〇 五、〇〇 五、〇七	二、三二 二、六四 二、六七		

二、本年度試験ノ概要

(イ)試験地 政成新田沖合前年施行附近

(ロ)試験方法

三月ノ交時付夏ヲ越スコトハ出水ノ影響、遊漁者ノ窃取等危険多カルヘキニ鑑ミ本年度ハ粒位ニ百粒内外ノ大ナル種苗ヲ秋季移植シ主トシテ實入ノ迅速ヲ圖リ長期蓄養ノ意味ニテ實施セリ

(ハ)種苗

産地、三河灣六條潟四號樋門附近

採集月日並運搬

昭和二年十月二十七日採集同日夕刻發動機船ニ積載シ翌二十八日早朝ト之一色若種苗ノ大サ

種別	殻長	殻高	殻巾	一升ノ粒 位中山盛	四百匁ノ 粒位ノ 平均重量	一升ノ目 方中山盛	一個ノ 方ノ 目	摘	要
大粒	三、八弱	二、八弱	一、九弱	一、九弱	一、四七	五、〇〇	二、三三	三十個平均	
中粒	三、四同	二、五同	一、六同	一、三二	一、八二	四、〇〇	二、二二		
小粒	二、一	一、五強	一、〇同	〇、六八	五、三七	四、〇七	〇、五五		

備考 大、中、小、混合一斗ノ重量四貫五百四十三匁

種苗ノ品質

大、中、小、混合ノ割合ハ中粒最多次位小粒、大粒ハ最少雜物混合、網破片、ちんみ、つめた貝等約一割

混合ス

移殖數量及價格

移殖數量五十五石、價格金壹百參拾參圓五拾錢外ニ運賃參拾五圓一斗貳拾貳錢四厘強、運賃ヲ加ヘ參拾錢六厘強

蒔付面積

約五千坪、一坪當リ蒔付量一升一合

蒔付時

昭和二年十月二十八日

(ニ)試験經過

實入充分ナラサル爲メ收納ヲ翌年ニ繰越シタリ

(ホ)成長度

(三十個平均)

種別	殻長	殻高	殻巾	一升ノ粒 位中山盛	四百匁ノ 粒位ノ 平均重量	一升ノ目 方中山盛	一個ノ 方ノ 目	摘	要
大粒	三、八強	二、七弱	一、七弱	一、九六	一、四六	五、四〇	三、三三		
中粒	三、四同	二、四同	一、四強	一、四強	一、三三	五、〇八	二、三三		
小粒	三、二弱	二、二同	一、三弱	一、三三	二、八五	五、二六	二、三三		

(ハ)海況

調査月日	表水	中底	温底	表比	中底	重底
昭和二年四月二十三日	一三、二	二、九	二、八	三、三	一、八	一、五〇

調査月日	水		温		比		重	
	表	中	表	底	表	中	表	底
五月二十日	一八、五	一七、九	一八、二	一八、二	二、八九	一六、一四	一六、二四	一六、二四
六月十八日	一九、八	一九、四	一九、四	一九、四	三、〇〇	二、二〇	二〇、九五	二〇、九五
七月四日	二六、九	二六、〇	二五、八	二五、八	四、八二	一七、九二	一八、六五	一八、六五
七月十五日	二七、四	二七、三	二七、三	二七、三	四、九七	五、二〇	五、八〇	五、八〇
八月一日	二八、六	二五、三	二四、五	二四、五	二、四九	二、四九	三、二〇	三、二〇
八月十五日	二五、四	二五、二	二五、一	二五、一	三、六二	三、一八	三、七二	三、七二
八月二十九日	二九、〇	二六、四	二六、三	二六、三	一、五七	一、八四	一、八七	一、八七
九月欠測								
十月二十九日	一八、七	一九、七	一九、七	一九、七	二〇、八二	三、五七	三、五七	三、五七

十一月以降欠測

(ロ)三河灣ノ部

一、趣旨 三河灣ハ藻貝ノ天然發生地各所ニ散在シ、増殖適地相當ニ廣シト雖モ、未タ増殖ノ實施ナキハ甚タ遺憾ナリキ、藻貝ハ剥身量ニ於テ比較的歩留多ク又價格大ナル重要貝類ナルヲ以テ之カ増殖ノ研究一層必要ナリ、増殖ノ實施ナキハ種苗産地遠隔ナル爲メ購入ニ困難ヲ來ス爲メナランカ、本所ハ大正十五年度三河灣淺海利用調査ノ際寶飯、渥美兩郡沿岸ノ最モ適當ナル所四ヶ所ヲ選定シ、之カ増殖ノ普及ヲ圖ラントスル目的ヲ以テ實施セリ

二、試験地

(イ)位置及面積

- 1、寶飯郡蒲郡町大字府相地先 約三百坪
- 2、同 郡大塚村地先 同百坪
- 3、同 郡御津村大字御馬地先 同百坪
- 4、渥美郡高師村大字大崎地先 同三百坪

(ロ)底質

- 1、泥砂質ニシテ黒褐色ヲ呈ス
- 2、砂泥質
- 3、小砂ニ泥ヲ交フ、深サ三、四寸
- 4、泥砂質ニシテ更ニ表面浮泥一寸以内アリ黒褐色ヲ呈ス

三、種苗

(イ)産地、島根縣中海産

(ロ)移殖數量八石、三斗入以二十七俵ニ包裝セリ、各試験地二石ノ割合

種別	殻長	殻高	殻巾	一升ノ粒位	四斗ノ粒位	一升ノ重	一斗ノ重	一個ノ重
大粒	三、五弱	二、九強	二、三弱	一、五三	一、〇九	五、四	三、八	三、八
中粒	二、九強	二、四同	一、九強	二、六八	一、九	五、九	二、六	二、六
小粒	二、二弱	一、七同	一、四	三、九	二、三	五、七	一、〇	一、〇

四、輸送並蒔付

(イ)輸送 昭和三年三月二十日夜島根縣荒島驛發送同月二十三日午後三時頃名古屋驛着、荷造損傷ナシ、以內温度七、五度、同日豊橋驛へ七俵(大崎分)御油驛へ七俵(御馬分)蒲郡驛へ十三俵(府相、大塚分)ヲ分送、二十四日朝各驛へ着ス

(ロ)蒔付 三月二十四日

六、三河灣淺海利用適地調査(前年度繼承)

本年度調査概要

調査場所及調査年月日
田原灣 第一期自昭和二年七月十三日至七月十五日

第二期自昭和二年七月二十七日至七月三十一日
 自昭和二年八月十一日至八月十五日

福江灣

(一) 田原灣ノ部
 一、地 勢 田原灣ハ沿岸線延長約一一、五哩中部幅員約二哩ニ及ヒ面積概算二千二百八十五町歩ニ達シ灣内ニハ砂洲ノ形成セル數多ノ大小島嶼散在ス、而シテ比較的狭小ナル灣口ニ因スルニ大濠及ヒ之ヨリ發スル幾多ノ枝濠、灣奥ニ到ル迄縱横ニ通シ潮流急速ナリ又之ニ灣口ヨリ梅田川、柳生川ノ兩川、灣奥ヨリハ汐川、注流シ外灣ヨリ襲來スル潮水ヲ適度ニ調和セリ
 二、水質ニ關スル調査(水温、比重ノ分布)

(1) 横斷觀測

A、柳生川口ヨリ大崎、杉山地先ニ沿ヒ田原灣町汐川口ニ至ルニ、表、中、底ノ各層觀測九點

B、田原町汐川口ヨリ浦大洲崎ニ沿ヒ六條潟二號新田ノ中間ニ至ルニ、表、中、底ノ各層觀測七點

(2) 干潟縱斷觀測

(イ) 梅田川、大崎線 大崎梅田川ヨリ大洲崎見通シ、二二〇間毎表、中、底、三層觀測點八點

(ロ) 大崎、大洲崎線 大崎崖ヨリ大洲崎見通シ同上六點

(ハ) 境川、小島線 境川口ヨリ小島見通シ同上八點

(ニ) 紙田川、佛島線 紙田川口ヨリ佛島見通シ同上六點

(ホ) 杉山、浦線 杉山ヨリ浦新田北端見通シ同上七點

(ヘ) 六條潟第一線 六條潟五號角ヨリ五號三號見通線上ニ直角ニ干潮線迄二二〇間毎、表、中、底、三層觀測三點

(ト) 六條潟第二線 五號、四號ノ中間ヨリ同上三點

(チ) 六條潟第三線 四號角ヨリ同上三點

(リ) 六條潟第四線 四號、三號ノ中間ヨリ同上三點

(ヌ) 六條潟第五線 三號角ヨリ同上五點

(ル) 六條潟第六線 三號角ヨリ田原町波瀾見通シ同上六點

(オ) 六條潟第七線 三號二號見通シ線上ヨリ第六線ニ平行干潮線ニ至ル四點

(ワ) 六條潟第八線 三號、二號見通シ線上ヨリ本島中洲ニ至ル同上三點

右調査ノ結果左ノ如シ

(A) 柳生川口汐川口線

觀測月日	位置	時刻	氣温	水深	表	中	底	比	中	重
七月十五日	1	午前五、三〇	三三、四	一、四〇	三三、七	三三、七	三三、三	一、八七九	三三、四	三三、一
同	2	同	同	二、九〇	三三、〇	三三、九	三三、八	一、五二二	三三、九	三三、二
同	3	同	同	三、四〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	一、四七二	三三、七	三三、二
同	4	同	同	四、〇〇	三三、五	三三、七	三三、七	一、四〇五	三三、七	三三、三
同	5	同	同	四、五〇	三三、〇	三三、七	三三、七	一、五三三	三三、七	三三、三
同	6	同	同	五、〇〇	三三、〇	三三、八	三三、八	一、五八〇	三三、〇	三三、三
同	7	同	同	五、三〇	三三、〇	三三、九	三三、九	一、五九四	三三、〇	三三、三
同	8	同	同	五、五〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	一、六六四	三三、七	三三、三
同	9	同	同	六、〇〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	一、六六二	三三、六	三三、三

(B) 汐川六條潟二號、三號ノ中間ニ至ル線

觀測月日	位置	時刻	氣温	水深	表水	中	底	表比	中	重	底
七月十五日	1	午前六、四〇	二四、九	二〇〇	二六、〇	二七、八	二七、八	一三、七	一六、八	二七、八	二七、八
同	2	同	二四、九	二〇〇	二六、〇	二七、八	二七、八	一三、七	一六、八	二七、八	二七、八
同	3	同	二四、九	二〇〇	二六、〇	二七、八	二七、八	一三、七	一六、八	二七、八	二七、八
同	4	同	二四、九	二〇〇	二六、〇	二七、八	二七、八	一三、七	一六、八	二七、八	二七、八
同	5	同	二四、九	二〇〇	二六、〇	二七、八	二七、八	一三、七	一六、八	二七、八	二七、八
同	6	同	二四、九	二〇〇	二六、〇	二七、八	二七、八	一三、七	一六、八	二七、八	二七、八
同	7	同	二四、九	二〇〇	二六、〇	二七、八	二七、八	一三、七	一六、八	二七、八	二七、八

觀測月日	位置	時刻	氣温	水深	表水	中	底	表比	中	重	底
七月十三日	1	午後四、四〇	二六、六	一、二〇	二九、〇	二九、七	二九、七	三、八	三、〇	二九、七	二九、七
同	2	同	二六、六	一、二〇	二九、〇	二九、七	二九、七	三、八	三、〇	二九、七	二九、七
同	3	同	二六、六	一、二〇	二九、〇	二九、七	二九、七	三、八	三、〇	二九、七	二九、七
同	4	同	二六、六	一、二〇	二九、〇	二九、七	二九、七	三、八	三、〇	二九、七	二九、七
同	5	同	二六、六	一、二〇	二九、〇	二九、七	二九、七	三、八	三、〇	二九、七	二九、七
同	6	同	二六、六	一、二〇	二九、〇	二九、七	二九、七	三、八	三、〇	二九、七	二九、七
同	7	同	二六、六	一、二〇	二九、〇	二九、七	二九、七	三、八	三、〇	二九、七	二九、七
同	8	同	二六、六	一、二〇	二九、〇	二九、七	二九、七	三、八	三、〇	二九、七	二九、七

(イ)大崎、大洲崎線

觀測月日	位置	時刻	氣温	水深	表水	中	底	表比	中	重	底
七月十三日	1	午後四、四八	二七、八	一、〇〇	三〇、二	三〇、〇	三〇、二	三、一五	三、〇	三〇、二	三〇、二
同	2	同	二七、八	一、〇〇	三〇、二	三〇、〇	三〇、二	三、一五	三、〇	三〇、二	三〇、二
同	3	同	二七、八	一、〇〇	三〇、二	三〇、〇	三〇、二	三、一五	三、〇	三〇、二	三〇、二
同	4	同	二七、八	一、〇〇	三〇、二	三〇、〇	三〇、二	三、一五	三、〇	三〇、二	三〇、二
同	5	同	二七、八	一、〇〇	三〇、二	三〇、〇	三〇、二	三、一五	三、〇	三〇、二	三〇、二

(ハ)境川、小島線

觀測月日	位置	時刻	氣温	水深	表水	中	底	表比	中	重	底
七月十三日	1	午後六、三〇	二五、八	二、三〇	二八、五	二八、〇	二八、〇	三、七	三、七	二八、〇	二八、〇
同	2	同	二五、八	二、三〇	二八、五	二八、〇	二八、〇	三、七	三、七	二八、〇	二八、〇
同	3	同	二五、八	二、三〇	二八、五	二八、〇	二八、〇	三、七	三、七	二八、〇	二八、〇
同	4	同	二五、八	二、三〇	二八、五	二八、〇	二八、〇	三、七	三、七	二八、〇	二八、〇
同	5	同	二五、八	二、三〇	二八、五	二八、〇	二八、〇	三、七	三、七	二八、〇	二八、〇
同	6	同	二五、八	二、三〇	二八、五	二八、〇	二八、〇	三、七	三、七	二八、〇	二八、〇
同	7	同	二五、八	二、三〇	二八、五	二八、〇	二八、〇	三、七	三、七	二八、〇	二八、〇
同	8	同	二五、八	二、三〇	二八、五	二八、〇	二八、〇	三、七	三、七	二八、〇	二八、〇

(ニ)紙田川、佛島線

觀測月日	位置	時刻	氣温	水深	表水	中	底	表比	中	重	底
七月二十七日	1	午後四、五二	二六、五	二、〇〇	二九、〇	二九、六	二九、五	三、三	三、三	二九、〇	二九、〇

(ル)六條潟第六線

観測月日	位置	時刻	気温	水深	表水	中	底	表比	中	重	底
七月三十一日	1	第一點-第五線ノ第一點ト同一ナリ		二、七〇	二、七〇	二、五三	二、四、五	二、三、六三	二、四、〇六	二、四、一六	二、四、一九
同	2	午前六、五〇		二、七〇	二、六〇	二、五三	二、四、五	二、三、六三	二、四、〇六	二、四、一六	二、四、一九
同	3	同 六、五六		二、八〇	二、六〇	二、五三	二、四、五	二、三、六三	二、四、〇六	二、四、一六	二、四、一九
同	4	同 七、〇二		二、九〇	二、七〇	二、五三	二、四、五	二、三、六三	二、四、〇六	二、四、一六	二、四、一九
同	5	同 七、〇八		二、九〇	二、七〇	二、五三	二、四、五	二、三、六三	二、四、〇六	二、四、一六	二、四、一九
同	6	同 七、一四		二、九〇	二、七〇	二、五三	二、四、五	二、三、六三	二、四、〇六	二、四、一六	二、四、一九

(ヲ)六條潟第七線

観測月日	位置	時刻	気温	水深	表水	中	底	表比	中	重	底
七月三十一日	1	午前六、六〇		一、九〇	二、七、四	二、二、四	二、七、三	二、三、八五	二、三、八〇	二、三、七五	二、三、七〇
同	2	同 六、二九		二、〇〇	二、六、五	二、一、一	二、六、二	二、三、九三	二、三、八八	二、三、八三	二、三、七八
同	3	同 六、三三		二、五〇	二、五、五	二、四、五	二、四、六	二、四、八	二、四、三	二、四、三	二、四、三
同	4	同 六、三七		七、〇〇	二、五、三	二、四、九	二、四、四	二、四、三	二、四、二九	二、四、二九	二、四、二九

(ワ)六條潟第八線

観測月日	位置	時刻	気温	水深	表水	中	底	表比	中	重	底
七月三十一日	1	午前六、〇二		二、八〇	二、六、七	二、六、五	二、六、五	二、三、六七	二、三、六二	二、三、五七	二、三、五二
同	2	同 六、〇六		四、一〇	二、六、三	二、五、四	二、五、四	二、三、九〇	二、三、八五	二、三、八〇	二、三、七五
同	3	同 六、一四		一、〇〇	二、五、八		二、五、六	二、四、二七	二、四、二二	二、四、一七	二、四、一三

三、底質ニ關スル調査

海洋観測並底棲生物調査地點ニ於テ採泥シ九川式砂泥淘汰器ニヨリ之ヲ調査セリ
(イ)梅田川大洲崎線(昭和二年七月十三日採泥)

位置	區別	礫	大砂	中砂	小砂	細砂	泥
1	表五寸下	〇、六	三、九	二、〇	五、〇、五	三、二	一、八
2	同	一、〇	一、二	一、二	二、六、二	六、八、四	二、〇
4	同	六、九、〇	一、五、四	五、〇	八、三、四	四、九	一、〇
5	同	六、三、三	九、三	七、八	二、二	二、三	一、〇
6	同	八、七、八	五、二	一、九	二、二	二、七	〇、二
7	同	六、二、二	一、五、一	五、〇	三、八	三、八	〇、一

位置	區別	礫	大砂	中砂	小砂	細砂	泥
1	表五寸下	一〇、一	一、一、五	三、三、七	三、二、九	五、一、九	三、〇、九
2	同	四、八	二、九、七	六、七、四	四、〇、六	二、四、四	〇、〇、八
3	同	七、六、四	二、二、〇	四、三、七	三、六、〇	一、七、六	〇、〇、三
4	同	六、〇、三	二、〇、三	七、五、七	五、八、〇	一、六、七	二、〇、九
5	同	五、〇、三	一、七、三	七、八、七	五、〇、三	一、六、五	二、〇、七
5	同	六、二、五	二、六、二	〇、四、四	〇、四、六	〇、三、六	〇、〇、三

位置	區別	礫	大砂	中砂	小砂	細砂	泥
大津島ワシヶ洲	表面	三二〇	一五、六	一三、二	一八、一	四一、〇	一、二
大津島松	同	七四、六	一五、九	一、六	一〇、九	〇、三	〇、三
大津島長鼻	五寸下面	四九、七〇	二八、八	一〇、四	一〇、九	五、六	〇、一
天津新田	表面	二、一	一、〇	四、〇	三、四	六、三	三、三

八五

(カ)

位置	區別	礫	大砂	中砂	小砂	細砂	泥
1	表面	六、〇	一、五	二、〇	三、九、二	五、一、四	〇、九
2	同	一、九	六、〇	二、七、〇	四、九、七	一、五、三	〇、一
3	同	一、九	八、〇	四、五、八	三、九、五	四、七	〇、一

(才)六條潟第七線

(ホ)杉山、浦線

位置	區別	礫	大砂	中砂	小砂	細砂	泥
1	五寸下面	〇、〇	〇、八	五、四	二、〇	七、〇	三、八
3	同	〇、五	〇、八	七、八	二、八、〇	六、〇、六	二、三
4	同	〇、〇	〇、一	三、六	二、九、〇	六、四、八	二、五
5	同	二、八	一、三	二、六	三、〇	七、〇、二	一、二
7	同	〇、〇	〇、〇	二、六	二、五	三、五	二、四

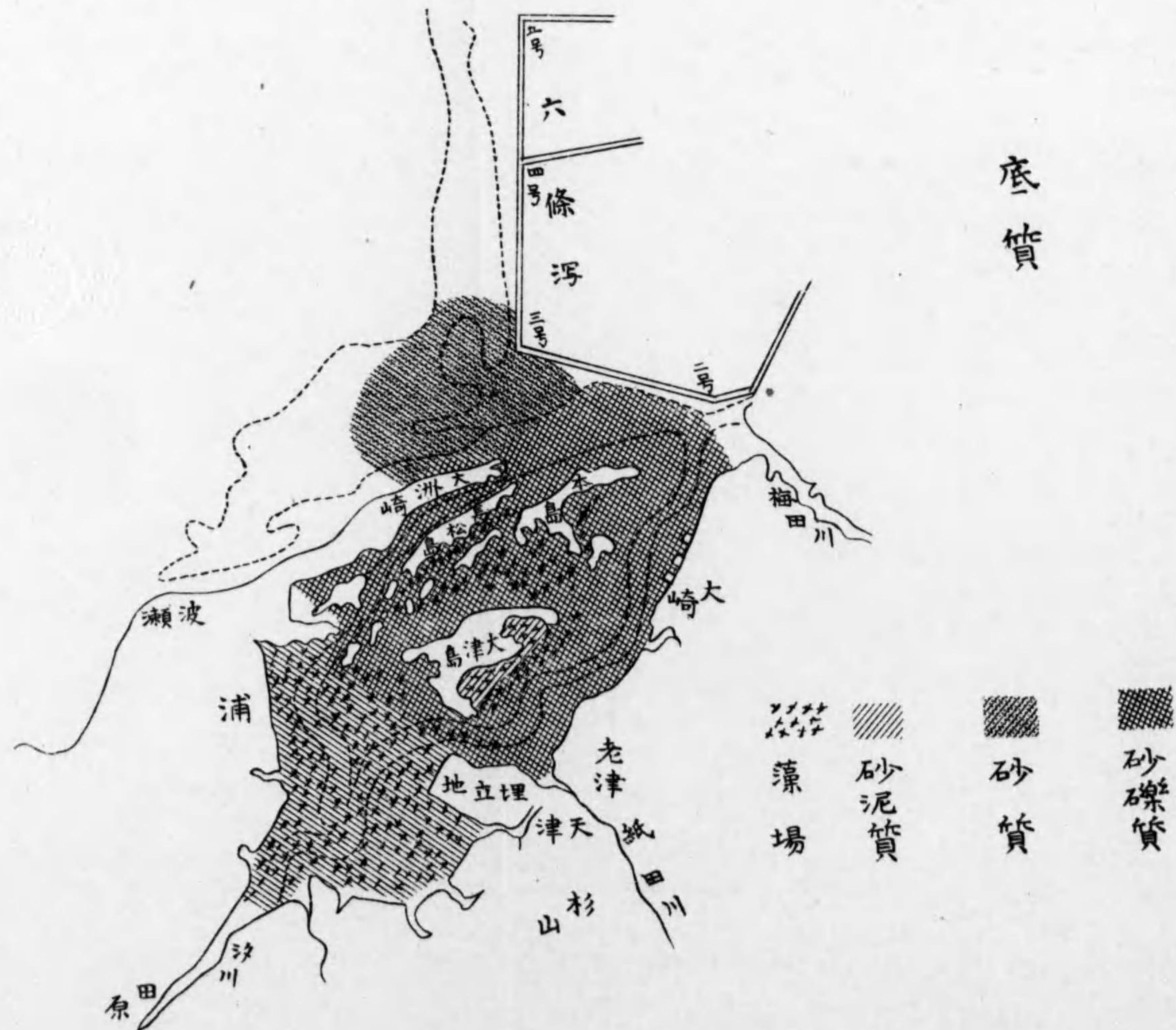
(ニ)紙田川、佛島線

位置	區別	礫	大砂	中砂	小砂	細砂	泥
1	五寸下面	〇、三	一、二	六、七	五、三、五	三、七、八	〇、五
2	同	一、一	一、〇	一、〇	一、九、八	七、三、五	三、五
3	同	七、〇	六、四	五、〇	六、五	六、〇	〇、一
4	同	七、〇	一、四、八	六、七	五、五	二、五	〇、一
5	同	七、七	二、二	二、三	三、二	七、三	〇、〇
6	同	三、二	八、六	七、一	一、七、四	四、七	二、〇

(ハ)境川、小嶋線

位置	區別	礫	大砂	中砂	小砂	細砂	泥
1	五寸下面	〇、七	〇、七	四、二	三、七、四	五、三、六	三、四
2	同	〇、七	一、七	三、二	五、二、七	四、二	〇、四
3	同	六、二	三、一	三、〇、一	六、〇、二	二、〇、一	〇、四
5	同	三、四	三、八	二、五、四	四、六、四	一、九、五	〇、五
6	同	五、六	二、七、八	八、六	五、一	一、八	〇、一
8	同	四、九、七	二、四、二	五、四、五	一、〇、四	五、六、九	〇、一

八四



底質

砂礫質

砂質

砂泥質

藻場

四、俘ニ關スル調査

(A) 灣口附近ニ於ケル俘ノ分布状態

(B) 灣内中央部附近ニ於ケル俘ノ分布状態

(C) 灣奥部ニ於ケル俘ノ分布状態

(D) 灣内潮流ノ最速場所ニ於ケル俘ノ分布状態並量

(E) 蛸優良地タル底質中ニ含マル、俘ノ分布状態

備考 俘ハ滿潮時ニ採集セリ

(A) 灣口附近ニ於ケル俘ノ分布状態

(イ) 六條灣第六線(六條灣三號新田、田原町波瀨ノ中間)採集地點ハ水深二、八〇米乃至四、五〇米ニシテ植物性俘ヲ第一位トシ硅藻類俘ノ主ナルモノ左ノ如シ

區別	礫	大砂	中砂	小砂	細砂	泥	摘要
北部(灣口)	四二.〇	九.四	六.二	一九.〇	三三.四	一.〇	梅田川大洲崎、大崎大洲崎、境川小島、紙田川佛島各線平均
南部(灣奥)	〇.八	〇.七	四.〇	三.六	七〇.四	二.五	杉山浦、天津新田、入道洲、小島、尺場、沖新田、平均
紙田川口表面				三.二	二.〇	四.五	
入道洲				〇.〇	〇.八	三.〇	
小島				〇.〇	〇.一	二.一	
小豆島				七.二	二.九	四.九	
沖新田				〇.〇	〇.〇	二.六	
要							三.六、三.〇、四.〇、五.〇、七.〇、五.七、〇.三、三.八、〇.三、二.四

紙田川口
入道洲
小豆島
小島
沖新田

右調査ノ結果之ヲ目至ルニ從ツテ地盤即チ北部ハ蝸多ク、

區別
北部(灣口)
南部(灣奥)

四、蟬ニ關スル調査

- (A) 灣口附近ニ於テ
 - (B) 灣内中央部附近
 - (C) 灣奥部ニ於テ
 - (D) 灣内潮流ノ最
 - (E) 蝸優良地タル
- 備考 蟬ハ滿潮ニ於テ
- (A) 灣口附近ニ於テ
- (イ) 六條灣第六線ニシテ藻類蟬ノ主

バクテリアストラムザリアニス、キユートセラステラリウム、キユートセラステスダンス、タラシオトリツクス、セラチウムフーサス、リゾソレニア

淺海増殖ニ關係アル介類ノ仔虫ハ檢鏡中稀ニ存在ヲ認メラレ又腹足類ノ卷貝ノ仔虫等モ割合分布多シ、此外みちんこ中唯一ノ海水産ノウサカワみちんこ分布廣ク多毛類ノ仔虫モ出現ス、蝸類ノ重要餌料ト認メラル、硅藻類ノニツチャ、コッコナイス、プリウロシグマノ如キ底質硅藻類ハ採集ノ關係上發見度數少ナシ、動物性蟬ハ硅藻類ニ亞ク

(ロ) 龜洲前附近ノ蟬分布
七月上旬ノ調査ヲ見ルニ一般ニ植物性蟬ハ少ナク動物性蟬ハ大部分占メタルモ下旬ノ調査ニ依レハ其反對ナル現象ヲ呈スル上旬ハ腹足類ノ仔虫動物性蟬、海水産枝角類、介類ノ仔虫、腔腸動物ノ仔虫、箭虫、ふじつぼノ仔虫、十脚類、纖毛虫類、多毛虫類ノ仔虫、うにノ仔虫等多少ニ不拘發見サルモ硅藻類ノ分布トシテハ、コスシノデスクス、ビツダルファイヤ、リゾソレニア、メロシラ、セラチウムフーサス等ハ割合ニ少ナク時折魚卵モ發見サル、然ルニ七月下旬ニ至リテハ、硅藻類ノキユートセラステラステラシナトリツクス、ヲ主トシテコッコナイヅ、シネドラ、ユーカーンピア、二位ニ屬シ動物性蟬トシテハ、上旬記述ノ種類稀ナカラモ發見ス、尙鞭藻類ノ數種前後兩期ニ少量發見ス

(ハ) 梅田川、柳生川附近蟬ノ分布
植物性蟬ヲ主トシテ、バクテリアストラムバリアニス、キユートセラステラステラ、數種、單細胞ヨリナル綠藻類、プロロコツカシイ脚類腹足類(卷貝)等ニシテ介類ノ仔虫ハ押出貝磯附近ニ多數發見ス、此外十脚類ノ蝦ノ仔虫等モ隨時發見ス、尙被囊類ノ仔虫ヒトデ、介甲類三味線貝ノ仔虫等淺海増殖ニ關係深キモノ多ク發見セリ、介類餌料トシテモ小形ノ硅藻アリ此附近ハ淡鹹兩水ノ混交海區ニアタルヲ以テ他ト趣ヲ稍々異ナル點ヲ見受ク、採集地點附近ノ水深ハ一米二〇乃至四米内外ナリ

(B) 灣内中央部附近ニ於ケル蟬ノ分布狀態
大津島ハ灣内中第一ノ島ニシテ稍々灣ノ中央部ニ位ス、周圍何レモ淺テ以テ圍繞サル、周圍一里餘ナリ島ヲ中心トシテ東北部、南部、西南部トニ區別シ蟬ヲ調査セリ

(イ) 東北部 大津島東北部ハ小浴ヲ距テ、西浦鰈洲及島洲ノ兩洲ト相對ス動物性蟬ヲ主トシ硅藻之ニ亞ク、動物性蟬中介類ノ仔虫ノ發生主位ヲ占メ當灣中隨一ナリ此附近蝸ノ天然發生區域ナルヲ以テ蟬ノ出現ニモ其一面ヲ呈セリ其他介甲類、十脚類、纖毛類トシテハ、セテラグラシレス、バラカラヌス、カラヌス等出現ス、硅藻類トシテハ、スケレトネマコスタタム、

ニツチャロンジシマ、ブリウロシグマ、コスシノデスカス等出現ス

(ロ)南 部 動物性浮子主トシ撓脚類、カラヌス、及巻貝、十脚類腕足類、多毛類、介甲類、被囊類、うすかわみじんこ、箭虫、うに等ノ仔虫及貝類ノ仔虫可成多數発見サル又植物性浮子シテ、リゾソレニア、ブリウロシグマ、ビツダルフィア、キートセラ等出現ス

(ハ)西南部 植物性浮子主トシ動物性浮子次位トス
植物性浮子、バクテリア、ストラムパリアンス、キートセラ、コスシノデスカス、ブリウロシグマ等、動物性浮子巻貝、撓脚類、多毛虫類、貝類、纖毛虫類ノ仔虫等トス

(C)灣奥部ニ於ケル浮子分布状態

(イ)杉山浦間海洋観測線附近

灣奥部ハ流速減衰シ動物性浮子ハ其量減ジ植物性浮子著シキ増加ノ傾向アリ

中ニモ、バクテリアストラムパリアンス。キートセラステタンスキートセラスアフィンラウダ等ハ最モ量多ク次ニ鞭藻類ノセラチウムフーサス、次ニコスシノデスカス、ビツタルフィアブリウロシグマ、グラマトホーラ、タラシオトリツクス、メロシラ等出現シ動物性浮子シテ貝類、巻貝類、撓脚類、カラヌス、セテラ、ノ類、纖毛虫類、うすかわみじんこ、介甲類、十脚類、多毛虫、ふじつぼノ仔虫等何レモ少量稀ニ発見サルモノ多シ

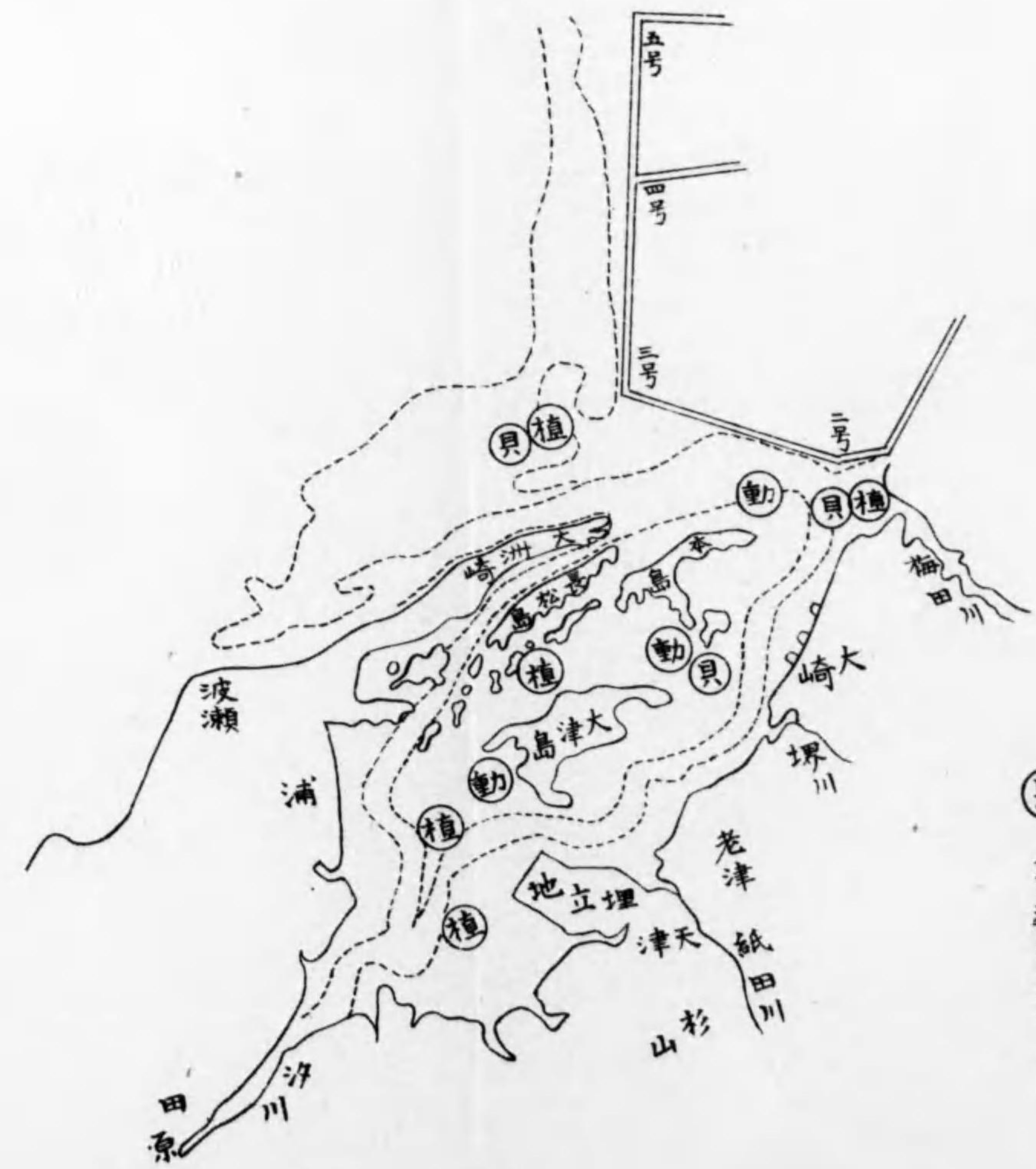
(D)灣内潮流ノ最速場所ニ於ケル浮子分布状態

灣内中大洲崎及東長松島ノ最東端(一名龍田鼻)ハ満干ノ都度海水著シキ勢ヲ以テ出入スル所ニシテ一分間ノ流速四十一メートルニ及ブ又海水一斗中ニ於ケル浮子ノ量ハ六、三〇ナリ(上ケ潮ニ合頃)其主ナルモノ、キートセラ、バクテリアストラムパリアンス、撓脚類ヲ主トシコスシノデスカス。タラシオトリツクス、ビツタルフィア、枝角類、リゾソレニア、ステファノピクシス、グイナリディア、フイミアラース、ヲ普通トシ貝類、多毛虫類、巻貝等少量アリ、特種ノ動物性浮子出現ヲ見ズ

(E)鯛優良地タル底質中ニ含マル浮子分布状態

灣内中俗名(崖)ト稱スル地ハ最モ優良ナル鯛ノ産地ニシテ底質ハ小礫ヲ以テ布カル且ツ灣口ヨリ直接潮ノ差當ル所ニシテ、流速又急、底着性藻ヲ檢セシニ、コツコナイス類ハ最モ多ク、次ニナビキユラ、シトレララブドネマ、ブツダルフィア、コ

浮子分布状態



- 植 植物性浮子
- 動物性浮子
- 貝類 貝類仔虫多シ

- ニツチャロンジシ
- (ロ) 南部 動物
- 箭虫、うに等ノ仔
- キートセラス等出
- (ハ) 西南部 植物
- 植物性浮、バクテ
- 脚類、多毛虫類、
- (C) 灣奥部ニ於ケル様
- (イ) 杉山浦間海洋細
- 灣奥部ハ流速減衰
- 中ニモ、バクテリ
- 藻類ノセラチユト
- ツクス、メロシラ
- 介甲類、十脚類、
- (D) 灣内潮流ノ最速埠
- 灣内中大洲崎及東長
- トトルニ及ブ又海水
- ムバアリンズ、撓脚
- アノビクシス、グイ
- ヲ見ズ
- (E) 鯛優良地タル底質
- 灣内中俗名(崖)ト稱
- 流速又急、底着硅藻

スシノデスクス、グラマトホラ等存在スルヲ觀察セリ、次ニ灣内藻貝ノ發生地ハ大津島、鯨洲ノ中間ニシテ同地ノ底質ヲ檢

鏡セシニ、コツコナイスハ其主ナルモノニシテ、シネドラ、コスシノデスクス、ラブドネマ等發見セリ

(イ) 大崎屋鯛養殖場ニ於ケル鯛ノ餌料調査

ニツチャ類、コツコナイス、シンペラ、シネドラ、ナビキユラ、其内コツコナイスヲ普通トシ其他少量發見サル

(ロ) 老津村堂津鯛養殖場ニ於ケル鯛ノ餌料調査

主トシテ底着硅藻ニシテ材料ノ採集後、フオルマリン漬トシテ送附シ來リタルモノナレハ消化サレシモノモ多少アル見込

ナリ、餌料トシテ發見セシモノ次ノ如シ

グラマトホーラ、コツコナイス、コスシノデスクス、シネドラ、シンペラ、ニツチャ、就中コツコナイスハ普通トス

(ハ) 尺場附近ニ於ケル藻貝ノ餌料調査

グラマトホーラ、並ニツチャ、極稀コツコナイス、シネドラ、稀、ブリユウロシグマ、ノ如キモノ見タレドモ色素ナキ爲

(消失)且ツ其一部ナルヲ以テ確定セス、藻貝ノ卵未熟ノモノ多シ

(ニ) 入道洲附近ニ於ケル藻貝ノ餌料調査

コツコナイス、普通、餌料トシテ普通ニ發見シタリ。シンペラ、ニツチャ、稀

五、重要底棲生物、増殖漁業狀況其他増殖見込ミ水族ノ考察

方法 底棲生物調査ハ縦斷觀測線ノ各點並ニ洲島等ノ周圍若クハ沿岸ニ沿フテ干出セル處ハ六尺四方ヲ鍬ニテ掘り返シ、

其他ノ事項ハ事情ニ曉通セル漁夫ニヨリ聴取セリ

(a) 梅田川大洲崎線

位置	干出程度	底棲生物種類	數量	増殖漁業狀況	増イ見込水深	其他
1	干出ス	大野貝一個、鯛二四個、ウスギヌ二個、コマノツメ一四個		鮫漁業	!	アジモ多ク
2	同	鯛八六個、蛤二個、大野貝一個、コマノツメ一五個		鯛漁業	!	アジモ多ク一帯ニ
3	干出セス	干潮時水深三、七米アリテ調査不能		同	!	地盤高ク

(b)右調査ニ依ル重要貝藻類ニ就而ノ所見

(イ)牡蠣ハ梅田川柳生川ノ中間野新田側ニ接スル處ニ良質ノ牡蠣ヲ産シ、大津島、東北面、鬼塚、沖新田地先ニ多少産スルト雖モ大概小粒ニシテ良質ノモノナラス然レトモ田原灣ハ一帶ニ豐富且ツ海水比重濃ク加フルニ潮流ノ急速、地盤硬ク深淺ノ浮縦横スルヲ以テ淺海ノ底ニハ牡蠣稚貝ヲ蒔付ケ、深淺ニハ牡蠣ヲ吊下設備ヲナシ成長實入ニ昂ムルモ可ナリト思考セラル、以上兩灣ハ船ノ航路ナラサルヲ以テ之ヨリ受クル被害ナシ

(ロ)蛸ハ梅田川口ヨリ大崎、老津地先沿岸大津島、小豆島、尺場、東長松島沿岸ニハ種苗發生スレドモ、灣内ノ洲、島ノ附近ハ比較的之レカ發生少ナシ然レトモ此處ニ産スル蛸ハ成長實入共ニ良好ナルヲ見、現ニ大崎漁業組合ニ於テハ之ニ着眼シ貝磯、穀洲、間谷、下ノ場、崖、赤洲、老洲漁業組合ニテハ松下、新切洲、堂津、小島、蟻島等ニ於テ神野新田、三號地先若シクハ前芝地先ヨリ種苗ヲ移植養成シ何レモ好成績ヲ納メツ、アリ

(ハ)藻貝ハ中尾、大津島、箕輪及入道洲、石塚ヲ中心トシテ天津新田、新々田、福住、谷熊新田、浦、吉胡新田、鬼塚、佛島附近ニハ發生スルヲ見タルモ此附近一帶ニ藻場ナル爲ニ之カ増殖ヲ圖ル上ニ至大ノ害アルモノ、如ク、依ツテ之カ驅除開拓ニ昂メナハ一大藻貝種苗場並ニ養成場ノ出現ヲ見ルコト、思考セラル

(ニ)海苔ハ本島東北面並ニ大崎地先八十三萬坪ハ大崎漁業組合ノ養殖場トシテ年産額壹萬餘圓ヲ産出シ又老津村地先、狐洲、天王崎九萬坪ハ老津漁業組合ノ養成場トシテ年産額參千四百餘圓ヲ産出セリ然レドモ尙此外海苔増殖適地大ナル見込ナリ

(ホ)ふくろふのりハ下ノ場、大津島、ヒイラゲ、天津新田地先等ニ多少ノ附着ヲ見ルノミニシテ、之カ産額僅少ナリ然レトモ海況並ニ地盤共ニ適當セルヲ以テ之レカ増殖施設ヲナスニ於テハ相當ノ産額ヲ見ルヲ得ヘク思考ス

六、試 驗

(イ)底質改良試驗

趣旨 前記蛸ノ項ニ於テ記述セル如ク田原灣沿岸ニハ一帶ニ蛸種苗發生スレトモ沖合ニ於テハ發生極メテ僅少ナリ、即チ其原因タルヤ諸事項アリト雖モ主トシテ底質ニ依ル所大ナリトシ人爲的ニ之カ改良ヲ成シ以テ種苗ノ發生ヲ圖ラントセリ試驗場所 田原灣本島西北、龜洲下
面積 二十四坪

方法 六條灣第七線第四點目ヨリ砂ヲ採集シ厚サ五寸ニ數詰メ表面ニ蛸貝ノ粉碎セルモノヲ薄ク時キ散布セリ之ニ要セシ材料砂二立坪、蛸殻一石、人夫二名

(ロ)牡蠣養殖試驗 (梅田川口養殖試驗記事参照)

七、結 論

田原灣ハ地勢ト云ヒ、水質底質皆共ニ調和シ實ニ淺海増殖適地タルコトハ前述各項參照シテ明カナリ、現ニ大崎、老津漁業組合ニ於テハ蛸、海苔ノ増殖ヲ行ヒ各々好成績ヲ納メツ、アリト雖モ、尙閉却ノ有用地多ク紙田川佛島見通シ線以南ニ至ル廣漠タル地ノ如キ殆ント藻貝ノ増殖ニ適當セルモ、あまも、こもノ繁茂甚シキニ妨ゲラレ之カ蕃殖ニ及ホス影響大ナルモノ、如キ状態ニアリ、依ツテ此等藻類ノ刈取りニ昂メ底質ニ幾分ノ緩味ヲ與フルニ於テハ一大藻貝増殖場ヲラシメ得ヘク、尙又紙田川佛島見通シ線以北ノ淺所ニハ蛸、海苔ノ増殖ニ適シ溶底ニハ牡蠣ヲ撒布シ或ハ又垂下式養殖法ヲ行ヒ以テ實入成長ニ謀ル等寸分ノ隙ナク利用シ得ラル、ナリ
殊ニ灣内ニハ増殖施設上忌ム可キ漁業少ナク又船ノ行通少ナク妨ナラサルヲ以テ將來利用開拓ニ依ツテ一大淺海増殖地トシテ益々生産ヲ向上セシメ延イテ食糧問題ノ一端ヲ補フヲ得可ク信スルモノナリ

二、福江灣ノ部

一、地 勢 福江灣口中員約〇、八哩、沿岸線ノ延長約六哩、中部幅員約一哩ニ及ヒ面積六百二十八町步ニシテ田原灣ノ約二分一ニ當ル、而シテ外海ニ近ク灣内ニハ砂、礫等ヨリ成ル洲、點在シ灣奥部ニハ天白川、免々田川ノ二川流入セリ灣口ヨリ大小三灣奥部ニ向ツテ繞連シ又沿岸ニ平行ニ一灣橫行シ潮流又急速ナリ

二、水質ニ關スル調査(水温比重ノ分布)

方 法

(1)縱斷觀測1哩毎ニ表面、中層、底ヲ採水調査ス

- イ、免々田川、新切鼻線 五點
- ロ、折立新切鼻線 三點
- ハ、折立鎗崎線 五點

(2) 横断観測 1-2 哩毎ニ表面、中層、底探水
 A、新切伊川津線
 B、小中山伊川津線
 右調査ノ結果左ノ如シ
 (1) 免々田川、新切鼻線
 二點
 六點

観測月日	位	置	時	刻	氣	温	水	深	表	水	中	温	底	表	比	中	重	底						
八月十一日	1、	免々田川口	午後	四、九	三、	六、	一、	〇、	三、	七、	三、	三、	三、	一、	八、	三、	三、	三、						
	2、	秋葉下							三、	六、	二、	四、	三、	七、	三、	三、	三、	三、	三、	一、	八、	三、	三、	
	3、	新切鼻							三、	六、	二、	四、	三、	七、	三、	三、	三、	三、	三、	三、	七、	三、	三、	三、
	4、	灣口中間							三、	六、	二、	四、	三、	七、	三、	三、	三、	三、	三、	三、	七、	三、	三、	三、
	5、	鎗ヶ崎							三、	六、	二、	四、	三、	七、	三、	三、	三、	三、	三、	三、	七、	三、	三、	三、

(口) 折立、新切鼻線

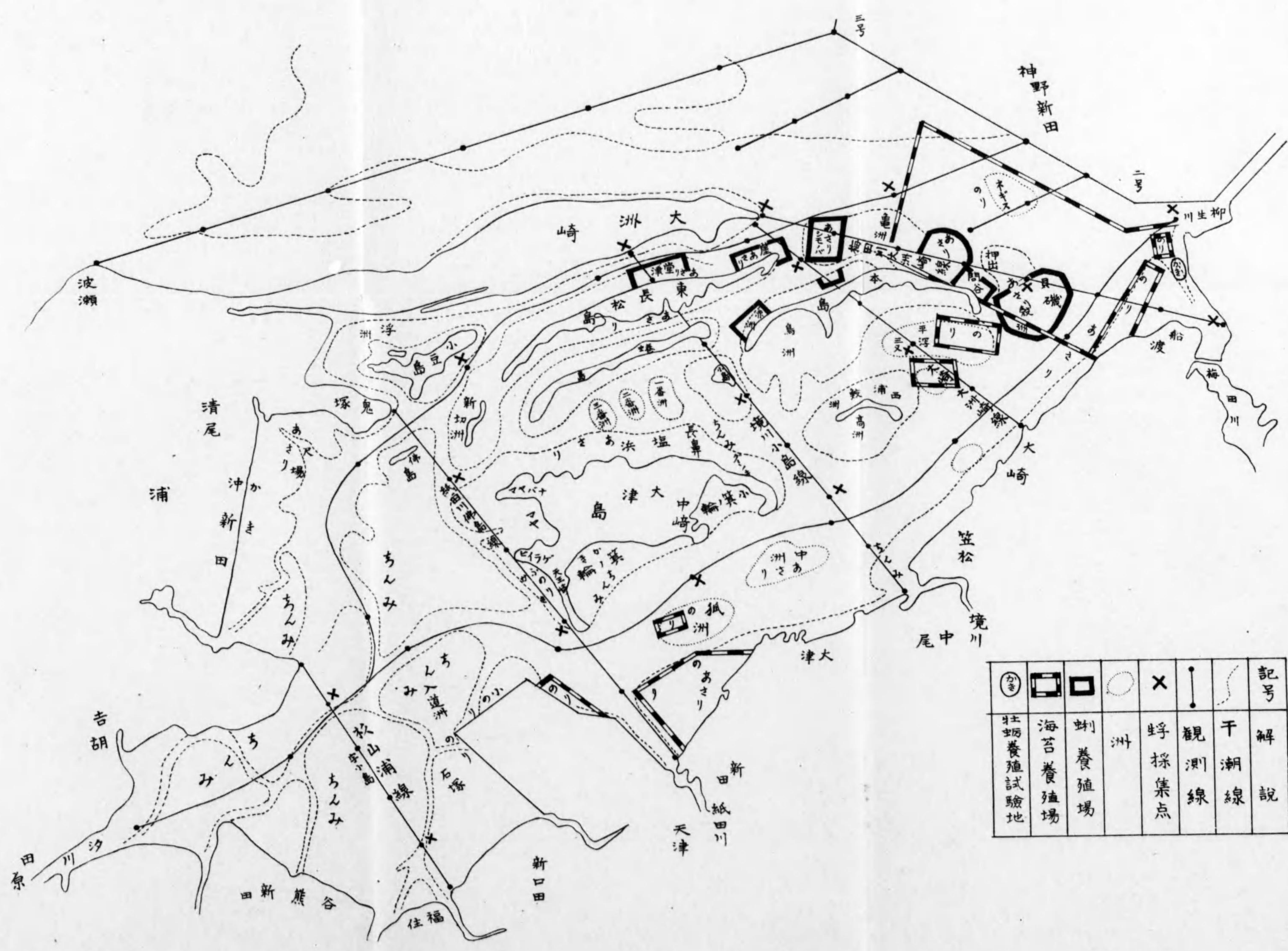
観測月日	位	置	時	刻	氣	温	水	深	表	水	中	温	底	表	比	中	重	底						
八月十一日	1、	折立	午後	五、二	一、	一、	二、	五、	三、	九、	三、	三、	三、	三、	九、	三、	三、	三、						
	2、	同							二、	〇、	二、	八、	二、	七、	二、	七、	二、	七、	二、	七、	二、	七、	二、	七、
	3、	同							二、	五、	二、	六、	二、	八、	二、	七、	二、	七、	二、	七、	二、	七、	二、	七、
	4、	同							二、	六、	二、	四、	一、	七、	二、	六、	二、	七、	二、	六、	二、	七、	二、	六、

(ハ) 折立、鎗崎線

観測月日	位	置	時	刻	氣	温	水	深	表	水	中	温	底	表	比	中	重	底
八月十一日	2、	同	午後	五、	三、	一、	二、	五、	二、	九、	三、	三、	三、	二、	九、	三、	三、	三、

(A) 新
 同 同 同
 観測月日
 八月十五日
 同
 (B) 小
 同 同 同 同 同
 観測月日
 八月十五日
 同
 三、底質ニ關
 海洋観測並





記号	干潮線	観測線	採集点	洲	蛭養殖場	海苔養殖場	牡蛎養殖試験地
(カキ)	—	—	X	○	□	◻	◻

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

尺 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

同	深	表	中	底	表	中	底	同
4	3.5	2.5	1.5	0.5	1.5	2.5	3.5	4
同	6.0	5.0	4.0	3.0	4.0	5.0	6.0	同
同	6.0	5.0	4.0	3.0	4.0	5.0	6.0	同

(2) 横断
A、新
B、小
右調査ノ結
(1) 免々

觀測月日	八月十一日	同	同	同	同
觀測月日	八月十一日	同	同	同	同
觀測月日	八月十一日	同	同	同	同
觀測月日	八月十一日	同	同	同	同

(口) 折立

觀測月日	八月十一日	同	同	同
時刻	同	同	同	同
氣温	同	同	同	同
水深	同	同	同	同
表水	同	同	同	同
中温	同	同	同	同
底温	同	同	同	同
表比	同	同	同	同
中重	同	同	同	同
底重	同	同	同	同

(A) 新切、伊川津線

觀測月日	八月十五日	同	同	同
時刻	午前七、五	同	同	同
氣温	二四、九	二四、九	二四、九	二四、九
水深	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
表水	二六、一	二六、一	二六、一	二六、一
中温	二六、〇	二六、〇	二六、〇	二六、〇
底温	二六、一	二六、一	二六、一	二六、一
表比	三、六	三、六	三、六	三、六
中重	二四、八	二四、八	二四、八	二四、八
底重	二四、〇	二四、〇	二四、〇	二四、〇

(B) 小中山、伊川津線

觀測月日	八月十五日	同	同	同	同	同	同	同	同
時刻	午前六、四	同	同	同	同	同	同	同	同
氣温	一	一	一	一	一	一	一	一	一
水深	二、〇〇	三、〇〇	七、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
表水	二六、二	二六、二	二六、二	二六、二	二六、二	二六、二	二六、二	二六、二	二六、二
中温	二六、三	二六、三	二六、三	二六、三	二六、三	二六、三	二六、三	二六、三	二六、三
底温	二六、二	二六、二	二六、二	二六、二	二六、二	二六、二	二六、二	二六、二	二六、二
表比	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
中重	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
底重	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇

三、底質ニ關スツ調査
海洋觀測並ニ底棲生物調査地點ニ於テ採泥シ丸川式砂泥淘汰器ニ依リ之ヲ査定ス

位 置	區別	礫	大砂	中砂	小砂	細砂	泥	備 考
松山洲日ヶ濱新田前	表面	五、〇	二七、〇	二〇、〇	二〇、二	九、七	〇、一	
松山洲北端	同	六、二	一六、五	四、五	六、四	六、三	〇、一	
中瀬中ノ高所	同	〇、六	〇、六	二、〇	七、四	一九、三	〇、〇	礫、大砂、ハ貝殻ノミ
中瀬北側浮緑	同	一、〇	〇、七	〇、九	八、九	八、五	〇、〇	同
江比間海藪場	同	三、四、五	七、七	〇、一	二、四、七	三、九	〇、一	
折立新切鼻同三點目	同	一〇、八	一〇、四	一、六、四	二、八	三、五、四	五、二	礫トハ藪、竹木石ノ混合
折立崖下	同	〇、七	〇、五	三、九	三、八	三、〇	〇、一	礫ハ貝殻ノミ
エビス洲松山洲ノ對岸	同	四、九	三、五、五	一〇、一	五、六	三、九	〇、〇	
黒木下	同	一五、五	二二、〇	二、五	四、九	二、一	〇、〇	

右調査ノ結果ニヨレハ松山洲、エビス州、江比間海岸、若ハ岸ニ接近セル個所ハ礫多ク其他ハ小、細砂質ナルヲ見ル、而シテ濔内ハ一帶ニあまも繁茂シ岸近キ淺所ニハこも多少繁茂セリ

四、浮ニ關スル調査

灣内ニ於ケル浮ハ一般ニ硅藻類蕃殖分布頗ル多ク動物性浮ハ概シテ少ナシ、硅藻浮ニ於テハ特ニ多キハ、キートセラス、バクテリアストラム、ノ二種トス、貝類ノ仔虫ハ出現稀ニシテ小中山地先及灣ノ中央部、東部、中瀬附近ニ見ルニ過ギズ左ニ各地點ニ付キ採集シ檢鏡結果ヲ記述セリ

一、新切鼻附近

多トスルモノ バクテリアストラムバリアンス、キートセラス數種、タラシオトリツクス
 普通ナルモノ 撓脚類
 稀ナルモノ ダイナルデア、リゾソレニア、デテリウム、スケレトネマコスタ、ム、コスシノデスクス、セラチユーム、ビツダルファイア、多毛類ノ仔虫、腹足類仔虫、纖毛虫類仔虫

二、鎗崎附近

多トスルモノ 硅藻類、バクテリアストラムバリアンス
 普通ナルモノ 腹足類ノ仔虫、撓脚類及其仔虫
 稀ナルモノ セラチユームフーサス、リゾソレニア、タラシオトリツクス、ビレデニユーム、貝類ノ仔虫

三、天白川附近

主ナルモノ キートセラス
 普通ナルモノ 腹足類仔虫、タラシオトリツクス、撓脚類及其仔虫
 稀ナルモノ ビレデニウム、貝類ノ仔虫、コスシノデスクス、纖毛虫類仔虫、バクテリアストラムバリアンス

四、黒木下前附近

主ナルモノ バクテリアストラム
 普通ナルモノ 腹足類仔虫、撓脚類、キートセラス數種
 稀ナルモノ ニツチャセリアタ、貝類ノ仔虫、コスシノデスクス、セラチユームフーサス、タラシオトリツクス、ビツダルファイア、セラチユーム、ビレデニユーム、纖毛虫類ノ仔虫

五、松山洲附近

多トスルモノ バクテリアストラム、キートセラス
 普通トスルモノ 撓脚類
 稀ナルモノ 腹足類仔虫、リゾソレニア、タラシオトリツクス、コスシノデスクス、纖毛虫類ノ仔虫、ビツダルファイア、貝類ノ仔虫、鞭藻類、グリナリデア

六、秋葉下附近

潮流ハ叉狀ニ分岐スル所ナルヲ以テ流速早ク海水一斗中ニ含マル、浮ノ量ハ〇、五ccニシテ、大略分類スルニ動物性浮〇、一五cc、植物性浮〇、三五ccノ割合ナリ
 多トスルモノ キートセラス、バクテリアストラム
 普通ナルモノ 腹足類ノ仔虫、撓脚類仔虫、タラシオトリツクス

七、免々田川附近

多トスルモノ 纖毛虫類仔虫、キートセラス
 普通ナルモノ 撓脚類仔虫
 稀ナルモノ 腹足類ノ仔虫、コスシノデスクス、纖毛虫類ノ仔虫、貝類ノ仔虫、鞭藻類

八、灣ノ中央部

多トスルモノ キートセラス、バクテリアストラム
 普通ナルモノ 撓脚類
 稀ナルモノ タラシオトリツクス、コスシノデスクス、貝類ノ仔虫

九、中瀬附近

多トスルモノ キートセラス
 普通ナルモノ バクテリアストラム、ビレデニウム、撓脚類ノ仔虫
 稀ナルモノ セラチウムフーサス、多毛虫ノ仔虫、セラチウム、タラシオトリツクス、コスシノデスクス、腹足類ノ仔虫、ビツダルファイア

五、重要底棲生物、増殖、漁業状況、其他増殖見込水族ノ考察

方法 底棲生物調査ハ海洋観測點並ニ洲島ノ周圍若クハ沿岸ニ沿フテ干出セル所ハ六尺四方ヲ鍬ニテ掘返シ其他ノ事項ハ事情ニ曉通セル漁夫ニ依リ聴取セリ

(イ)新切鼻

位置	干出程度	底棲生物種類及數量	増殖漁業状況	増殖見込水族	其他
新切鼻	干出ス	重要生物ナシ、底面ハ綠藻類ニテ蔽ハル、重要地トラフ		蛸	
松山洲ノ對岸	同	蛸一一個		同	
秋葉下對岸	同	蛸三三六個		同	

立馬養魚場前	同	大野貝多少棲息ス	蛸移殖セルモ良好、ラサリヤ	牡蠣	あまも、こも繁茂ス
天白川	同	牡蠣多數瓦礫、石ニ附着ス		藻貝	
黒木下	同	藻貝三個		牡蠣垂下式	
秋葉下	干出セ	灣入スル崖ヨリ一間先ハ深ク潮流分歧シ流速急ナリ			
荒子地先	干出ス	蛸多少アリ良質ナラス		藻貝	こも繁茂ス
ベザイ下	同	蛸、藻貝多少發生ス		同	あまも繁茂ス
ワレマ下	同	蛤、藻貝、夏蝦、車蝦、多少發生ス	サヨリ、黒鯛、鰯		地盤硬シ
イカンシタ	同	同			
崖下	同	蛸多少發生ス			
折立	同	大野貝、藻貝、三個處	鰹		同
高木下	同	蛸相當發生スルモ干潮時間長ク且ク地盤堅キ爲メ死滅スルコトアリ			
洲崎	同	蛸少ナシ	車蝦、白鯛發生ノ、藻ナシ		干潟境界線ニ近キ處ハあまもアリ、干潟ト岸トノ中間ニモアリ
高木森	同	藻貝發生ス	海鼠發生地		
小入り新設新田	同	蛸多少發生スルモ良質ナラス	蝦、白鯛仔發生重要地		あまも多シ
石神	同	同	蛸種子場ニシテ泉地先へ移殖ス	瑪珂貝	
中瀬	同	蛸三二一個、赤螺一個	海苔養殖場	海苔	
養魚場前	同	海苔	海苔養殖場	海苔	
泉村辨天地先	同	海苔、蛸、鬼蛸	海苔、蛸	海苔養殖場面積十五百坪	

辨天崎小屋下	同	鯛四五個、海羅、岩海苔、石花菜	海鼠	岩海苔、石花菜
横手	同	鯛一三個、ミルクヒ、タヒラギ	同	タヒラギ、ミルクヒ
松山洲	同	鯛五九〇個	同	鯛種子場
鳥洲	同	鯛二〇一六個、ミルクヒ	同	鯛種子場

右調査ニ依ル重要貝藻類ニ就テ所見

(一) 鯛 エビス洲、中瀬、辨天崎松山洲、鳥洲等ニ多ク産シ殊ニ鳥洲、松山洲、中瀬ハ鯛種苗發生場トシテ可ナレドモ其他ハ種苗移殖養成場トシテ其成績又見ルベク、沿岸部ニ於ケル鯛ハ一帯ニ良質ナラズ

(二) 牡蠣 天白川口並ニ免々川口ノ二ヶ所ニ良ク石、瓦等ニ附着スルヲ見ルモ、干出日數多キ爲カ比較的實入成長共ニ劣ルガ如ク見ラル、依ツテ此等ヲエビス鼻先並ニ秋葉下ノ潮流急速ナル個所ニ於テ吊下式養蠣ヲ施行シ實入並ニ成長ヲ計ルモ亦可ナリト思考セラル前記ニテ所ニ於ケル潮流ノ速サヲ見ルニ次ノ如シ

流速ノ調査ハ正潮流計ヲ以テ之ヲ調査ス(八月十二日午後上ゲ潮)

場所	埃		秋葉下鼻		秋葉下鼻	
	午後一時四十五分	午後二時三十分	午後一時三十六分	午後一時三十六分	午後一時三十六分	午後一時三十六分
水面	一八〇	四七、七	一	四〇〇	一九六	一九六
五寸	一六〇	四七、三	一	三〇〇	八五、二	九、八
一尺	三〇、三	二七	一	一三、四	八五、二	九、八
二尺	三、三	三、九	一	一四、六	五三、〇	一五、一
水深	一分間	一分間	一分間	一分間	一分間	一分間
流速	時十打音ノ間	時十打音ノ間	時十打音ノ間	時十打音ノ間	時十打音ノ間	時十打音ノ間

(三) 藻 貝 黒木下、ベサイ下、ワレマシタ、折立、高木森地ニ多少發生シ底質ノ調査ヨリ見ルニ藻貝養殖ニ適當ノ如ク考ヘラル、モ一帯ニあまも、こもノ繁茂甚シキニ妨ゲラレ之レガ發生棲息ニ自然ト影響スルモノノ如キ状態ニアリ依ツテ此等藻ノ刈取ヲナシ底質ニ幾分ノ緩味ヲ與フルニ於テハ將來藻貝増殖場トシテ適當ナルベク考察スルモノナリ

(四) みるくひ 横手、松山洲、鳥洲ニ産シ壹個貳拾五錢ヲ稱ヘ一日一人拾五貫匁位、漁獲スルコトアリ、主トシテ荷ハ東京へ出荷スルト石油箱三箱(八十個乃至百個入)五圓乃至六圓ノ相場ナリト云ヒ、福江灣ニ於テノ重要産物ノ一ナリ

(五) 海 鼠 灣内濠中ヲ始メ島、洲等ノ周圍ノ深所ニ毎年多ク發生シ相當ノ産額アリト謂ドモ更ニ海底ニ投石シ以テ之レガ蕃殖ニ昂メナバ一層多クノ産額ヲ納ムルコトヲ得ルモノナリ

(六) 海 蘿 泉村辨天地先ニ於テハ泉村漁業組合ガ大正三年ヨリ之ガ増殖ヲ開始シ面積千五百坪ヲ劃シ年産額五、六千圓内外ヲ昇ゲツ、アリ、本年度ノ如キハ幡豆石五百石(百石四千貫)ヲ投石セリ、毎年投入石一個(十五、六貫)ニテ小竈ニ一杯ノ海蘿ヲ摘採スルヲ得ト云フ、而レドモ調査スル處ニ於テハ辨天地先ヨリ鎗ヶ崎ニ至ル一哩ノ地間ニ繁殖ノ跡ヲ見又其附着ノ巾員即チ岸ヨリ四十間位迄ノ間ニ附着スルヲ見タリ、即チ四萬七千六百坪餘ノ適地アルヲ見、將來之ガ利用ノ開拓ノ上ハ實ニ一大海蘿養殖場トシテ年産額十二萬圓餘ヲ昇ゲ得ルコトハ前述ノ面積ヨリ算出シテ豫想容易ナリ

(七) 海 苔 免々田川口渥美養魚場前ノ各一部分等ニ於テ養殖セラレツ、アルト雖モ尙餘地多ク此外養殖適地トシテハ秋葉下ヨリ天白川口ニ至ル間立馬養魚場前、折立、日々濱新田、向山新田、渥美養魚場前等モ亦見込アルモノ、如シ

(八) てんぐさ、いわのり 辨天崎小屋下ノ防波堤並ニ黒部岩等ニ附着スト云フ、人工的ニ磯掃除並ニ投石等ニ依ツテ之レガ附着物ヲ施設スルニ於テハ又見ル可キ産額ヲ納メ得ルモノト考察セラル

(九) 瑪珂貝、鳥貝 ハ灣外ノ深所ニ多ク産スルモ、灣内ニ於テハ適所ナク只中瀬、鳥洲ノ西ニ面スル處ハ瑪珂貝ノ養殖場トシテ稍々可ナルガ如シ

六、試 験

右調査ニ依リ秋葉下地先濠ノ分岐スル地點ハ牡蠣吊下式ニ適當ト認メ之レガ試験ヲ施行セリ(福江灣牡蠣吊下式試験記事參照)

七、結 論

福江灣ハ河川ノ注流少ナク且ツ外海ニ近キ爲メ田原灣ニ比シ淡水ニ依ル變化少ナク比較的比重ノ高キヲ示スモノ、如シ、又灣内ニ棲息生物モ其種類ヲ増シ殊ニ外海近クニ棲息スル生物アルヲ見タリ、灣内漁業トシテハ釣漁業其他貝藻類ノ採捕ヲ主トスルノミニシテ淺海利用増殖施設上忌ム可キ漁業ナリ

田原灣ニ亞グ理想的淺海増殖場タルベク考察セラル故ニ人工ヲ加ヘ更ニ開拓利用スルニ當リテハ、一層生産ヲ向上セシムル

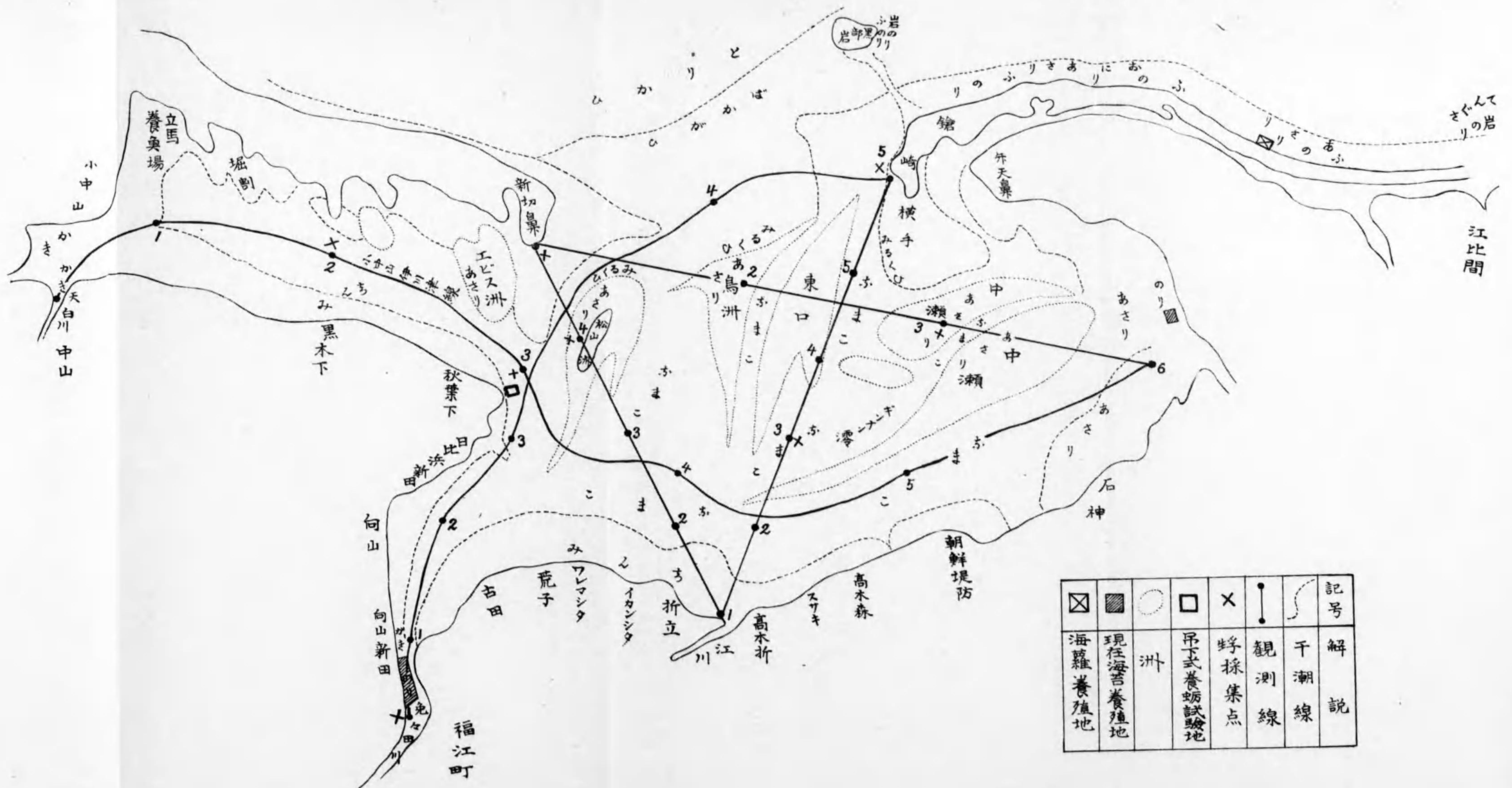
七、海苔増殖試験並調査

一、經濟試験前年度繼承

前年度ニ繼承シ本試験ヲ地子及ビ移殖ノ二様トシ、單位面積當リノ經濟關係ヲ闡明ナラシメントス

(一) 地子試験

- 1、試験場所 伊勢灣奥部海部郡飛島村政成新田東南角南方約距岸百間ノ地點
- 2、底質 砂泥質
- 3、水深及晝間干出日數 海苔増殖期間中滿潮時水深二米三〇内外十一、十二、一月中ハ干出セズ水深一尺以上アリニ、三月乃至四月七旬ハ一潮ニ二日以上干出ス
- 4、試験地面積 三百坪
- 5、附着材料 (イ)種 類 女竹長サ七尺一株三、四本合ス
(ロ)數量及價格 四百十株、六十二圓四十錢、一株十四錢七厘
- 6、建込月日 昭和二年九月二十六日
- 7、建込方法 長サ二十間幅十五間ノ區劃内ニ株間三尺一柵四十一株ヲ北西ノ方向ヨリ東南ノ方向ニ建込ミ柵間九尺、柵數十柵東西ノ五〇間ニ二間ノ潮通シテ設ケ、一反歩四百十株トナシ風波ニヨリ流サル、ヲ防グ爲メ二尺土中ニ挿入且ツ東南方ニ向ケ充分傾斜シ建込ニ要セシ人員九名
- 8、附着時間 附着量及成長度



記号	解説
☒	海羅養殖地
■	現在海苔養殖地
○	洲
□	吊式養蛎試験地
×	採集点
!	観測線
—	干潮線

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

尺
寸
表
長
さ
二
十
四
釐
米
幅
五
釐
米
一
冊
四
十
一
枚
北
西
方
向
ヨ
リ
東
南
方
向
ニ
建
込
ミ
欄
間
九
尺
サ
ル
、
ヲ
防
グ
爲
メ
二
尺
土
中
ニ
挿
入
且

調査月日	海苔ノ長サ	海苔ノ巾	附着量	成	長
十月二十九日	〇、〇六耗—〇、〇六八耗	〇、〇〇六耗—〇、〇三耗	不良	一月上旬ニハ尙成長不良ノ如ク見エタルモ一月下旬ヨリ二月上旬	
十一月二十五日	九八種—一三〇種	一、七種—一七、〇種	同	ニハ極メテ良ク伸長スルニ至レリ	

附着層地上一尺ヨリ上へ四尺迄附着

- 9、摘採日数 第一回摘採昭和三年二月十八日、最終摘採同年四月二十日
- 10、摘採量及抄製数 生海苔十一貫六百匁、製品一千二百十枚
- 11、平均株ノ生産數量 三枚強
- 12、試験地ノ海況

調査月日	水深	氣温	水			比		
			表	中	底	表	中	底
昭和二年九月二十二日	二、〇〇	一九、五	三三、四	三三、三	三三、三	三二、八九	三二、九五	三二、七一
同 九月二十六日	一、五五	三三、八	三三、三	三三、一	三三、二	一九、〇五	一九、〇五	一九、〇五
同 十月十四日	二、三〇	三三、七	二八、〇	一九、二	二八、九	三二、四八	三二、五八	三二、六六
同 十月二十九日	二、六〇		二八、四	一八、九	一八、九	一九、四三	三二、四三	三二、四三

13、増殖中ノ概況 築込込時期ニ就而ハ充分考査ノ上建込ヲナセルモ建込以後海水温度低下セズ加フルニ、ふちつぽ無
 數ニ附着セル爲メ海苔附着ノ不良ヲ見タルハ遺憾トスルモノナリ、然レドモ品質、色澤ニ於テハ前年通り極メテ良好ナ
 リキ、本年度伊勢灣奥部即チ鍋田、飛島、南陽村地先一帶ニ亘リ、地子海苔附着不良ナリキ

14、一反歩當リ收支經濟
 收入 金貳拾六圓六拾五錢

内 譯
 金貳拾四圓貳拾五錢 上海苔 九百七拾枚代
 金貳圓四拾錢 貳百四拾枚代

支出 金壹百參拾六圓拾壹錢九厘

内 譯

- 金拾六圓七拾四錢七厘 器具一ヶ年消耗見積價
- 金拾九圓拾六錢七厘 海苔實一ヶ年消耗見積價
- 金六拾貳圓四拾錢 藻 四百貳拾四株
- 金參拾四圓貳拾錢 人夫賃 男拾九名
- 金參圓六拾錢五厘 雜費

差引 壹百九圓四拾六錢九厘也 欠損

(二)移殖試験

- 1、試験場所 地子試験地ノ東北方、新川、蟹江、兩川合流ノ東側ニテ前年ノ地點
- 2、底 質 泥砂質
- 3、水深及晝間干出日數 地子試験地ト大差ナシ
- 4、試験面積 三百坪
- 5、種 藻 (イ)材料ノ種類 粗朶長サ八尺一株二、三本合セ (ロ)數量及價格 四百拾株壹百貳拾參圓
- 6、種藻產地 三河灣大崎地先
- 7、移殖時期 十一月九日
- 8、建込方法 地子經濟試験ト同様
- 9、附着及成長 移殖當時既ニ肉眼ニテ認メラレ附着モ良好ニシテ附着層、四尺内外ヲ有セリ

調査月日	海苔ノ長サ	海苔ノ巾	摘	要
昭和二年十一月二十五日	六〇釐—八〇釐	一五釐—三〇釐	一月上旬迄成長餘リニ良好トモ見エザリシモ一月下旬ヨリ二月上旬ニ至リ長ク伸長セリ	
同 十二月二十三日	一五五釐—一八〇釐	二〇釐—一六、五釐	一月上旬ニ於ケル海苔ノ根ハ附着力弱カリシモ一月下旬ノ摘採頃ニハ附着力強ク感シタリ	

- 10、摘 採 昭和二年十二月初摘、四月二十日終了
- 11、摘採量及抄製數 壹百參拾五貫五百八拾匁、壹萬四千百貳拾枚
- 12、平均一株ノ生産數 參拾五枚弱
- 13、試験地ノ海況 欠測
- 14、増殖中ノ概要及品質 増殖ノ被害ナク品質色澤共ニ良好ナリ、中作以上ノ收入ヲ示スヲ得タリ
- 15、一反歩當リ收支經濟

收入 金參百參拾五圓貳拾五錢

内 譯

- 金參百貳拾壹圓七拾五錢 上海苔 壹萬貳千八百七拾枚
- 金參圓 中海苔 貳百枚
- 金拾圓五拾錢 下海苔 壹千五拾枚

支出 金貳百拾八圓拾壹錢九厘

内 譯

- 金拾六圓七拾四錢七厘 器具一ヶ年消耗見積價
- 金拾九圓拾六錢七厘 海苔實一ヶ年消耗見積價
- 金壹百貳拾參圓 種子藻 四百拾株代
- 金五拾四圓 人夫賃 男參拾人
- 金壹圓六拾錢 和船二艘借受代
- 金參圓六拾錢五厘 雜費

差引 金壹百拾七圓拾參錢壹厘

純益

二、海苔地子増殖豫備試験(前年度繼承)

(一)趣旨 本試験ハ伊勢灣奥部及知多郡西海岸ニ於テ適當ナル種子場ヲ探究シ以テ種苗ノ自給自足ヲ圖リ而シテ漸次ニ地子増殖場ノ擴張ヲ促進セントス

(二) 試驗概況

試驗地位	位置	月日	進達	見月日	附着	附着層	中下平均海況	發見ニ至ル上	有害物	初摘月日	摘探數量	生產枚數	一株ノ生產
政成新田	東南角ヨリ南へ	十月八日	三、三	十一月二十五日	不良	四尺五寸	三、三	三、三	多シツボ		九、五〇	一、六〇	七、二
政成新田	東南角ヨリ南へ	十月十日	三、〇	十月二十九日	極不良	四尺	三、〇	三、〇	多シツボ		五、〇〇	一、〇〇	四、〇
知多郡	名和地先	十月十三日	三、四	十月二十九日	稍々良	三尺五寸	三、〇	三、〇	附着少シ	昭和三年二月十八日	五、〇〇	三、〇〇	四、〇
荒尾地	先	十月十三日	三、五	十月二十九日	極良	四尺五寸	三、〇	三、〇	同	二月十日	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
太田地	先	十月十三日	三、五	十月二十九日	極良	四尺五寸	三、〇	三、〇	同	二月十日	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
高横須賀	賀	十月十三日	三、五	十月二十九日	極良	四尺五寸	三、〇	三、〇	同	二月十日	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
横須賀	賀	十月十三日	三、五	十月二十九日	極良	四尺五寸	三、〇	三、〇	同	二月十日	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
養父	同	十月十三日	三、五	十月二十九日	稍不良	四尺	三、〇	三、〇	同	二月十日	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
八幡	同	十月十三日	三、五	十月二十九日	良	四尺五寸	三、〇	三、〇	同	二月十日	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
新見	同	十月十三日	三、五	十月二十九日	良	四尺五寸	三、〇	三、〇	同	二月十日	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
古長	同	十月十三日	三、五	十月二十九日	不良	三尺六寸	三、〇	三、〇	同	二月十日	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
大野	同	十月十三日	三、五	十月二十九日	極不良	三尺	三、〇	三、〇	同	二月十日	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇

三、海苔沖合採苗試驗(前年度繼承)

(一) 趣旨 元來伊勢灣奥部ニ於ケル地子海苔ノ附着ハ毎年十月下旬顯微鏡ニテ認ラレ一月中旬乃至一月下旬ニ到ツテ漸ク摘採ノ状態ナリ、然ルニ三河灣ニテハ十一月月上旬ニハ既ニ八糎以上ニ成長シ十二月月上旬ニ摘採ノ現況ニシテ一ヶ月以上ノ遅速ヲ見ルモノデアル、如斯遅速ハ即チ築建ノ初期ニ於テ適當海況ノ襲來遠ク沖合ニアリテ沿岸ニ迄及バズ、從ツテ種子ノ附着並ニ收納ニ遅延アル如ク思考セラレ、依ツテ常ニ適當海況ノ襲來セル處ニ築建入ヲナシ迅速ニ且ツ豐富ナル採苗ヲ圖ラントス

(二) 試驗地

- 1、政成觀測線、六點目 政成新田沖合距岸千百間ノ地點
- 2、政成觀測線、八點目 政成新田沖合距岸千五百四十間ノ地點
- (三) 面積 各壹百五拾坪
- (四) 増殖期間中ノ水深及干出程度 政成觀測線、六點目 滿潮時二米五〇、三月ニ入りテモ干潮時一尺内外ヲ保ツ 八點目 滿潮時三米、三月ニ入りテモ干潮時一尺五寸内外ヲ保ツ
- (五) 底質 何レモ砂泥質
- (六) 適當海水ノ襲來 兩試驗地共築建時期ニ於テ比較的早ク適當海況ノ襲來スル干満ナリ
- (七) 附着材料 築建數量、女竹長サ八尺各四百本
- (八) 築建月日 十月十日
- (九) 築建當時ヨリ附着迄ニ至ル海況

調査月日	試驗地	水深	氣温	水		比		底
				中	底	中	底	
十月十四日	政成六點目	二、五	一五、二	一九、九	一九、七	三、八	三、八	三、〇
同	政成八點目	三、〇	一	二〇、二	一九、七	三、三	三、三	三、〇
十月二十九日	政成六點目	二、五	一	一九、八	一九、九	三、三	三、三	三、五
同	政成八點目	二、四	一	一九、七	一九、七	三、三	三、三	三、五

- (一〇) 附着發見 十月二十九日、兩試驗地共附着ヲ認ム
- (一一) 附着層 兩試驗地共三尺五寸
- (一二) 附着發見當時ノ海苔ノ大サ

調査月日	試験地別	長	サ	巾	備考
十月二十九日	政成線六點目	〇、五八八	〇、〇六九	〇、〇二六	枝條二分ノ間ニ三葉ヲ認ム
	政成線八點目	〇、六六八	〇、二七五	〇、〇二六	枝條九分ノ間ニ五葉ヲ認ム

(一三)経過 建込後二十日ニシテ兩試験地共附着ヲ見而シテ附着量モ良好ニシテ所期ノ目的ヲ達スルヲ得タルモ六點目ノ試験地ハ第二回調査(十一月下旬)ニハ既ニ第一本モ残存ナク拔キ去ラレタルモノ、如ク見當タラザリキ、八點目試験地ノモノニ於テハ之ヲ移植スル管ナリシモ都合ニ依リ現場ノ儘、其成長狀況ヲ見ルコト、シタリ、品質色澤並ニ成長共ニ良好ニシテ二回摘採壹百九拾枚ノ生産ヲ見ルニ至レリ

四、海苔附着材料改良試験(前年度繼承)

- (一)趣旨 近時海苔増殖業ノ勃興ニ伴ヒ、筏材料拂底ヲ告ケ價格モ又從ツテ高騰シ、一面ニ於テハ乾海苔ノ價格年々低下スルノ傾向アリテ海苔増殖發展上最モ憂慮スヘキ事ト思考セラレ、前年度ニ引續キ本年度ハ耐久力ノ強キ、即チ兩三年使用ニ耐ユルモノニシテ保存、取扱ニ便、附着面積ノ比較的大、而シテ廉價ナルノ條件ノモトニ眞竹ヲ細割リシ之レカ試験ニ當タレリ
- (二)使用材料 根周リ七寸五分乃至八寸、長サ三十六尺内外ノモノ五本、一本ノ價壹圓ノ割
- (三)構製 眞竹ハ根元ヨリ六尺ニ切斷シ、ソレヲ四ツ割トナシ更ニ四ツ割ノ一片ヲ九乃至十二、三ニ細ク三尺程迄ニ割リ此割目ノ下部ニ棕櫚繩ヲ銑ミ込ミ、扇子如キ型トセリ
- (四)株數 百八株
- (五)一株ノ價格 平均四錢八厘
- (六)建込場所 海部郡飛島村政成新田沖合距岸五十間ノ地點
- (七)建込月日 十月八日
- (八)附着並ニ附着層 十一月二十五日附着ヲ認ム、二尺八寸ノ附着層アリ
- (九)生産數 貳百貳拾枚
- (十)經過 本材料ハ建込取扱、貯藏等ニ便利ノミナラス廉價ニシテ附着面積多ク、其上附着セル海苔摘採ノ際ニ枝條、竹皮其他夾雜物ノ交ルコトナク撰出ノ手數ヲ要セス製品モ亦佳良ナルモノヲ製造スルヲ得タリ

八、伊勢灣海洋觀測(前年度繼承)

重要貝藻類ノ發生成育ト潮水トノ關係ヲ推知センカ爲メ前年度ニ繼承セリ、觀測線及方法結果ノ概要左ノ如シ

一、沖合橫斷觀測(毎月主トシテ大潮時一回施行)

(イ)日長、四日市線(一哩毎十點表面五米、十米、二十米底觀測)

全線平均	水		四月中旬	五月下旬	六月以降欠測
	比	温			
	重	底表	二四、九	一八、八	
	比	底表	三四、三	三三、〇	

(ロ)日長、掛斐川線(一哩毎七點表面、五米、十米、底觀測)

全線平均	水		四月中旬	五月下旬	六月以降欠測
	比	温			
	重	底表	二四、三	一九、九	
	比	底表	三三、三	三三、二	

(ハ)掛斐川、横須賀線(一哩十一點表面、二米、四米、六米、底觀測)

全線平均	水		四月中旬	五月下旬	六月以降欠測
	比	温			
	重	底表	二二、七	一九、三	
	比	底表	三三、六	一八、五	

ニ、沿岸横断観測(海苔養殖期中毎月主トシテ大潮時施行)

(イ)知多郡沿岸線(天白、大野間十六點半湮毎上、中、下層観測)

全線平均		観測月日		水		比		底	
表	底	表	底	表	底	表	底	表	底
八、三	二、九	八月十六日(舊七月十九日)	八、三	二、九	三、六	三、四	三、七	一、八	二、六
八、八	三、四	八月三十一日(同八月五日)	八、八	三、四	三、〇	二、五	二、七	一、九	二、四
三、六	一、〇	九月十五日(同八月十九日)	三、六	一、〇	二、七	一、九	二、八	三、〇	二、七
九、二	三、八	十月三十一日(同十月六日)	九、二	三、八	三、三	二、八	三、一	二、七	三、〇

(ロ)海部郡沿岸線(約三百米毎十點、上、中、下層観測)

全線平均		観測月日		水		比		底	
表	底	表	底	表	底	表	底	表	底
八、四	二、二	八月三十一日(舊八月五日)	八、四	二、二	二、七	一、九	二、七	二、〇	一、三
九、五	三、七	九月十五日(舊八月十九日)	九、五	三、七	三、〇	二、五	三、〇	二、六	二、三

三、干潟縦断観測(毎月主トシテ朔望兩大潮時施行観測月日中括弧内ハ舊曆月日)

(イ)蟹江線(二百米毎八點表面、中層、底観測)

全線平均		観測月日		水		比		底	
表	底	表	底	表	底	表	底	表	底
六、六	一、五	四月二十日(舊三月十九日)	六、六	一、五	一、五	〇、四	二、三	一、五	〇、八
八、七	二、八	五月十一日(同四月二十日)	八、七	二、八	七、五	二、五	八、〇	二、八	一、九
八、八	三、四	六月四日(同五月五日)	八、八	三、四	一、〇	〇、五	六、八	二、五	一、九
三、〇	〇、六	六月十八日(同五月十九日)	三、〇	〇、六	二、二	〇、七	六、〇	二、四	一、六
七、三	二、三	七月四日(舊六月六日)	七、三	二、三	二、三	〇、六	六、三	二、五	一、八
八、四	三、〇	八月十四日(同七月十七日)	八、四	三、〇	二、五	〇、八	六、四	二、八	二、〇
九、一	三、八	八月二十八日(同八月二日)	九、一	三、八	二、七	一、〇	六、五	三、〇	二、二
三、二	〇、七	九月十二日(同八月十七日)	三、二	〇、七	二、〇	〇、五	六、二	二、七	一、九

十月以降欠測

(ロ)藤高線(四百米毎十一點表面、中層、底観測)

全線平均		観測月日		水		比		底	
表	底	表	底	表	底	表	底	表	底
一、五	〇、七	四月二十日(舊三月十九日)	一、五	〇、七	一、九	〇、八	一、九	〇、七	〇、八
一、六	〇、八	五月二十日(同四月二十日)	一、六	〇、八	二、三	一、三	二、三	一、三	一、三
一、八	一、〇	六月四日(同五月五日)	一、八	一、〇	二、〇	一、〇	二、〇	一、〇	一、〇
二、〇	一、二	六月十八日(同五月十九日)	二、〇	一、二	一、七	〇、七	一、九	〇、七	一、三
二、五	一、七	七月四日(舊六月六日)	二、五	一、七	二、五	一、五	二、五	一、五	二、五
二、六	一、八	八月十四日(同七月十七日)	二、六	一、八	二、六	一、六	二、六	一、六	二、六
二、七	一、九	八月二十八日(同八月二日)	二、七	一、九	二、七	一、七	二、七	一、七	二、七
二、八	二、〇	九月十二日(同八月十七日)	二、八	二、〇	二、八	一、八	二、八	一、八	二、八

十月以降欠測

(ハ)庄内線(四百米毎十一點表面、中層、下層観測)

全線平均		観測月日		水		比		底	
表	底	表	底	表	底	表	底	表	底
一、五	〇、六	四月二十日(舊三月十九日)	一、五	〇、六	一、七	〇、九	一、七	〇、九	〇、九
一、七	〇、八	五月十九日(同四月十九日)	一、七	〇、八	一、七	〇、九	一、七	〇、九	〇、九
一、八	一、〇	六月四日(同五月五日)	一、八	一、〇	一、七	〇、八	一、七	〇、八	〇、八
二、〇	一、二	六月十八日(同五月十九日)	二、〇	一、二	一、六	〇、七	一、六	〇、七	〇、七
二、〇	一、二	七月四日(舊六月六日)	二、〇	一、二	二、〇	一、〇	二、〇	一、〇	一、〇
二、一	一、三	八月十四日(同七月十七日)	二、一	一、三	二、一	一、一	二、一	一、一	一、一
二、二	一、四	八月二十八日(同八月二日)	二、二	一、四	二、二	一、二	二、二	一、二	一、二
二、三	一、五	九月十二日(同八月十七日)	二、三	一、五	二、三	一、三	二、三	一、三	一、三

十月以降欠測

(ニ)稻永線(四百米毎十一點表面、中層、底観測)

全線平均		観測月日		水		比		底	
表	底	表	底	表	底	表	底	表	底
一、五	〇、三	四月二十日(舊三月十九日)	一、五	〇、三	二、〇	一、二	二、〇	一、二	一、二

十月以降欠測

月	六月	七月
欠測	欠測	欠測
觀測	八月二十八日(舊八月三日)	九月十二日(同八月十七日)
水溫	二七、八	二六、九
比	二七、六	二六、八
重	一九、三	一六、五

(水)政成線(三百米每十點表面、中層、底觀測)

全線平均

觀測	月	日	表水溫	底水溫	比	重	觀測	月	日	表水溫	底水溫	比	重
四月二十二日(舊三月二十一日)	四月	二十	三三、三	二二、〇	一、一	二〇、三	八月二十九日(舊八月三日)	八月	三	二六、二	二七、七	一、五	一九、五
五月二十日(同四月二十日)	五月	二十	二八、四	一七、八	一、〇	一五、六	九月十三日(同八月十八日)	九月	十三	二五、八	二五、四	〇、四	一三、九
六月	欠測						九月二十二日(同八月二十七日)	九月	二十二	二五、〇	二七、〇	二、〇	一三、七
七月	欠測						十月十四日(同九月十九日)	十月	十四	一九、六	一九、八	二、二	一三、七
八月十五日(同七月十八日)	八月	十五	二五、二	二四、七	〇、五	一三、五							

(一)末廣線(三百米每表面、中層、底觀測)

全線平均

觀測	月	日	表水溫	底水溫	比	重	觀測	月	日	表水溫	底水溫	比	重
八月十五日(舊七月十八日)	八月	十五	二五、三	二五、一	〇、二	三、三	九月十三日(舊八月十八日)	九月	十三	二四、五	二五、一	〇、六	二〇、六
八月二十九日(同八月三日)	八月	二十九	二七、九	二五、八	二、一	二、六							

(二)末廣前線(三百米每表面、中層、底觀測)

全線平均

觀測	月	日	表水溫	底水溫	比	重	觀測	月	日	表水溫	底水溫	比	重
八月十六日(舊七月十九日)	八月	十六	二六、五	二五、四	一、一	三、六	九月十三日(舊八月十八日)	九月	十三	二五、二	二五、三	〇、一	二三、九
八月二十九日(同八月三日)	八月	二十九	二六、三	二六、二	〇、一	二、三	九月二十二日(同八月二十七日)	九月	二十二	二四、一	二五、六	一、五	一八、七

四、沖合横斷觀測線上ニ於ケル水溫比重最高最低表

月別	観測線		掛菱川		横須賀線		掛菱川		日長線		日長		四日市	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
五月	三三、八	一一、〇	三三、四	三三、七	三三、四	三三、七	二四、七	二四、七	二四、〇	二四、〇	二六、二	一〇、五	二二、二	一〇、五
四月	三三、八	一一、〇	三三、四	三三、七	三三、四	三三、七	二四、七	二四、七	二四、〇	二四、〇	二六、二	一〇、五	二二、二	一〇、五
五月	三三、三	一七、三	三三、一	三三、九	三三、一	三三、九	二四、七	二四、七	二四、〇	二四、〇	二六、二	一〇、五	二二、二	一〇、五

五、干潟縦斷觀測線上ニ於ケル水溫比重最高最低表(其ノ一)

六月以降欠測

月別	観測線		政成線		末廣		末廣		前線	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
四月	三三、六	二一、七	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三
五月	三三、六	二一、七	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三
六月	欠測		二六、九	二六、九	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
七月	欠測		三三、九	三三、九	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
八月	欠測		三三、三	三三、三	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
九月	欠測		三〇、〇	三〇、〇	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
十月	欠測		二七、五	二七、五	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測

六、干潟縦断観測線上ニ於ケル水温比重最高最低表(其ノ二)

月別	観測線		蟹江線		水原線		高比線		庄内線		稲水線	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
九月	二七、八	二二、〇	二〇、七	一三、六	二七、六	二五、五	一九、二	一四、九	二六、八	二五、〇	二七、四	二四、八
八月	二七、七	二二、一	二〇、七	一三、五	二七、五	二五、五	一九、二	一四、八	二六、八	二五、〇	二七、四	二四、八
七月	二七、七	二二、一	二〇、七	一三、五	二七、五	二五、五	一九、二	一四、八	二六、八	二五、〇	二七、四	二四、八
六月	二七、〇	二一、二	一九、〇	一三、二	二六、九	二四、九	一八、七	一四、五	二六、七	二四、八	二七、三	二四、七
五月	二七、〇	二一、二	一九、〇	一三、二	二六、九	二四、九	一八、七	一四、五	二六、七	二四、八	二七、三	二四、七
四月	二七、〇	二一、二	一九、〇	一三、二	二六、九	二四、九	一八、七	一四、五	二六、七	二四、八	二七、三	二四、七
三月	二七、〇	二一、二	一九、〇	一三、二	二六、九	二四、九	一八、七	一四、五	二六、七	二四、八	二七、三	二四、七
二月	二七、〇	二一、二	一九、〇	一三、二	二六、九	二四、九	一八、七	一四、五	二六、七	二四、八	二七、三	二四、七
一月	二七、〇	二一、二	一九、〇	一三、二	二六、九	二四、九	一八、七	一四、五	二六、七	二四、八	二七、三	二四、七

七、沿岸横断観測線上ニ於ケル水温比重最高最低表

月別	観測線		知多郡沿岸線		飛鳥沿岸線	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低
十月	二七、〇	二一、二	一九、〇	一三、二	二六、九	二四、九
九月	二七、〇	二一、二	一九、〇	一三、二	二六、九	二四、九
八月	二七、〇	二一、二	一九、〇	一三、二	二六、九	二四、九
七月	二七、〇	二一、二	一九、〇	一三、二	二六、九	二四、九
六月	二七、〇	二一、二	一九、〇	一三、二	二六、九	二四、九
五月	二七、〇	二一、二	一九、〇	一三、二	二六、九	二四、九
四月	二七、〇	二一、二	一九、〇	一三、二	二六、九	二四、九
三月	二七、〇	二一、二	一九、〇	一三、二	二六、九	二四、九
二月	二七、〇	二一、二	一九、〇	一三、二	二六、九	二四、九
一月	二七、〇	二一、二	一九、〇	一三、二	二六、九	二四、九

十一月以降欠測

(附) 一、伊勢灣浮游生物調査

(イ) 稻永、庄内、藤高ノ三線ニ於ケル浮游生物
 春季 纖毛虫類シツタロシエルスエイレンベルヂイハ三線共分布多ク特ニ各観測線ノ六點目ヨリ十一點ノ附近一帯ニ多シ
 次ニ硅藻類ニ於テハコスシノデスクス、レクモホラフラベラタ等代表的ニシテ普通撈脚類並幼虫類出現ス

夏季 出現多キモノスケルトネマコスタ、ム、キートセラス、纖毛虫類ノクチルカ、被囊類バクテリアストラムバリانس
 以上ニシテ、普通出現ノモノハデ、リウムブリツテイウイリイ、タラシオトリツクス腹足類ノ幼虫ビツタルファイア等ハ秋

季近ク出現シ、六、七兩月ハ撈脚類グイナルデアセラチウムフーサス纖毛虫類ヲ一般ノトス
 秋季 三線共特ニ出現多キモノヲ見ス、普通出現ノモノ纖毛虫類ノチンチノビシエス撈脚類以上トス

(ロ) 政成、末廣、兩線ニ於ケル浮游生物
 春季 出現最多ノモノナク普通ナルモノ纖毛虫類シツタルシエルスエイレンベルヂイ、チンチノビシエス、撈脚類並幼虫
 硅藻類ノレクモホラヘビタアタ以上トス

夏季 最多バクテリアストラムバリانس、キートセラス、撈脚類ニシテ普通出現ハデ、リウムブリツテイウイリイ、
 コツコナイス、バクテリアストラムデリカチユラム、デメボダゾイア、撈脚類ノ幼虫トス

秋季 出現多キモノキートセラス、セラチウム、撈脚類ニシテバクテリアストラムバリانس、コスシノデスクス介類
 ノ幼虫等普通ニ出現ス

(ハ) 知多郡沿岸ニ於ケル浮游生物
 夏季 キートセラス撈脚類及幼虫、介類ノ幼虫等、出現最多ニシテデ、リウムブリツテイウイリイ腹足類以上ヲ普通出現
 トス

秋季 出現最多ナルモノ纖毛虫類シツタロシエルスエイレンベルヂイ撈脚類並幼虫、介殼類ヘ幼虫以上ニシテセラチウ
 ム類ヲ普通出現トス

二、日長、四日市間沖合横断観測

横断観測全線中採集點ハ左ノ九ヶ所ニシテ観測期間四、五、兩月
 知多郡養父新田地先——名古屋西突堤間中間
 西突堤附近
 西突堤ヨリ木曾川立標ノ中間
 木曾川立標附近

揖斐川立標附近

揖斐川立標——日長間

日長——四日市港間

第一回観測 四月十二、三日

最多出現 硅藻類中コスシノデスクスニシテ政成線沖合附近ニ分布多ク他ノ密集的ノ存在ニ遭遇セス、動物性浮トシテハ撓脚類ノ分布多ク主トシテ木曾川ヨリ内部ニ多シ、普通出現ハ硅藻類ノリゾソレニア撓脚類ノ幼虫レクモホラ等トス

第二回観測 五月二十八、九日

最多出現 スケレトネマコスタ、ム、ニツチロセリアタ、キートセラ、以上ハ廣汎ナル區域ニ亘リ分布シ、極部のニハ撓脚類ノクチルカ被囊類等存在ス、又普通出現スルモノハタランオトリツクス、シツタロシエルスエイレンベルサイ介殼類ノ幼虫、撓脚類ノ幼虫等トス

三、三河灣浮游生物概況

調査月日 昭和二年九月

出現最多ナルモノ リゾソレニア、バクテリアストラムハリアンズ、二枚貝ノ幼虫、介甲類ノ仔虫

出現多キモ通出キートセラ、セラチウムフーサス、撓脚類ビリテニウム、ヘミアラーズ

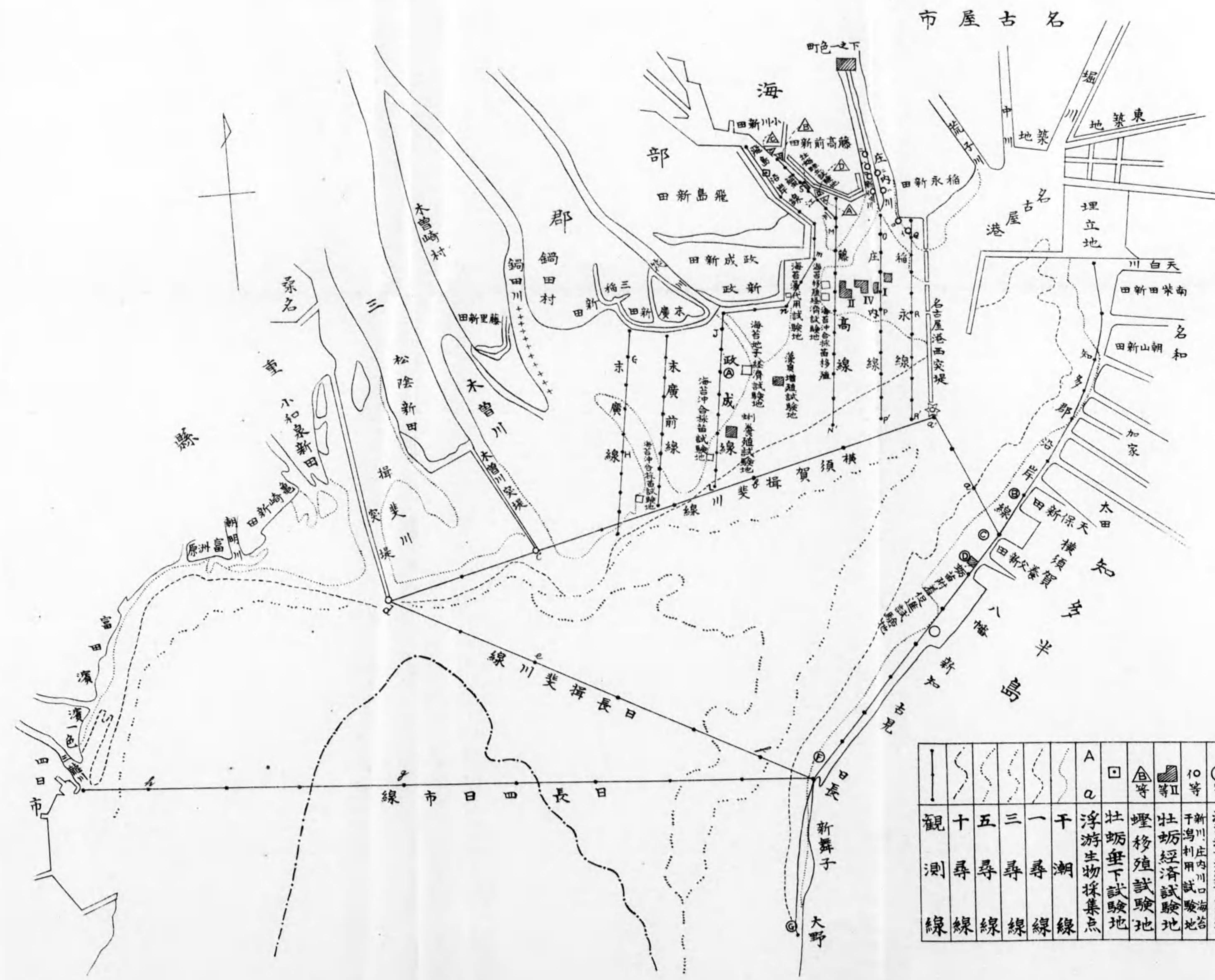
普通出現 タラシオトリツクス、ビツダルフイア、グトナルデイア、セラチウム

稀 デ、リウムブリツテウイリイ、ニツチヤセリアタ、ステファノビクシス、コレスロン、ノクチルカ、パラナスアンヒトレイトクラドシエラ、腹足類以上トス

第六、昭和二年 經費決算表

(△印減額)

試驗調查地位置略圖 (淺海利用研究)
(伊勢湾)



I	〰	〰	〰	〰	A	□	△等	■等II	10等	⊙等	記號
觀測線	十尋線	五尋線	三尋線	一尋線	干潮線	浮游生物採集点	牡蛎墾下試驗地	蛭移殖試驗地	牡蛎經濟試驗地	干島利用試驗地	海苔地子増殖豫備試驗地
											解説

出現多キモ通出キートセラス、セラチウムフーサス、機脚類ピリテニウム、ヘミアラリス
普通出現 タラシオトリツクス、ピツダルフイア、グトナルデイア、セラチウム
稀 デ、リウムブリツテウイリイ、ニツチヤセリアタ、ステファノビクシス、コレスロン、ノクチルカ、バラナスアンヒ
トレイトクラドシエラ、腹足類以上トス

經常部

科目	決定額	流用増減額	計額	翌年度へ繰越額	豫算使用済額	残高
勸業	20,889,000		20,889,000		20,889,000	3,918,340
水産試験場費	20,889,000		20,889,000		20,889,000	3,918,340
俸給	3,500,000	△2,288,000	1,212,000		1,212,000	593,400
技師	9,000,000	△2,348,000	6,652,000		6,652,000	486,090
技手下職員給	3,900,000	△500,000	3,400,000		3,400,000	107,350
雑備給	2,500,000	△2,988,000	400,000		400,000	1,394,200
諸徒備當	3,000,000		3,000,000		3,000,000	488,700
生徒漁獲配當	300,000		300,000		300,000	100,000
乗組員漁獲配當	2,200,000		2,200,000		2,200,000	75,200
旅費	8,500,000		8,500,000		8,500,000	1,370,000
賄費	600,000		600,000		600,000	368,000
被服費	800,000		800,000		800,000	7,000
惠給金	1,000,000	△3,390,000	2,390,000		2,390,000	1,000
死亡給與	1,000,000		1,000,000		1,000,000	
場品費	4,700,000	△6,000	4,694,000		4,694,000	2,441,250
備品費	2,150,000		2,150,000		2,150,000	89,230
消耗品費	2,600,000		2,600,000		2,600,000	41,280
圖書印刷費	1,000,000		1,000,000		1,000,000	45,250
通信運搬費	2,630,000		2,630,000		2,630,000	30,450
原通料費	1,750,000		1,750,000		1,750,000	51,250

科目	決定額	流用増減額	計	翌年度へ繰越額	豫算使用済額	残高
借家料	100,000		100,000		100,000	—
借器料	100,000		100,000		—	100,000
借地料	100,000		100,000		—	100,000
借告料	100,000		100,000		—	100,000
雜費	100,000	△	100,000		—	100,000
修繕費	100,000		100,000		—	100,000
通常費	100,000		100,000		—	100,000
試驗費	100,000		100,000		—	100,000
種蠶養成費	100,000		100,000		—	100,000
賣却費	100,000		100,000		—	100,000

臨時部

科目	決定額	流用増減額	計	翌年度へ繰越額	豫算使用済額	残高
勸業費	300,000		300,000		—	—
水産試驗場費	300,000		300,000		—	—
河川魚族増殖施設費	300,000		300,000		—	—

14.2
45_v

終